

平成21年 第43回

中学生の 『税についての作文』 作品集

第34集



- 主催: 全国納税貯蓄組合連合会、国税庁
- 後援: (財) 日本税務協会、(財) 大蔵財務協会、日本税理士会連合会

平成21年 第43回

中学生の 『税についての作文』

作品集

第34集

目次

内閣総理大臣賞	金子康夏……………	受賞作文	支える税金 支え合うこと 今の若者たちに願うこと 快適！エコなPay-It- お金のバリアフリー 税に感謝の気持ちを 税金よ、ありがとう。 税金のむだ遣いをしない！今、私たちがすべきこと 私たちの生活と税金 身近な税金 税を納めるということ 私たちが支える税 生きた税金の使い方 税が担う役割 税金に守られて 税が守るもの 日本人であること 母の納める法人税 税で潤う社会 税金の使い方 感謝の気持ちで 世界の中の日本 税金のありがたさを感じた時 「納税の義務」について考えたこと 確かな未来のために 私達の大切な税 税金へ感謝 大雨と税金 税から伝わる心	下坂朋子……………14 別府聖香……………15 武田有里……………15 木村啓悟……………16 高瀬雄太郎……………16 津田有可子……………17 飯嶋彩季……………17 稲原純……………18 角間萌美……………18 鈴木友佳子……………19 近澤佳南……………20 中村有希……………20 森泉菜々……………21 倉田孝幸……………21 田中玖美……………22 板東歩実……………22 白井エリナ……………23 樋口彩花……………23 津田洋之介……………24 高井駿希……………24 安部優希……………25 安田花織……………25 西川なつみ……………26 藤本智萌……………26 藤田知美……………27 高橋芹奈……………28 松田八重佳……………28 藤吉彩……………29 原口瞳……………29
税金について考えたこと	金子康夏……………	受賞作文		
総務大臣賞	池本夢実……………	受賞作文		
財務大臣賞	江角悠……………	受賞作文		
税金は、僕の夢の応援者	木田夕葉……………	受賞作文		
文部科学大臣奨励賞	中村なつみ……………	受賞作文		
「二枚の写真」が見せてくれたもの	石岡菜奈……………	受賞作文		
国税庁長官賞	泉美沙希……………	受賞作文		
幸せの輪	佐藤遼……………	受賞作文		
税金の有効活用について	福原祥子……………	受賞作文		
税の重さ	永野彩……………	受賞作文		
祖父の命を助けた税金	今井理子……………	受賞作文		
「元会長」の黒い看板	内田瑛美……………	受賞作文		
税と生きる	小林結梨……………	受賞作文		
暮らしを支える税と私	中條彩花……………	受賞作文		
税について思うこと	小出紗耶加……………	受賞作文		
税のもう一つの姿を知って	中山諒一郎……………	受賞作文		
税金の大切さ	三宅一成……………	受賞作文		
税金の有り難さ				
学びの中の税				
税金の使い道と徴収				

幸せの礎	今井 莉穂	30
税について	宮崎 楓	30
日本国民へ、日本国民より。	田島 莉子	31
笑顔の税金	肥後 杏寿	31
税の支え	吉田 早希	32
橋にかける思い	浜川 綾	32

全国納税貯蓄組合連合会会長賞

受賞作文

税のありがたさ	佐藤 てまり	33
税を支える明るい未来	奥 裕香	34
完納の精神―今のぼくにできること	伊達 一勢	34
私たちと税金	川上 真弘	35
支えられ支えていく私達の税金	大澤 佳那子	35
昨日の五円は今日の笑み	伊藤 太陽	36
税金く支え合う心がつくる最大の笑顔く	斉藤 笑夏	36
希望のつばさ	坂本 裕大	37
豊かな暮らしと税金	小川 勝己	37
税金なくとも大丈夫？	小澤 晶徳	38
私と税金、みんなと税金	高橋 佳那	39
未来の鍵	助川 真菜	39
エコと税金	須田 詩織	40
五円のため	長澤 美歴	40
皆のために	中谷 明穂	41
私たちの身近な税金	石田 由衣	41
誰かの税が妹を救った	川越 れおな	42
少子高齢化をくい止める。	小林 優輝	42
未来への貯金	斉藤 優佳子	43
税金と水の大切さ	佐々木 文哉	43
税の使い方	齋藤 峻	44

税金の大切さ―夢の実現を通して―	小原 あい	45
なくてはならない税金	大畑 美晴	45
税について	水島 卓也	46
未来へのバトン	沼 采伽	46
税金の姿	吉田 智夏	47
税の大切さ	藤田 有里	47
「税」を知ること	吉岡 志栞	48
税についての作文―ふるさと納税	柳原 千明	48
税について	黒田 彩貴	49
身近に生きる税	前田 百瑛	49
幸せを願って	片桐 麻衣	50
命の税金	横手 柚乃	50
身近な税金	鬼木 大地	51
身近な税について	山本 舞香	51
ぼくらの大切な税金	奥村 亜佳音	52
よりよい私たちの暮らし	安川 幸輝	52
安心な社会を目指す消費税	田村 まりや	53
暮らしに身近な税金	福井 勇人	53
みんなのために「税金」	弘瀬 あと	54
税について	高尾 純奈	54
島原復興と税とのかかわり	小溝 遥香	55
税金って？	高見 幸希	56
私の願い	本山 由佳	56
税のおかげ	福山 亜衣里	57
私たちの暮らしと税	中西 紗洋美	57
	新垣 聖也	58

財団法人日本税務協会会長賞

受賞作文

税金が教えてくれるもの	蔵田和真	58
税金という大きな盾	黒木未央	59
税金の役割と今後のあり方	渡辺葵	59
支え合う社会	山崎優樹	60
病気になっても怖くない	松本みのり	60
税について知ること	小鹿夢帆	61
税の行方	深澤哲也	62
税を知って、思うこと	鋤崎有里	62
税を支える豊かな暮らし	北浦万澄	63
税金パズル	日下部好芽	63
税と私と暮らし	中村友佳	64
身近なところから	知花あかね	64

財団法人大蔵財務協会理事長賞

受賞作文

伝えよう、税の大切さ	藤田栞奈	65
税金の使われ方	菊地晴香	65
私の暮らしと税	荒木沙綾	66
税への感謝	福田和暉	66
安心を支える税制度	戸谷佳奈枝	67
税とモラル	山崎圭哉	67
変身！税がくらしを変える	齊木あきら	68
税が繋ぐ支え合う心	中川秀平	68
笑顔のために	川嶋彩	69
税金は私達を守るもの	竹村絵梨奈	70
感謝の心を忘れずに	飯島幸恵	70
あたり前ではない	北谷友佳里	71
税について	宇田川愛	71

私の大好きな街
「身近な税金」

私たちの税

身近に隠れていた税金

祖父の病气から考えたこと

みんなで見つめる未来を

幸せ資金

「税」を知る大切さ

くらしと税金

税金がつなぐ未来への橋

税が正しく使われるために

税について

税金のおかげで

私たちの暮らしを支える税金

私たちにもある、税金を払う義務。

税は社会を動かすエネルギー

税金の大切さ

日本税理士会連合会会長賞

受賞作文

私のいる世界	羽鳥静華	81
税が築くもの	吉田のぼら	81
私達の未来と税	山田紗帆	82
宇宙開発と税	西井奈那	82
支え合う暮らしとこれからの私	太田美佳	83

竹居のぞみ	72
山内悠衣	72
鈴木里彩	73
加古詩織	73
西澤峻	74
山本悠希	74
佐野文音	75
宇野智香	75
清水菜央	76
赤山幸代	76
新山瑠璃	77
篠原睦実	77
吉見小雪	78
木本小牙	78
吉永さくら	79
内田大貴	80
砂川綾伽	80

内閣総理大臣賞 受賞作文

税金について 考えたこと

春日部市立武里中学校

二年 金子 康 夏

図書館の本は食べながら読むべからず。公共のものは、自分のもの以上に大切にすべし。我が家の不文律だ。

しかし私には「公共のもの」の意味がわかっていなかった。「みんなの」が「税金で買われた」を意味すると分かったのは最近だ。それまでは「みんなの」なら「自分のものみたいにしたい」のかと思っていた。それがとてもない間違いだと分かってから、私の税金に対する考えは変わっていった。

例えば、図書館の本も税金で買っていたものだ。本一冊の単価は自分で出せない金額ではない。しかし、私が利用させてもらっている道路も橋も、ごみ処理施設も、学校も、信号も、とても個人のお金でつくることなどかなわない。「ウチの支払っている税金では、信号機の電球一個も買えない」と聞いて、信号機などとても高価だということがわかった。また、税金という形で、皆が少しづつお金を出し合うから、誰もが橋や道路や図書館の恩

恵に浴することが出来ていることもわかった。なるほど、税金とは、すぐれたシステムだったのだとわかった。

しかし、それなのに大人が「税金をとられる」といういい方をするのはなぜだろう。まるで税金を払うのが損でもい wanna ばかりなのは どうしてなのだろう。

そんな時、ある投書を目にした。その方（お年寄り）は、「年をとって、税を払えることを有難いと感じるようになった」と書いていた。「自分はまだ人様のお役に立てている」と、喜びを感じるといふのだ。若いころは税金は「とられる」と感じていたが、年を経て考えが変わってきたのだという。

私はこれを読んで、何かヒントをもらったような気がした。税金を払うことはすなわち、誰かのために役に立てた証でもあるのだ。それは巡り巡って自分にも返ってくるのだ。目先の損得を越え、助け合いながら成り立つ社会、それを支えているのが税金だったのだ。税金を払えることに自然と感謝が湧く。これが本来のあり方なのではないだろうか。もしそれが当たり前の姿になったら、どんなに住みよい社会になるだろう。きっと世界中がまねをしたがるだろう。

これからの日本は、国民が嬉々として税金を払う、お互いへの尊敬と感謝にあふれた社会になってほしい。そのためにはまず国民一人一人が、税金が「皆に恩恵を与えるものである

る」ことをほんやりとではなくはつきりと、理解することが大事ではないだろうか。私のように中学校になるまで知らないというのではなく、小さいうちから教えていく必要があると思う。そして自分が「助け合って生きる社会」の一員であることを理解した子供は、きっと公共のものを大切にする大人に育つだろう。とりあえず私は小一の妹に私が理解したことを教えていこうと思う。

総務大臣賞

受賞作文

スクールバス

川根本町立本川根中学校

一年 池本 夢 実

人口八千人の山間地、川根本町に住む私は夕方5kmのマラソンコースを走るのが日課だ。道ゆく人に「こんばんは。」と挨拶をする。横断歩道で立往生しているお婆さんの手を引いて一緒に渡る。「ありがとう。」とお婆さんこちらこそと頭を下げ、又走る。納税者であるみんなの恩恵をうけて成り立っている私の毎日。あるきっかけがあつてそう思う様になってから、挨拶や親切が自然と出来る様になった。そのきっかけは小学4年生の秋だった。

「この地区にスクールバスが通るかもしれないよ。」帰宅した父が言った。

私と兄は思わずバンザイした。私の家は学校から遠く離れた山の中にあり、車の送迎なしに通学出来なかった。両親が働いているので公民館の軒先や駅で帰りを待つのは本当に心細かった。これですぐ家に帰れるし父も母も安心して働ける。しかし母は「たった二人の為にみんなの税金を使ってもいいのかな。」と顔を曇らせた。この時初めてみんなが納めた税金によって私達の様々な生活環境が整えられ、学校教育も受けられるのだと両親から教わった。

父と母は役場職員だ。少子高齢化の著しい川根本町では生活に不安を抱える高齢者も多い。私の地区で小学生は私と兄の二人だけ。スクールバスは一台四百万円。すでにバスが走っている地区と合わせると年間経費は二十万円を超えらるのだそう。自分の子供には安全に通学してほしい。でもこの町の人にはきちんを納税している人が多いから公平に使ってほしい。」と母。私と兄への思いと町民への思いの間で葛藤していた。「断るの?」と聞くと「それは議会で決めてくれるから。」と父が言った。大切な税金。だから最適な運用が出来る様町の議会で話し合うのだと父は教えてくれた。

一ヶ月後、議会でスクールバスの事が検討され可決されたと聞き、口で表せない位感謝の気持ちがいっぱい上がった。この町の大人が子供の事をどんな

に大切にしてくれているかが伝わってきた。今までそれに気づかず当たり前のように学校教材を使い、地域の行事を楽しんでいたが、みんな納税者のお陰だ。少しでも恩返し出来る様、スクールバスによって通学が楽になった分、勉強や運動に力を注ぎ、いつか川根本町に貢献したいと思った。

あれから3年、その思いはいつも私の心の中にある。最初は私と兄だけを乗せていたスクールバスは買物や病院に行く高齢者も乗れる様になった。両親共働きの小学生を預かる放課後児童クラブも始まった。税金がより多くの人に還元されている事をうれしく思う。税金を払っているのだからサービスは受けて当然という声も耳にするが、その気持ちを感謝の気持ちに切り換える事で税金は更に有効に生かされると私は思う。両親が教えてくれた納税者への感謝の心とそれを大切に工夫して使っていく努力の心を未来を担う私たちが引き継ぎ実践していかなければならないと思う。

財務大臣賞

受賞作文

税金は、 僕の夢の応援者

つくば市立竹園東中学校

二年 江角

悠

僕は、日本と日本の文化を世界に伝え、世界中に友達の輪を広げたいという夢がある。僕はこれまで、ロシアとアメリカにホームステイに行った。我が家にも、ロシア、インドネシア、ラオス、ベトナムなど多くの中学生や高校生、留学生を受け入れた。それまではただの異国でしかなかった国々が、
○○君の国、○○さんの国と、大切な人達の住む特別な国となっていった。彼らも、日本は第二の故郷だと言ってくれる。こんな関係を世界中に築く事ができたら、戦争のない平和な世界を實現できると思うからだ。

この夢を実現させるため、僕はこれまで、日本の歴史と他の言語の学習に力を入れてきた。しかし、彼らとの交流を通して、それ以外にも、とても重要なことがあると気付いた。それは、税金である。彼らが語る自国の状況や、彼らの国々に対する日本の貢献ぶりを知り、僕が今まで当たり前だと思っていた日本の生活が、実はとても恵まれ

た環境である事に気付いた。そして、その豊かな暮らしを支える基盤である教育、医療、福祉、交通といった様々な公共のサービスは、全て税金で成り立っている事に気付いたからである。

世界には、校舎が無く、雨風にさらされる青空教育で学ぶ国、災害や紛争によって、日々の安全な生活さえおびやかされ、教育システム自体がまひしている国、学校制度はあっても、児童労働力として働かされ、教育の機会が保障されていない国等、現実にこのような国々が多数存在している。一方、僕の通う中学は、耐震強度の面から、今年の春に建て替えられた。新校舎は、全教室冷暖房完備で、一年中快適な学校生活が保障されている。これも全て税金のお陰だとありがたく感じた。

我が家にホームステイしたゲストの中には、日本が行っている支援活動に対して、感謝の言葉を口にする人も多く、日本を誇らしく思った。同時に、彼らの国の役人による汚職や国民の脱税の横行を嘆く声を聞き、教育、勤労納税という三大義務を果たす、日本国民の誠実さも、素晴らしい国民性だと感じた。

僕はこれまで、税金は少なければ少ない程よく、消費税等の負担が軽くなれば、国民の生活は楽になり、豊かになるだろうと思っていた。しかし、十分な財源、税金が無ければ、私達の安全で快適な生活は、維持できない。そ

の事を一人一人がきちんと自覚し、適正に税金を納める必要性と重要性を理解し、納税する義務を果たすべきだと考える様になった。

僕はこれまで、自分の夢と税金は、遠くかけ離れた、異質のもののように感じていた。しかし、僕の夢をかなえるための教育を保障し、僕の友人達の国々を支援する活動が、税金によってなされている事に気付き、税金は僕の夢の応援者だと感じる様になった。大人になっても、感謝の気持ちと責任感を持ち続けて、この応援者と、向き合っていきたいと思う。

文部科学大臣奨励賞

受賞作文

「二枚の写真」が見せてくれたもの

鹿児島市立鹿児島玉龍中学校

一年 木田 夕菜

ここに二枚の写真がある。それは市内の繁華街の同じ場所を写した二枚の写真である。一枚の写真には、歩道の道幅いっぱい自転車並べられ、道の真ん中にある点字ブロックもほとんど自転車の下に隠されている。もう一枚の写真は、歩道には一台の自転車もなく、そこを歩く人たちもゆとりを

もって歩いている様子が写っている。「最近、天文館が歩きやすくなったね。」

父の言葉に私ははっとした。五年ぐらい前のことだった。買い物に出かけた私は、道路に無秩序に並べられた自転車に足をとられて転び、大きな擦り傷をつくり、何も買わずに、あわてて家に帰ったことを思い出したのだ。

それがいつの間にか、歩道をうめつくしていた自転車が全くなくなっていくのだ。不思議に思った私は父の助言もあり、市役所に問い合わせしてみた。すると、市役所の方は二枚の写真を渡しながらか、次のような話をしてくだ

さったのだ。

数年前まで、市の中心地「天文館」では、自転車の放置に悩まされていた。歩道という歩道に自転車が並べられ、人々の通行の妨げになるばかりではなく、車いすや視覚障害者の方々にとっては危険を感じることも多かったという。そこで、町の景観を改善するためにも、自転車の駐輪禁止区域を定める一方で、公営の駐輪場を設置し、違法駐車を一掃するようにしたのだという。しかし、それは決して簡単ではなく、まずは違法駐車の自転車一台一台に、それを知らせる紙を貼り、注意を促すことから始めたのだという。そう言えば、今でも、黄色いキャップとジャンパーを着た方々が放置自転車を丁寧に調べていく様子を見かける。おかげで天文館は今では誰もが過ごしやすい環

境へと劇的に変わってきている。

市役所の方に「こんなに変わるなんて、すごいですね。」と言うと、にっこり笑ってこう言われたのだ。

「これらの施策も市民の皆さんからいただいた税金のおかげで成り立っています。だからこそ、ちゃんと鹿児島市が良くなったと言われるようにしなくてはなりませんからね。」

税の働き、社会科ではこれまでも学習してきた言葉だが、正直、私にとつてあまり身近に感じられたことはなかった。しかし実は、日々の私達のくらしとこんなにも密接に関わっていたことに私は気付かされた。

私達が健康でそして安全で住みよいくらしをしていくためには、市民としての私達の意識や思い、行政の働き、そしてそれを支える税金のどれが欠けてもダメなのだ。自分たちの町を良くしていくのは、誰かまかせではなく、一人一人がよりよい町づくりに興味を持ち、意識を高めていくことが必要なのだ。

目の前の二枚の写真が見せてくれたもの。それは、私達の手でつくるよりよい未来の予想図なのかもしれない。

国税庁長官賞

受賞作文

幸せの輪

札幌市立屯田北中学校

三年 中村 なつみ

私の夢は、児童養護施設で働くことです。「児童養護施設」とは、一般的に様々な理由で親に育ててもらえないでできない二歳から十八歳までの子ども達が暮らす施設のことです。ちなみに、〇歳から二歳未満の子ども達が暮らす施設を「乳児院」といいます。

私は、あるドラマを観て初めて児童養護施設というものを知りました。初めて、親からの愛情を受けずに育っている子ども達の辛さを知りました。そして、施設の子ども達にたくさん幸せを感じてほしいと心から思いました。私がこの夢を持って疑問に思ったことがあります。それは、この施設にかかる費用は一体誰が賄っているのか、ということなんです。調べてみると、都道府県から二分の一、国から二分の一の割合で措置費（税金）によって運営されていることが分かりました。しかし、児童養護施設や乳児院は事業として収益を得ることができないし、国や都道府県からの税金は食事や衣服など生活に必要なものに使われる為、例えば古

くなった施設があっても改築することが出来なかったり、中高生に部活動をさせることが出来なかったりといった現状があり、ホームページなどで寄付を求める施設が多くありました。また、実際に最近まで乳児院で働いていた方に現状を伺うと、やはり職員の給料から乳児の食事やおむつまで全てを税金で賄っているそうです。かかる費用が増えて、職員数や入所する子ども数の数を減らしたこともあったといいます。

私は児童養護施設や乳児院の現状を知って、税金をもっとこのような施設のために使うべきだと思いました。施設で暮らす子ども達は決して特別なのではなく、どんな子どももいつ施設にお世話になるか分からないのです。私達はみんなそれぞれ違う心を持っています。例えば、部活動をやりたいという人もいればそうではない人もいます。衣服にしても、少し値段の高いものをほしが人もいれば少し値段の安いものをほしが人もいます。このように、百人百様であるたくさんの子ども達が施設という一つ屋根の下で生活しているのです。

施設の子ども達が、親と共に暮らしている子どもと少しでも同じように暮らしていけるように、税金の使い道をもう一度考えてほしいです。また、それぞれの施設の一人ひとりの子ども達の笑顔のためにしっかりと税を納めてほしいと思います。親と共に生活をしている子どもも、そうではない子どもも

みんな幸せに生きる権利がありそれを望んでいるはずです。どんな環境にいても子ども達みんなが「幸せの輪」にはいれる日が来ることを強く願っています。

税金の有効活用について

札幌市立厚別北中学校

三年 石岡 菜奈

母が朝から又文句と言っている。「この紙はまだきれいなんだから燃えるゴミの中に入れて雑ガミに分類してね！」

七月、私の住む札幌はゴミの分別ルールが大幅に変更し、かなり細かい分別が必要になり、又ゴミを出す日も毎日表を見ないと覚えられない位になった。私は、初めこのゴミ出しルールがとても面倒で何故ここまで細かく分別しなければならぬのか疑問に思っていた。しかしある日、週二回ある燃えるゴミの日に出すべきゴミ袋が玄関先のない事に気づいた。母に聞くと、これまで燃えるゴミとされていた大半の紙類が資源ゴミになり、又我が家では生ゴミをコンポストに入れるようになった為毎回大きなビニール袋にいっぱいだった燃えるゴミが、週に一回それも小さな袋で済むようになった。という事だった。私はびっくりした。

たった一軒でさえこんなにもゴミを少なくできるのなら、札幌市全体でどれだけのムダが省けるのだろう。当然の事ながら今までのゴミの焼却は全て税金でまかなわれているものだった。

それが、市民一人一人が少しずつ負担しながら公平に分配されるようになった事もすごいと思う。札幌のみならず日本全体では公共のサービス、福祉、教育全てが国民の税金でまかなわれている。そしてそのサービスを享受する事は当然のように思ってきた。しかしこの都市でも財政難が叫ばれ、実際に北海道では夕張市のように財政破綻してしまった市もあり、赤字を出し続けている街も多くあると聞く。人ごとのように聞いていたが、これから少子化の時代において税収入が確実に減っていく中で、今までと同じようなサービスを当然の様に受ける事ができるかどうかを考えるとそれは疑問だ。収入が増えないとなると、あとは今ある税金をいかにうまく使っていくかどうかという事になる。今私が習っている公民の授業では教科書の憲法の中にしっかりと「納税の義務」が刻み込まれている。中学生の私はまだ税金を払う義務をおってはいないが、国民としてその権利を少しでも果たそうとするならばその税金を無駄のないように大切に使うべきだと思う。ゴミを出すというほんの小さい事でさえそれが可能なのだ。きつとその他にも買った物を大切に長く使う事であるとかリサイクルをする

事等一人一人の力は小さくともそれが大きな輪になり国民全体が意識を高めていけば税金を今よりもずっと有効に使っていきけるのではないだろうか。無駄に使っていた税金をもっと恵まれない人、病気の人の、福祉に使っていくことができれば日本全体がもっと幸せになれるに違いない。私はこの夏、ゴミを出すというほんのささいな事からとても大きな事を学んだ気がする。これから先、私は税金のあり方というものをもっと色々勉強していきたいと思っている。

税の重さ

潟上市立天王中学校

三年 泉 美沙希

私はテレビの画面を見て思わず言葉の失いました。そこに映るのは、栄養不良によって道の横で倒れている子ども、内紛で両親を失い、学校にも行けず、働く事でしか生き延びる方法がない小さな子どもでした。そして、苦しむ子供たちを見ても顔の表情さえ変えない大人たちがいる現状でした。

これを見て、なんとか貧しい子どもたちの役に立ちたい、少しでもなにかを分けてあげたい、という衝動にかられました。そして、そのことを口にする、母から政府開発援助というのがあることを教わりました。政府開発援助

助というのは、多くの貧しい人々や、飢餓に苦しんでいる深刻な事態に手助けしてくれる役割を果たすものです。経済的に豊かな日本では国民から集めた税金を開発途上の国々に渡し、有効的に使っていることがわかりました。日本が国際社会の中で、他の国と協調したり貢献したりするというのはうれしいことです。自分たちだけが豊かになればいいという国民ははずかしいと思います。私は日本人として誇りをもちました。

私の父は大工をやっています。私は父に政府開発援助のことを聞いてみました。すると父は「大工の世界にも、それに似た活動があるんだよ。家をなくした貧しい子どもたちや、学校がない村や町に建物を寄付してあげることもあるんだ。」と話しました。それを聞いた私は、改めて毎日ちゃんと学校に行くことができて、鉛筆やノート、食べ物があることがすごく幸せなのだと思います。今、普通に生活していることはすばらしく、価値があることなのだと気が付きました。

私はここで、自分の身のまわりの生活や国の豊かさについて考えさせられました。国の税によって私たちに配られる教科書。ちゃんと歩けるまっすぐできれいなまっただな道。安心して薬や治療を受けられる医療施設。みんなで使うための公共施設など、枚挙にいとまない恵まれた環境で私たち日本人は生きています。そして、これらの

ほとんどは税金によって作られているのです。私たちの幸せの根源は税金なのです。しみじみと税金のありがたさを感じました。

あのテレビの中に映っている子供たちは、私たちに助けを求めているようでした。私たちがなげなく送っている生活を少しでもいいから分けてあげするために税金を納めることを嫌だと思っただけなのではないかと思いました。税金にかかる金額はわずかも、その税にはちゃんとした重みがあります。その重みを感じとれる人の役に立てる納税者になりたいと思いました。

祖父の命を助けた税金

酒田市立第五中学校

三年 佐藤 遼

夏休み目の朝、祖父が胸の痛みを訴えて起き上がることができませんでした。私たち家族は、祖父を日本海病院の救急外来に運びました。祖父の額から脂汗が流れ、苦痛で顔が歪んでいました。心臓が心室細動を起こしており、すぐにAEDが使われました。私は、ただ祖父の心臓がもとに戻ることを祈り続けました。幸い、病院の素早く適切な対応で祖父の心臓は、回復しました。

祖父の病状が一段落したとき、父が、「あと少し遅れていたら、おじいちゃ

んは死んでいたかもしれない。近くに大きな病院があつてよかったな。」と言いました。私は、救急外来がなかったら、AEDがなかったら、と考えると、とても恐ろしくなりました。父の話から、公立病院は多くの人の税金によって運営されていること、税金によってお年寄りの医療費の負担が小さいこと、海外だけがや病気をすると、高額な医療費を請求されることなどを知り、私は初めて税金のありがたさを実感しました。

もし、税金がなかったら、病院の設備や医師の数が不足して、助かる命も助からなかったかもしれません。たくさんさんの治療費がかかったかもしれません。独り暮らしのお年寄りの中には、医療費を支払うことが難しい人もいるかもしれません。私は、みんなのためにみんながお金を出し合う税金の仕組みがとてもよくできているなあと思いました。弱い人や貧しい人も健康に生活ができるからです。私は、今まで、買い物をするたびに、消費税がなければいいのにと、消費税が高くなるという報道を見て、嫌だなあと思っていました。でも、祖父の姿を見て、税金について考え直さなければならぬなあと思うようになりました。祖父の命は、多くの人の支えに助けられたと言えるからです。

祖父は、この秋に心臓の手術をすることになりました。一か月ほどの入院になりそうです。病院で父が、障害者

手帳や医療費の補助について説明を受けてきました。心臓病などの高額な医療費がかかる場合、少しでも費用が少なくなるように様々な制度があります。これらも税金によって、支えられている制度であると父から聞きました。

会ったこともない人々が、誰かの命を守るために少しずつお金を出し合つて建てられた病院。一人一人の命を守るためにみんながお金を出し合い運用されている制度。見ず知らずの人々がお互いの幸せのために、まだ見ぬ未来の人々のために出し合つたお金が税金なのだ改めてわかりました。今まで税金について無知だった自分を、とてもはかしく感じました。そして、もっと税金について知つて、社会人としてしっかりと働き、みんなのために税金を納めたいです。そして、お互いに助け合う社会をつくっていききたいです。

「元会長」の黒い看板

福島大学附属中学校

二年 福原 祥子

夏休みに、会津の祖父の家に遊びに行ってきた。祖父と祖母はふたりでお店を営んでいる。多くの品物を扱っているそのお店で、祖母にお茶をいれてもらつて、おしゃべりしながらお店番の手伝いをするのが、ちょっと楽しい。

い。

お店の机の脇で、黒い漆塗りの細長い看板をみつけた。表には「優良青色申告・・・」という金色の文字が長々と並んでいた。祖母に尋ねようとしたら、「それはずっと前からそこに置いてあるの。意味は、『元会長』のおじいちゃんに聞いてちょうだい。」とサラリとかわされてしまった。「元会長」？

夕食の時、祖父にあの黒い看板のことを尋ねてみた。すると祖父は、「商売をしている人が、決められた帳簿をきちんとつけて、その年に納めなければならぬ税金の額を自分で計算して税務署に報告する制度を『青色申告』というんだ。『青』は、正直に税金を申告するクリーンな精神を表すイメージカラーだよ。」と話してくれた。祖父は、その青色申告をしている経営者の団体「アオシン会」の会長を長く務めていたそう。

「申告内容に間違いがあつたり、税金を納めるのが遅れたりしたら、あの看板はもらえなかったな。」と、「元会長」はちょっと胸を張り、ビールを一口おいしそうに飲んだ。隣から祖母が、「まじめに商売を続けてきて、まじめに税金を納めてきた『ごほうび』ってことかしら。」とにつこり。あの黒い看板は、お店の経営者として、また、社会の一員として、長い間納税の義務をきちんと果たしてきた祖父と祖母の誇りの象徴なのだろう。

税と生きる

那須塩原市立三島中学校

三年 永野 彩

祖母は、「税金を納めるときはお金のやりくりが大変だけれど、税金に助けてもらったこともあったのよ。おじいちゃんが心臓の手術を受けた時は、高額医療費の助成制度があつて、入院費の負担が少なくて助かったわ。」と続けた。じつと聞いていた母は、「小中学生の教科書が無料で配られるのも、福島市で小学生までの医療費が無料なものも、税金が使われているおかげなのよね。」と一言。会社員の父も、「会社員に勤めている人は、『源泉徴収』という制度で、毎月の給料から天引きで国や県や市に税金を納めているんだ。」と教えてくれた。

それまで、「納税」を身近に感じたことはあまりなかったけれど、みんながまじめに税金を納めているからこそ、社会の様々な機能がきちんと働いているのだと思う。税金を納めた人自身も確実にその恩恵を受けている、社会を支える大きな助け合いの仕組み。この税金の役割と制度をきちんと理解することが、安心して暮らせる秩序ある社会作りを進める大きな力になるのではないだろうか。

今日もまた、祖父と祖母は、あの黒い看板と一緒に元氣にお店番をしている。

夏……。強い陽射しの中、目にしみる深い木々の緑。風が、緑色の絨毯のような稲の穂を揺らして、波のように渡ってくる。こんな風景を毎日見られることが嬉しく、水と緑と自然の豊かなこの町が、私は大好きなのだが、かつてこの地は不毛の大地だった。

ここ那須野が原は広大な複合扇状地で、雨や川の水は伏流水として地下に潜ってしまい、河原には水がなかった。土地は石ころだらけで、飲み水すらない人々は、四キロも歩いて水をくみに行く毎日だったという。

その土地が百四十年後の現在、多くの農産物が収穫できる豊潤な大地へと変貌したのは、明治十八年に那須疎水が完成したためである。その事業費は当時の予算で十万円。これは、当時の内務省土木局の年間予算の十分の一にあたる金額だったという。言わば、この町は本当に「税」を土台に「税」と開拓者の人々の汗と努力を礎に成り立った町と言えるだろう。そして、その上に、道路、橋、学校、図書館や公民館、警察署、消防署、上下水道等、数多くの公共工事——つまり、「税」の助けを積み重ねて、まちづくりが行われてきたのだ。

現在の日本では、子供達は誰もが平等に学校へ通うことができ、毎年新しい教科書が無償配布してもらえる。これは、税金を教育に使ってくれているためだ。その他にも、科学の振興、社会保障の充実、道路や河川の整備、発展途上国への援助など、税金は幅広く使われている。だから、私たちは、安全で快適な環境の中で生活できるのだと思う。だが、それを当たり前のこととして感謝することがなく、むしろ、まだ足りないという不満を言っている人が多いのではないだろうか。

なぜだろう、どうしたらいいのだろうか。以前私は、税の仕組みを知るために、税務署に行って冊子をいただいたき、ビデオをお借りしたことがある。ビデオは、もし税金がなかったら、という仮想の世界を描いていた。街灯もない、暗く穴だらけの道路。犯罪が起きても助けはなく、火事になっても病人がでても消防車も救急車もきてくれない。ゴミだらけの荒れ果てた町になる、という分かりやすい内容だったので、こういうものを年に一度でも、各小学校で上映するなどして、税について小さい頃から意識を高める必要があると思う。

また、疎水に関していえば、起工式をした場所には記念碑があり、公園の池にも疎水のいろいろな場所にも立て札がある。小学校の校歌の歌詞にも含まれていた。だから、例えば、河川の氾濫によって橋を改修したら、その場

所に、校舎や体育館などが新築し、完成したらそのどこかに、どれほどの尊い税金を使って建てられたものなのか記したり、遺すことはできないのだろうか。

まずは税を知ることが大切だと思う。誰かを支えて、誰かに支えられて、誰もが豊かに幸せに暮らせる世の中にするために——。

暮らしを支える税と私

南牧村立南牧中学校

三年 今井 理子

定価（本体六二九円＋税）。私のお気に入りの単行本の値段に、こう書かれています。それを目にした時、特に何も感じませんでした。きつと見慣れてしまったからでしょう。

私達中学生に一番身近な税は消費税です。親からもらったおこづかいで、自分の好きな本やゲームを買います。勿論中学生なので、お金はさほど持っていないません。そうなると、やはり、ケチな話ですが消費税の存在はうれしくありませんでした。ですがその感情も慣れ消費税に対して何も感じなくなっていました。

そこに私にもう一度税について考えるきっかけがやってきました。この作文です。私は全くと言っていい程、税について無知でした。なので税につい

て調べてみることにしました。

資料を使い調べると私の身の周りに
たくさん税から生まれたものがあり
ました。市と市をつなぐ橋、勉強する
ための教科書、公共サービスや公共施
設。数えきれない程の税から生れたも
の達に驚き、いかに自分が税に支えら
れているのか思い知りました。

そんな税から生れたもので関心を持
つものがありました。公共施設や公共
サービスの一つである健康・福祉サー
ビスです。私の住む村は高齢者がたく
さんいることと、私にとってとても大
切な祖母の存在が理由です。

私は、村の高齢者の方々と祖母に、
たくさん愛情をもらい助けてもらい
ました。そんな大切な人達が税から生
まれる健康・福祉サービスによって、
安心して暮らすことができると思い
知ると、税の存在を見る目が変わりまし
た。

他にも税についてわかったことがあ
ります。今日の日本は、税金の未納者
が増えていることです。税の大切さを
よく学んだ後にわかったことなので、
悲しい気持ちになりました。払いたく
ても払えない、それとも払えるのに払
わないのか、未納者の事情は様々で
しょうが、どちらにせよ税をしっかりと
納めて欲しいです。それと同時に、自
分達が税によって、支えられて、暮ら
していくことができるのを理解し
てほしいと思います。

私は税について学ぶことができてよ

かったと思っています。消費税を払う
時も、払う意味があることを知って払
えるのは、とても良いことですし、税
について感情を持つことができました。
私は大人になっても、しっかりと税
を納めようと思いました。

この作文をここまで書き終えて、私
は、お気に入りの単行本を見ました。
定価(本体六二九円+税)。
何だか良い気分になりました。

税について思うこと

加須市立加須西中学校

三年 内田 瑛 美

ある日の新聞に「職業意識 高校生
のうちに」という見出しがあるのを見
つけた。若年失業者の増加や雇用環境
の厳しさが背景にあるため、仕事の意
味、働く者の権利を学ぶことが必要と
なってきたというのだ。

私は将来就きたい職業がやっと見つ
かった。しかし、就職難の現在、叶う
かどうか不安だ。が、今は、一生懸命
まず勉強し、受験を突破しなければな
らないと思う。

ではなぜ人は職業につくことが望ま
しいか。それは、これからの日本を背
負っていく若者が、たいした夢も希望
もなく日々好き勝手なことをし、生き
ていることが本当の姿ではないからだ。
親に生活させてもらったり(ニートと

言うそうだ。)アルバイトを転々とし、
時には、無気力な生活も体験したり、
これではいけないと思う。一生懸命汗
水たらしめて体や頭を使い、賃金を得、
納税する。ここが大切なのではないか
と思う。自分の興味・関心のあった職
業に就くことはなかなか大変だと思っ
挫折するかもしれない。しかし、私た
ちはまだ若い。働いて賃金を得る喜び、
働く喜びを経験したいと思う。

私の大きい方の姉は障害者である。
昨年の春から会社勤めをしている。
「お給料をもらってお父さんを助けて
あげる。好きな歌手のCDが買え
る。」という理由で決心した。姉は多
くの方々に支えられて今まで生きてき
た。その恩返しとまではいかないけれ
ど、納税することで社会の一員になれ
たことを両親もまた喜んでいて。そし
て、姉は税金を納め、自分の健康保険
証まで持つこととなった。働くことの
喜びを知ったわけだ。姉にとつて就職
は自信や責任感につながった。これは
障害のあるなしに関係ないのではない
だろうか。決して簡単にはお金は手に
入らないのが当たり前だ。姉も最初の
頃は疲れて大変そうだった。私もこの
夏手伝いをする小遣いがもらえると
決めたがお金はなかなかたまらなかつ
た。

これから先、若年失業者が減少し、
働くことの喜びを知り、納税の義務を
遂行する人たちが増加することを心か
ら願うし、私もぜひその一人になりた

いと思う。

現在七十歳以上の人は納めた保険料
の6・5倍の年金が給付され、三十歳
以降の人は2・3倍になると新聞に
あった。お年寄りの中には介護保険料
を納めながら介護を受けている人もい
る。生活はぎりぎりのようだ。6・5
倍の年金給付を受けている人たちがさ
え生活がぎりぎりなのに、私の両親が
年老いた頃、はたして生活していける
のだろうかと心配になってきた。今、
働きざかりの人たちの老後も安心して
むかえられるよう願うばかりだ。

税のもう一つの 姿を知って

十日町市立南中学校

三年 小林 結 梨

私は、硬式テニスで七月に福井県で
開催された北信越大会に出場しました。
北信越大会に出場する際、私は、十日
町市から文化スポーツ派遣費補助金を
もらいました。この補助金は、市民の
みなさんが納めて下さった税金が元に
なっている、ということを親から聞き、

税金についていろいろと考えることがありました。

私は、今まで税金は、道路や学校をつくったりゴミの回収などといった、私達が生活をしやすいするためだけにしか使われていないというイメージがありました。

今回、補助金をもらって私は、多くの人達から支えてもらっているんだ、という気がしました。「私は、市民の代表として、変な試合は出来ないんだ。」という意識で大会に臨みました。このように、税金が人を励ましたり、応援するといった、目に見えない形で使われることもあるということを、身をもって知ることが出来ました。

今、こうして自分の生活を振り返ってみると、私は両親や家族のおかげで大好きなテニスをする事が出来るし、高校受験を目指すことも出来る、とても恵まれた環境で過ごしています。でも、同じ中学生なのに、私より厳しい環境のため、力を持っても思う存分発揮することが出来ない人もいます。こういった人達にも、私が受けた補助金のような制度がもっと利用してもらえるように税金が使われていくことを願っています。

ですが、私達の日常生活を取り巻くものは、教育に関することばかりではありません。福祉、子育て、防災など多岐にわたります。不景気により、働く場所を失ってしまった人達に、どのように手を差しのべるのか、というの

も切実な問題です。

税金の使い方について、いろいろな立場の人達がいろいろな考えを持っています。限りある大切な税金を明確な優先順位をたてて、有効に使っていくための十分な議論が必要だと思います。

私は、何のために税金を納めるのかを、よく理解せずに税金を納めている人が多いと思います。税金を何のために、私達国民に求め、どのように使うのか。その結果、どんな未来を目指すのか。全ての納税者が、分かりやすい説明を望んでいると思います。私達一人ひとりが抱えている問題は、時代の流れとともに常に変化していきます。そういった変化にも迅速に対応していくための税金の使われ方も考えていくべきです。

今回の私のように、税金によって「頑張ろう。」と思える人がもっと増えることを願いながら、私も大人になったら税金を納めることで、多くの可能性を持つている人達を応援したいです。私達の将来の生活を安心して想像出来る社会をつくっていくための税金の活用方法について、私達中学生も、しっかり意見を持つべきだと思います。

税金の大切さ

長野市立櫻ヶ岡中学校

三年 中 條 彩 花

私たちの生活には、さまざまな税金が関わっています。しかし、その税金がどのように使われるのかを知っている人やそれに興味を持っている人は少ないと思います。私はよく「税金は大切だ。」という話を耳にします。それは税金のことをあまり知らない私も感じることです。しかし、ちゃんとした知識がないまま「税金の大切さ」を知ることが出来るのでしょうか。また、「税金を大切にする」というのはどういうことなのでしょう。

私はある企画で大量のペットボトルを集めました。コンビニから了承を得て、ゴミとして捨ててあったペットボトルをもらってきました。私はそのペットボトルの中に飲み残されたまま捨てられているものがあることに気がつきました。しかもそれは一、二本でなく、二十本を超えているように感じました。中には残された飲み物の中にタバコが入っているものもあり、分別するのがすごく大変でした。私は終わった後に少しだけ怒りを覚えました。

同時に私は「この作業を実際にやっている人はいるのだろうか。」という疑問を持ちました。ペットボトルに中身が入っているのはリサイクルすること

はできません。そこでこのようなペットボトルはどのように処理されるのかということ調べてみました。

調べてみて分かったことは、市町村のゴミ処理の費用に税金が充てられているということです。ゴミを燃やすことはもちろんそこで毎日働いている人があることも税金のおかげなのです。そしてペットボトルの回収なども税金でおこなっています。私の調べた中にペットボトルのリサイクルをしながら中身が残ったままのペットボトルの処理もおこなっている会社がありました。しかし、多くのペットボトルの中から中身が入ったままのペットボトルを探し出すのは手作業なので人件費もかかる困難な仕事です。また、そのペットボトルは機械を使って分解し、細かくしてリサイクルをするのですが、その機械にもたくさんのお金がかかってしまっています。つまり、私たちがペットボトルの処理を徹底していないことによって税金が無駄遣いされてしまっているのです。

「誰が税金を大切にするのか。」と考えたときに、多くの人が「国や地方」と答えると思います。私も同じ意見でした。しかし、このような考え方が自分たちの税金の無駄遣いに気がついて一番の原因だと私は感じました。私たちは税金を納めるだけでなく、納めた後の使い道についても責任を持っています。考えていかなくてはいけないと思います。それにまだ見えてこない税金の

無駄遣いがたくさんあると思うので、自分から探していきたいと思います。それが税金を大切にすることであり、国民の義務を果たすことにつながるのだと思います。

税金の有り難さ

船橋市立高根台中学校

三年 小 出 紗耶加

朝食を食べ、学校に行き勉強、昼食を食べ友達と何気ない話をし、家に帰ってから夕食を食べ一日を終了する。こうした何気ない一日を繰り返せるのも税金があるからだと言回知り、考える事ができました。

私は、両親が共働きなので小さい時から保育園や放課後ルームなどでお世話になっていました。両親や私もそういった施設にはとても感謝しています。税金と聞いて私は、「なんで払わなきゃいけないんだろう、お金がもったいない」と税金の事を調べる前には思っていました。でも、今回税金には一つ一つの意味がある事を知りました。法人税や所得税、私達の一番身近にある消費税などにはとても助けられている事を初めて知りました。

最近、家族と出かける事が多くなり、車に乗っていると両親から「この道路も税金によって造られているんだよ」と聞かされました。税金はそこまでみ

んなの生活に反映しているのだと衝撃をうけました。こういった税金を私が使っているのも両親や全国の大人が一生懸命働いてくれているおかげだと思います。

この頃、学校が面倒臭いからサボってしまったり、教科書に落書きをしてボロボロにしてしまったりという子供が増えてきていると思います。学校のイスや机なども税金だし、教科書も無料とは書いてあるもののそれも税金があるからこそです。私は身近な税金の事をもっと知って感謝しなければならぬと思います。両親、国や環境が私達の快適な生活を補助してくれています。私達が毎日笑ってすごしてきたのは、今の大人達、それより前のおじいちゃん、おばあちゃん世代から大切に受け継がれてきた税金のおかげ。

私達子供は自分一人では何も出来ない無力な存在です。なので今、私達に出来る事はきつと、毎日楽しく生きて、きちんと学校に行き、外ではお年寄りに席をゆずる程度しか出来ないと思います。でもそれが私達子供が出来る恩返しだと私は思っています。

今、税金を払っていない人達の中にはいますがそういった人達も税金の有り難みを理解し、私が大人になって税金を払う時がきたらみんなが国のために払ってくれるようになると良いです。今回の感謝の気持ち忘れず、今まで頑張っている、税金を払ってきたくれた人々に、いつか恩返しが出来ると

良いです。

学びの中の税

松戸市立小金南中学校

三年 中山 諒一郎

「税とは何か」そんなことは今まで考えたこともなかった。新聞やテレビのニュースで税金に関する話題に触れているのを気にしたり、自分が物を買う時に消費税を意識する程度だった。たぶん、普段の生活の中で、税について考える必要がなかったからだろう。

もし税がなかったら、どうなるのだろう。所得は上がり、物価も安くなる。収入が増えて、生活が豊かになるのだろうか。いや、そんな単純なものではないはずだ。では税は何のために存在するのだろうか。そんな疑問から、僕は本や新聞、学校で配られた資料を読んだり、インターネットで税について調べてみた。すると、身近な所にたくさん税金が使われていることを知り、ちょっとびっくりした。

僕は公立の中学校に通っている。教科書のお金も授業料も無償。全て税金が使われている。その金額を調べて、さらに驚いた。なんと、児童・生徒一人あたりの年間教育費は、小学校で八十三万円、中学校で九十五万円、高校で九十三万円が使われているのだ。つまり、義務教育九年間だけで約七百八

十六万円もの税金が使われていることになる。もしこれを個人で負担するとしたら、大変な金額だ。僕は知らず知らずのうちに、小さい頃から税の恩恵を受けていたのだ。

国家予算の約五兆三千億円もの税金が、教育等につきこまれている日本。なぜそんなに多くの税金が教育に使われているのだろうか。

教育とは人を育てることだ。五年先・十年先を見据えて人を育てていく。日本の将来を背負い、ひいては国際社会の中で活躍する人材を育てていく。いわば未来への投資として人を教え育てていくために、多くの税金が使われているのだ。結果はすぐに出ないかも知れない。しかし、教育によって育った優秀な人材は、やがて社会の大切な宝となるはずだ。

今、教育を受ける側にいる僕。税の恩恵を受けている国民の一人として、何が出来るのだろうか。本当の意味で「税を大切にする」とはどういうことだろう。

その答えは、一生懸命に学ぶことではないだろうか。以前国語の先生が「学ぶ」という言葉は「まねぶ」つまりまねをすることからきたのだと言われていた。もちろん知識としての学習もがんばらなければいけないし、覚えるべきことはしっかり覚えなければいけない。しかし、知識の詰め込みだけに偏ることなく、学校という集団生活の中で様々な経験を積みたい。他人

の良いところを真似し、覚え、しっかりと自分のものにしていく。そうして学んだことを社会に出た時に活かすことこそが、本当の意味で「税を大切にする」ということではないだろうか。

だから僕は今、税のありがたみと大切さを忘れずに、感謝の気持ちを持って一生懸命学びたい。そしてその恩返しとして、社会のために少しでも貢献し、気持ち良く税金が納められるような国民の一人になりたいと思う。

税金の使い道と徴収

千代田区立麹町中学校

二年 三宅一成

ぼくは、この間の租税教室で税金の話の聞ききました。今回で話を聞くのは二回目です。去年、税金の話聞いて以来、税金が気になる一つとなりました。この一年ほど、定額給付金や消費税が上がるかもしれないなど税金が身近に感じたことはありません。

今、多くの人たちが税金について論じています。無駄を省き、国民が少しでも幸せになれるように、どのようにしたら良いか考えてくれています。ぼくは、それをととても嬉しく思います。「税金の使い道」、それはとても大切なことだと思えます。一生懸命生きても報われない人達や、病氣や災害で苦しんでいる人達をはじめ、国民みんなが

少しでも、より良い生活になるように、税金が使われることを願っています。

しかし、その一方で、税金がどのようにに徴収されるかも問題だと思っています。税金が、国民の生活を苦しめ、おびやかすようになってしまったら困ります。例えば、都心部の再開発により、相続税が高くなり、先祖代々の土地を手放す人達が多くなり、町なみが変わってしまうことはとても悲しいことです。また、消費税の値上げも考えものです。必要不可欠なものを買う時に消費税分の値段が上がれば今までの生活が、苦しくなることは、必然的です。ぼく自身にとってもそうです。限られたお小遣いの中で文房具などを買う時に、消費税分値上げされていたら、苦しいです。景気が上向きになったら、消費税を上げるのではなく、むしろ、消費税を下げるというぐらいの気持ちを持って、消費税の値上げに関しては慎重にお願いしたいです。

税金の余分な無駄遣いがないかどうか、見直す必要があると思います。無駄遣いを省くことで、たくさん税金の金額が確保されるとも言われています。少しでもそのようなことが出来たら、税金によって、苦しんだり、生活がおびやかされることも起らないのではないかと思います。

税金は、日本の国をより良くするには、絶対に必要なものです。もし、税金がなくなったら消防車や救急車が来なくなってしまうたり、税金で成り

立っているものがすべてなくなり世の中が大変乱れてしまいます。そのためにも、「供給と需要のバランス」ではないけれども、税金も、「徴収と使い道のバランス」がとれてなければならぬと思います。日本国民が納得して喜んで税金を払い、それが、国民の生活に大きな助けとなって返って来たらどんなに幸せなことかと思えます。それを目指して、試行錯誤しながらも、より良い策を得られることを願っています。

ぼくも、大人になったら日本国民としてしっかりと、税金の義務を、果たしていきたいです。

支える税金

都立両国高等学校附属中学校

二年 下坂朋子

「レーザー治療をしてみましよう。お薬も出しておきますね。」

私はバスケットボール部に所属しています。練習をしていくうちに、足を痛めてしまいました。そのため、しばらくの間、整骨院に通院することになりました。整骨院では、毎回レーザーとマイクログ治療をしてもらっています。湿布や塗り薬を処方してもらいながら、今も治療が続いています。

初めて治療を受けた日、私はいくらかかるか分からなかったので一〇〇〇

円を持って病院に行きました。しかし、診察、治療、薬までもらっても、料金は請求されませんでした。他の患者さん達は治療や薬だけでもお金を払っているのに、何で私は無料なのだろう。私の診察費、治療費、薬代はどうなっているのだろうか。疑問に思い、家に帰って母にきいてみるとこのような答えが返ってきました。

「私達の住んでいる葛飾区では、中学三年生まで医療費は無料なのよ。そのお金は全て税金で賄われているの。今は少子化問題で大変だから、育てやすい環境を、と国もいろいろ考えてくれているのね。」

私は、また税金かあ、と思いました。確か、私達がいつも勉強している教科書も机も黒板も全て税金で賄われているのよ、と小学校の頃に担任の先生も言っていました。その時はへえ、そうなんだ、程度にしか思いませんでした。しかし、今は違います。私は先日、アフリカやカンボジアなどの発展途上国についてのテレビ番組を見て、とても大きな衝撃を受けました。勉強したいのに学校にも行けず、毎日重労働をさせられている小さな子供。医療制度が整っていないため、ポリオや麻疹など必要なワクチンを受けられず、重度の障害を持ったり、命を落とすという子供。日本ではどうい考えられない現状です。豊かな日本に住んでいると、つい忘れてしまうこの暮らしのありがたさ。私が今無料で病院に行けて毎日勉強で

きるのも、税金によって成り立っている制度があるからこそです。

日本国民には納税の義務があります。その税金は、私達の生活において、とても重要な役割を果たしています。私が今、元気に過ごせているのも税金のお陰だということ。またそれと同時にそれは決して当たり前ではないのだということ、私は改めて思い知らされました。

人は一人では生きていけない。私はいつも多くの人に支えられて生きているんだということを、税金を通じて感じる事ができました。

私もあと何年か経てば大人になり、税金を納めるようになります。その時には「このお金を使って、みんなの役に立てて下さい。」と快く税金を納められるような納税者になりたいです。「誰かの支えになりますように」と祈りながら。

支え合ひ

足立区立上沼田中学校

三年 別府 聖 香

仕事好き、酒好き、たばこ好き。笑わぬ、鬼瓦。彼は、仕事の世界では名の売れた恐れられる人でした。

子供には、ものすごく厳しかった彼。しかし、孫にはとても優しい笑顔で笑うおじいちゃんと化しました。そんな

彼の笑顔を見た父達は「考えられない」と口をそろえて言います。不器用で、仲間悪い。私の自慢の祖父です。私の大好きな祖父です。

そんな祖父が、一昨年亡くなりました。まだ、六十そこそこだった祖父。早すぎる死でした。たくさんの人が祖父を想い、たくさんの人が泣きました。写真の祖父だけが笑ってました。その写真の祖父は鬼瓦ではなく、やさしいおじいちゃんでした。

祖父が築き上げた会社を、私の父達が引き継ぐことになりました。土地、遺産。祖父が一生懸命、家族のために働いたことが、形として残っていました。でもこの二つに、税金がかかりました。『相続税』。聞きなれない言葉。私の「相続税」の第一印象は、人の死によって発生する、残酷な税金でした。私は頭がいっぱいになり、相続税というものについて、少し調べてみました。でも調べれば調べる程、印象が悪くなってしまいました。税率。消費税とは全く違った。払う人。二十人に一人、いるかないか。税金なのに、平等じゃないの？ 私は何だか悲しくなりました。祖父が、可哀相、と思ったからです。

私はこのことを、社会科の先生に話してみました。すると、先生は真面目な顔をして、私に言いました。「そのお金は、どう使われてると思う？」私は、考えてもみなかったので、答えられませんでした。先生は、そのお金は

生活が大変な人の援助になることを教えてくれました。生まれた時、人は平等にならなきゃいけないこと、そのための税だということ。私は、すごく驚きました。それと、すごく嬉しくなりました。何処なら、祖父が、誰かのことを支えてる。と思ったからです。それから福祉体験のことを思い出しました。祖父より何十才も年上の方々が、楽しそうに喋ったり、おりがみを折ったりしてあつた場所で、私はたくさん笑顔を見れたこと。今思えば、税金で支えてる人だなあと感じます。だから、もしかしたら、あのおりがみが、祖父からのプレゼントなのかもしれない。なんて思ったら、温かい気持ちでいっぱいになりました。

税金。それは向こう側で、誰かの笑顔につながるもの。

今の若者たちに願うこと

東大和市立第一中学校

三年 武田 有里

全国の中学生1人あたりの年間公費負担額は95万2千円です。私はそれをつい最近初めて知って、自分の目や耳を疑ってしまいました。

今、私の周りの学生たちは本当に幸せ者ですが、幸せだからこそ大切なものが見えてない学生が多いのが現状で

す。授業を面倒だと言って学校に来なかったりサボったりする生徒、何年も使う教科書を失くして平気でいる生徒、給食を「まずい」と言って全々食べない生徒：私はこんな生徒を見るたびに、いつも悲しくなります。きっと、毎日毎日頑張って大変な思いをしながら税を納めている人たちもこの現状を知れば悲しくなるでしょう。税がどう使われるか、と言う前に、もっと学生たちは税の大切さ、ありがたさを学び、感じるべきだと思います。

現在、税収が減り、国の公債はどんどん増え続け、将来の日本の負担は大きくなるばかりです。この赤字の日本を救えるかどうかは私たちの世代にかかっています。しかし、学生をはじめとした今の若者たちにはまだ自分の存在の大切さが分からない人も多いと思います。だからこそ、今の自分と日本を見つめて、そこから自分のこれからを考えて行動するべきだと思います。

もう1つ、私たちの世代が考えていかなければならない事があります。それは、税金をどのように使うか決める国や地方の代表者たちを選ぶ「選挙」です。

私の社会の先生は授業でいつも、「国民の代表として誰が政治の中心となつて動いていくか、決めるのはあなたたちです。決して軽い気持ちで投票せず、政治を左右するのは自分達だ」という自覚を絶対に忘れずに行動してください。」

と言いました。私はまさしくその通りだと思います。

自分は政治家じゃないから、という人がいると思いますが、みんな同じ日本国民です。みんな同じ国の主権者です。責任というものは、政治家だけでなく、みんなが持つものです。国民全員がこれを自覚していれば素晴らしい日本になると思いますが、そうなる確率は極めて低いので、まずは未来を左右する私たちが1人でも多く、税というものに関心を持つことが大切だと私は思います。私自身もこれから税をもう一度見詰め、自分の行動をよく見直した上で、1人の学生として、1人の日本国民として、しっかりといろんなことを学びたいと思います。

最後に、この文章は誰が読むかわかりませんが、1人でも多くの人が税について考え、そして自分は日本の主権者だということを再確認してもらえれば嬉しいのです。

快適！ 工場なe-Tax

サレジオ学院中学校

三年 木村 啓 悟

私は、税金を調べるためにまず募集要項にあった国税庁のホームページを見ることにしました。国税庁のホームページには専門的な内容が沢山ありま

したが、その中で「e-Tax」というものに興味を持ちました。

「e-Tax」とは、個人の確定申告書などの税金の書類をインターネットを使って電子データにして送信するシステムです。また、このシステムを使って税金を支払うこともできる便利なものです。

「e-Tax」のシステムの内容を読んで感じたことは、これは今の時代によくあったシステムだと思いました。今まで確定申告書という用紙を税務署へ行って手に入れ、その用紙に収入金額などを記入、自分で計算し、確定申告書を再び税務署へ持って行く必要がありました。しかしながら、「e-Tax」を使用すれば、用紙は不要となり、税務署へ2度行く必要がありません。つまり、紙という資源を使わなくてもいいこと、税務署まで行く必要がないことから自動車や電車の節約、これらのことにより二酸化炭素の削減に貢献できることなどとても良い制度だと思います。また、「e-Tax」の確定申告書の画面に金額を入力すれば、自動的に税金の計算をしてくれるということは楽で良いと思いました。これは、税務署へ往復する時間が必要なくなることで、税務署の開いている時間にかかわらず自分の好きな時間に利用できるということ、すばらしいと思いました。試しに私の父と一緒に「e-Tax」の操作を試してみたところ、利用時間に制限があり操作することができませんでした。しかし、

この制度が個人の確定申告書を提出する納税者にとって非常に便利であることの証として、「e-Tax」を利用した人は前年より9%増えて34%もの比率に達しています。

私は、この制度を利用する人がもっと増えれば、税務署で働く職員の数人を減らせるのではないかと思います。税務署で働く職員は国家公務員なので、みんなから徴収する税金で運営されています。そのため、この制度を利用する納税者が増えると結果的に税務署を運営するコストの削減につながり、みんなから徴収する税金も減額できると思います。だから、「e-Tax」を利用する納税者側の利便性だけを強調するのみではなく、環境に優しいこと、時間の節約になること、みんなの税金が安くなることなどを広く伝えることで、より利用者を増やすことができるよい循環を作り出せると思います。

将来、私が社会人になった時には、この環境に優れた便利な制度をぜひ使いたいと思います。その時までには、この制度がより充実した物となり、多くの人が簡単に誰でも使える制度になっていて欲しいと思いました。

お金のバリアフリー

秦野市立鶴巻中学校

三年 高瀬 雄太郎

「もっこすも年金だけはさからわん。」九州に住む祖父の家の近くにあった税務署に大きく掲げてあった標語だ。「もっこす」とは、熊本弁で頑固者の意味を表す。どんなに意固地なお年寄りでも年金の支給は断らない、という意味だ。

老後の安定した生活には、自分の貯金だけではなく更に大きな費用が必要となる。その費用を保証する役目を担っているのが税金だ。

人口ピラミッドを見ると、日本は、平均寿命の伸びに従って高齢化社会を迎えている。二〇〇八年では、日本人の平均寿命は、男性約七十九歳、女性約八十六歳。高齢者が急増すると社会保障の費用が増えることも当然考えられる。しかも二十世紀半ばには、国民の四人に一人が六十五歳以上の高齢者になると予想されているのだ。財源が増えなければ、一人当たりの費用が削られ、生活が苦しくなるのは目に見えている。

更に、出生率が低下している現在、問題は深刻の一端を辿っている。二〇〇五年では、六十五歳以上の高齢者一人を約三人で支えられる。それが二〇五五年になると、高齢者一人に対し約

一・二人で支えなければならぬ。未来の自分をシミュレーションすると、私が働き手として税金を納める三十五歳の時には高齢者一人を約一・七人で支える。私が六十五歳になった時には、ほぼ一人の働き手の力で私の老後は支えられる。現在よりも税負担も大きくなり、しかも公的資金と医療費は充分な保障が行き渡らないのであれば、そのあり方について真剣に考えていかなければならない。

祖父母の住む所では、高齢者のみの世帯が増えている。ケアホームなどの需要も多いという。熊本市内には建物に税金が使われている老人ホームが約七十ある。少子化の影響で同居できる家族も減ってくれば、老後の生活の経済的負担は大きくなっていく。私は、一人っ子だ。近親者の老後を支えていく立場になった時、自分一人で背負いされるだろうか。

自分一人のためではない公共サービス―図書館、上下水道、ゴミ処理、公園―の恩恵に預かっているように、公的年金も社会の一員としての助けあい

の精神で成り立っている。税金について学ぼう、社会の仕組みについても考え、全て、自分自身に関わってくる問題であることに気がついた。今はまだ義務教育を受けていて、税金に支えられている自分。働くようになったら、収入は全て自分の好きなように使えるのではなく、納税者となることはじめて自覚した。社会とは、

老人、障害者、子どもなど弱い立場の人を支えあっている存在なのだ。健康で経済的に不安がないときには、あまり税金の恩恵に気づかなかったりする。そういう時にこそ、税金とはお金のパリアフリーである、と考えたい。お互いの存在を尊重し、認め合う住み良い社会にするために。

税に感謝の気持ちを

愛川町立愛川中学校

三年 津田 有可子

私の祖父は、去年心臓のバイパス手術をしました。二年前の冬に倒れ、ずいぶん長い間入院を繰り返しました。心筋梗塞でした。入院しているときは日々色々な検査をしたり、治療したりで、その都度出てくる医療機械はどれも最新式のすごいもので、祖父は心臓が悪いのに、入院費、治療費が莫大なる金額になるのではないかと、ドキドキしていたそうです。でも、年齢的なこともあり、自己負担が少額で済んだそうです。今は定期検診や飲み薬で毎日元気に暮らしています。もちろん、検診や薬代も少額で済んでいるそうです。そんな祖父が私に、「おじいちゃん、若い頃からちゃんと税金を払ってきたから、病院の払いも少なくて済むし、年金もちゃんともらえるんだぞ。」

と、満面の笑顔で誇らしげでした。

私が小学校六年生の時、体育館の耐震工事をしました。もう、かなり老朽化もしていたそうです。私たちは、工事後の体育館で安全で安心した卒業式を迎えることが出来ました。又、現在通っている中学校周辺でも、道路工事等が行われています。ひび割れていたり、デコボコしていた道路が舗装されたり、擦れて見えなくなっていた白線が、きれいに引かれていたり、快適な環境になっていきます。

今回、税についての作文を書くことになったことをきっかけに、税について調べてみました。一人ひとりが納めた税金が、国の行政予算になって、教育費、医療費、年金、公共事業、警察消防費、ゴミ処理費に至るまで、身近なところはもちろん、様々なところにも支出され、私たちの生活に深く関わり守られているのが分かりました。祖父の医療費、年金もそうですが、祖父が倒れたときに呼んだ救急車と、乗務されていた方々の給料も税で支払われています。又、私が現在通っている中学校、時々利用させてもらっている図書館等の施設など、今まで当たり前のように暮らしてきましたが、多くの税に支えられていたのです。そして、それを支えてきたのは祖父も含め、今まできちんと納税し、今の豊かな社会を築いてくれたお年寄りの方々、現在納税をしてくれている両親を含む大人の私たち、又、行政で予算等の仕事をされ

ている方々全てに、感謝の気持ちでいっぱいです。それに今、年金で老後暮らしをしているお年寄りの方々には、これからも安全で安心した生活を送ってほしいと願っています。

税に対して、形として目に見えるもの、目には見えなくても、心や体で感じる安心感や充実感を忘れずに、感謝の気持ちを持ち続けていきたいと思っています。これからも税について知識を得るのは大切なことだと感じるし、私も将来、きちんと納税し、祖父のように胸を張れる大人になりたいと思いました。

税金よ、ありがとう。

北杜市立甲陵中学校

三年 飯嶋 彩季

私は税金のお陰で命を繋ぐことができました。

妊娠二十七週。私は、出産予定日より約三ヶ月早く生まれました。体重は八百八グラムで、山梨県内にも年間で十人ほどしか産まれない超未熟児だったそうです。生まれた直後、私はすぐに保育器に入れられました。それから毎日、二十四時間体勢で看護してもらい、退院できるまでの四ヶ月の間、点滴などいろいろな医療的な処置を受けました。

後に母から聞いた話によると、その

時の医療費は月に七十万円以上だったらしいです。突然、毎月七十万円払うということは若い両親にとっても、大きな負担だったと思います。私は、両親がどのようにして医療費を払ったのだろうか。と疑問を持ちました。

私の場合、体重が二千グラム以下などという条件を満たすと、医療費の一部を税金で賄ってくれる『未熟児養育費医療制度』というものが適応されたそうです。その制度は、全国の皆さんが納めてくれた税金によって運営されています。お陰で両親の金銭的な負担は少なくなり、私も十分な治療を受けることができました。こんなところに税金が使われていたということを、私は母から聞いて初めて知りました。

この話を聞いて、私は税金にとっても興味を持ちました。そして、他にはどのようなことに使われているのかを調べてみようと思いました。実際に調べてみた結果、私たちが毎日使っている上下水道の整備や、家庭や会社などから出るゴミの回収、毎日安全に通勤や通学ができるように道路を整備するなど、私の知らない所で私たちの生活がより良くなるようにたくさんの税金が使われていることが分かりました。

私は今、奇跡的にも視力や聴力などの障害はどこにもなく元気に中学校へ通っています。休み時間などには、みんなで大笑いしながら話をしています。部活にはテニス部に入って大会にも出場できました。そして、最高の仲間達

と一緒に毎日、切磋琢磨しながら勉強しています。今、こうして生きていることができます。「どれも当たり前であって、当たり前ではないんだ。」私は改めてそう感じました。そして、『未熟児養育費医療制度』と税金を納めてくれた全国の皆さんに感謝しなければならぬと強く思いました。

税金で命を救うことができる。私も将来、税金を納める立場になったらこの事を忘れずに、少しでも誰かの役に立てるように、きちんと納税していきたいと思っています。

税金のむだ遣いをしない —今、私たちがすべきこと—

小矢部市立石動中学校

一年 稲原 純

「税」といえば、国民の三大義務のひとつ「納税の義務」があることは、小学校で習い知っていました。しかし、税金制度がどのようなもので、税金がどのように使われているのかはほとんど知りません。私が知っていることと言えば、弟や妹を病院に連れていったときに、母が「医療費が免除されるから助かるわ。」

と言ったのを耳にした程度です。今回、この作文を書くのをきっかけに、少し調べてみました。消費税をは

じめ、大人の人が働いてもらう給料に課せられる所得税、会社のもうけに課せられる法人税、たばこ税など、六十種類の税があり、これらの税は、国の収入の五十二パーセントをしめていることを知りました。そしてそれらは、健康や生活を守るための社会保障関係に二十八パーセント、道路や住宅の整備、教育関係に三十パーセント使われているということでした。いろいろ調べて勉強になりましたが、一番心に残ったのは、中学生一人一年間の教育負担額が九十五万二千円で、小学生は八十三万三千円ということでした。考えてみるとたしかに、毎年四月に新しい教科書をいただいてきました。そして今「心の城」と言われるすてきな校舎で活動し、多くの先生に勉強を教えてもらっています。今私が夢中になっている部活動の楽器なども、結局税金が形をかえたものです。計算してみると、中学一年生の現在まで、五百三十二万ほどの税金が私一人に使われたこととなります。あまりの高額にびっくりすると同時に、大変なことだと思いました。

私は今まで、自分という存在は自分自身や家族のものだと無意識に思ってきました。しかし、それはとてもない間違いでした。私たちは、教育のみならず医療、福祉面においても、多額の投資を国からすでに受けており、その投資を今後も受けるであろうからです。このことに気付いた時、私たちは

それにどうこたえていくべきなのかと考えずにはいられなくなりました。

テレビや新聞などで、「税金のむだ遣い」という言葉を時々見聞きしますが、まさに私たちに投資された税金がむだ遣いとならないようにしなくてはいけないと思い、自分なりに考えました。

一 形あるものはなるべく長く使えるように大切に扱うこと
一 勉強や部活動など、思いっきりできることに感謝の気持ちをもつこと
一 しつかり勉強して今しかできないことをたくさん経験し吸収することの三つです。そして、私は、みんなが安心して幸せに暮らせるような制度や、税金のあり方を考えることのできる大人になりたいと思います。

私たちの生活と税金

穴水町立穴水中学校

二年 角間 萌美

「とても住みやすい。こんな良いマンションを建ててもらって、本当にありがたい。」この言葉は、やすらぎマンションに入居された方々のものです。

私の住んでいる穴水町は、今から三年前の能登半島地震によって大きな被害にあいました。特に駅周辺の大町地区は被害が大きく、たくさんの方が壊れてしまい、止むを得ず仮設住居など

で不自由な生活をされてきました。それがようやく、町営マンションやすらが完成したのでした。

私は、この震災をきっかけに社会や地域の出来事に関心をもつようになり、新聞やテレビはもちろん、広報あなみずにも地域密着の情報がたくさんのもっているのを読むのが楽しみです。この広報あなみずの記事で興味を引いたのが町の税金についてです。やすらぎマンションも税金によって造られたものでした。

町の歳入の内三分の二は、町税や地方交付金といった税金で占められており、これに国や県からの補助金、町債などを加えて町の予算が決められています。しかし、現実には歳入より歳出のほうが多く、町の財政はとても苦しいそうです。私たちが普段利用している町立病院や図書館、そして私たち吹奏楽部も練習などで使っているラベンダーホールも税金によって維持されていますが、もし財政不足が深刻化すれば、これらの施設を利用できなくなってしまうかもしれません。また施設以外にも、あたり前のように思っているゴミの処理や、上下水道の整備・管理、私たちが安全に安心して暮らせるための警察や消防の仕事も、全て税金によってまかなわれています。さらに私たち中学生にも毎年約百万円もの税金が使われているそうです。そういえば私の教科書の片隅に、「この教科書は、これからの日本を担う皆さんへの期待をこめ、

国民の税金によって無償で支給されています。」と書いてありました。

私は今まで税金について深く考えたことがありませんでしたが、私たちの生活ととても密接につながって、とても大切なものだと分かりました。その一方で、「税金の無駄遣い」という言葉もよく耳にします。さらに国の借金も莫大にあり税金で返していかなければならないことも知りました。日本は景気が悪いのでいろいろな対策にも政府は税金を使っているし、これから少子高齢化が進む将来において財源をどう確保するかが大きな問題だそうです。今の私にとっては、難しすぎて何をどうすればいいか分かりませんが、「だけれど何が何とかしてくれるだろう。」と簡単に片付けられる問題ではないと思います。

私も数年後には一人の国民として税金を納め日本の将来を担うことになります。教科書の片隅に書かれていた期待に応えるためにも勉強し、たくさんの人々が幸せな暮らしができる税金の使い方を考えていきたいです。

身近な税金

岡崎市立六ツ美中学校

二年 鈴木 友佳子

「あつ、5時だから帰ろうか。」

これが、税金と私の最初の出会いです。

る。小学校の頃、町内の役員をしていた父が市役所に出す要望書に、私が提案した公園の時計の設置を追記してくれた。その時に初めて『税金』の存在を知った。数日後、時計の設置の連絡が入り、当日、私は公園へ急いで行ってみた。公園に時計が大きくそびえ立っていた。私の希望が税金の利用法の一つとなったことが夢のような現実で心がわくわくした。この公園は、私達の登下校時の集合場所であり、子供会・町内会の活動の場所でもある。もちろん友人や家族との遊び場でもある。だが、残念ながら今まで時計がなく、不自由していた。しかし、時計が付いてからは時間に敏感になり、生活にもけじめがつくようになった。特に朝の登校時は時間厳守になり、責任感が生まれた。たった一つの時計が設置されたことにより、多くの人の生活が便利になっただけでなく、お互いへの気遣いが増えたことはとても尊いことだと思った。そして、時計の設置に使われた税金に感謝した。それ以来、身の周りの税金の恩恵に益々興味を持つようになった。学校生活はもちろんのこと、教科書の無償配布、通学路の整備、病院での治療費や予防接種の無料化、最近では定額給付金の支給など、家中でも外でも税金で賄われていることばかりである。税金が私達の生活とどんなに密着しているか改めて実感した。しかし、残念ながら目をそむけてはならないことがある。それは、国の莫

大な借金である。歳入の三割を国債で賄っているため、毎年、公債を発行しており、その公債の残高が八百四兆円となり、国債を返金するためには一年分の税収が十三年分必要となるという重い現実がある。どこの家庭でも収入にみ合った堅実な生活を送ろうと努力するはずである。国家の財政も同じで、収支のバランスが何より大切だと思う。今、ここで私たちは、税金の恩恵とも言える現在の生活の豊かさや、便利さが当たり前になりすぎていないか、税金の使い道として最大に優先すべきことは何なのか、税金に過度な期待をしすぎていないかなど深く反省し、この貴重な税金を持続可能な財源とするための『使用水準』を吟味する時代がついにやってきたのではないかと思う。この豊かな日本へと導いてきた尊敬すべき先人達は、自らを厳しく律し、納税をすることで、自国を支えていくことに自信と誇りを持っていたのだと思う。だからこそ、尊い税金が生きた税金となったのだと思う。数年後には、私も納税者となるであろう。その恩返しのため、人に役立つ税金を納め、次の世代へ引き継ぎ、この豊かな日本を維持し発展させていくことが、現代に生きる私たちの責務だと実感した。

税を納めるということ

セントヨゼフ女子学園中学校

三年 近澤 佳南

私は小学生のときに税ウォッチングというものに参加したことがある。警察署、裁判所、ダムなどを見学し、税金がどのように使われているのかを学んだ。しかし、当時の私には自分にはあまり関係のないところが多いな、という思いもあった。それは間違いであって税金はそれら以外に、目に見えないものにもたくさん使われている。医療、教育などだ。私の生活は税金がないとひどいものになってしまう。今まであまり考えたことがなかったけれど、私たちの暮らしは税金によって守られているのだ。やはり税金は私たちにとって必要なものだと思われる。

では税金はどこからくるのだろうか。税金は日本中の人々が義務としてさまざまな形で納めたものである。この前店で見た店員さん、毎日駅に立っている駅員さんの払った税金が私たちのために使われている。それは私たちをつないでいる、といえるかもしれない。また、今の高齢者の人たちが働いていたころに納めていた税金が現在働いている人たちのために、その人たちが納めたものが私たちのためになっている。税とは、受けつがれているすばらしいものだ、と考えることもできる。

だが、税金に関しての問題はある。

テレビのニュースでは使われることのほとんどない立派な建物、必要のない道路など税金の無駄使いがよく見られる。私はそれを見るたびにもったいないことをするなあとと思う。また、少子高齢化が進んでいる日本。二〇五五年には一・二人で一人の高齢者を支えなくてはならない。自分が払っているものが将来返ってくるだろうか、という不安もあるだろう。さらに、日本は国民からの借金、国債が増え続けている。日本政府は税金が私たちにとってどのような良い面で使われているのか。それを国民に理解してもらえるようにすべきだ。国民から預かった税金を無駄な支出を一円もせずに、私たちが安心して、豊かな生活を送るために使ってほしい。

私はまだ、税金を納める年齢ではないけれど、その日のために少しずつ税金について学んでいきたい。今、年金を受け取っている高齢者の方たちや、大人たちは私たちの生活を支えてくれている。税について学び、電車の中で見る会社員の人への見方も以前と変わったような気がする。彼らが働いて稼いだお金の一部は私たちのために使われているのだ。私は感謝しなくてはならない立場だ。私が大人になったときには、今度は自分たちが日本のお年寄り、子供たちのために義務を果たしたい。

私たちを支える税

四日市市立内部中学校

三年 中村 有希

税。それは、私たち中学生には関わりのないものかと思っていた。しかしこの作文を書くに当たって、中学生であるからこそ関係のある税が存在するということを知った。

私は、毎日学校に通って、様々な勉強をしている。それは、国語や数学であったり、先生や友達とのふれあいであったりする。これらの勉強ができるのは、全て、勉強のできる十分な環境が、税によって与えられているからだ。私たちが授業中いつも開ける教科書。私たちが使う机や椅子。先生が私たちに教えるために使う黒板。学校という建物自体だってそうだ。そして先生も税を給料として働いている。その先生がいなければ、私たちの「勉強」は話にならない。

そう考えてみると、私たち中学生は税に囲まれ、そして税に大部分を支えられていて、その身分だ。それなのに、私は税について一度も考えたことがなかった。今考えてみれば、何に支えられながら学校生活を送っていたのかも知らなかった自分をとて恥ずかしく思う。

だが、私たちが税に支えられて教育を受けているということを知った今で

は、自分が大人になった時の子供のころまで考えるようになった。私が大人になった時、もし多くの大人が十分に納税をしなければ、子供達は、今の私たちのような十分な教育を受けられなくなってしまう。未来の私に自分の子供ができれば、きっと、自分の子供にもたくさんのことを学んでほしいと思うだろうし、十分な環境で教育を受けさせてやりたいと感じるだろう。今の私のように、先生や友達と、一緒に教室で一緒に勉強したり、おしゃべりをしたり、掃除をしたりすることの楽しさや大切さを感じてもらいたい。きっと、私たちの親もそう考えながら税を払ってくれているのだと思う。だから私の親は、税が高いからそれが家計の重荷になる、などとは決して言葉に発しないし、きっと、税を払うことは自分達の責任、と考えているのだと思う。そのような思いがたくさんあるから税は成り立っていて、それによって支えられている人は笑顔になれるのだと思つた。

大人になって、税を納める側にたつても、税によって支えられている今の自分を忘れたくはないし、もちろん忘れるつもりもない。そして、これから、税は、たくさんの人を支える税であってほしい。

生きた税金の使い方

守山市立守山南中学校

三年 森 泉 菜 々

「キキイッ」

私達家族の少し前を、車椅子に乗る老齢の女の人とそれを押す息子らしき人が歩いていった。この歩道は、デコボコのつぎはぎだらけで傾斜があり、普段から私達も四苦八苦する。突然、その男の人は、車椅子ごと車道に降りた。幸い、車が急ブレーキをかけ、事故には至らなかったが、その場に居合わせた私達は心臓のドキドキがしばらくおさまらなかつた。男の人は、荒れた歩道を車椅子で通るのが、これ以上無理だと思ったのかもしれない。

多額の税金の無駄遣いが、指摘され続けている。その一方で、道の整備や建物の耐震化、福祉等、多くの住民が欲している所に、税金が行きわたらないのは何故だろう。

国民は憲法によって、自分達の生活を保障するために納税する「義務」が課せられている。そして、実は「義務」と同時に税金の使途について、適正かをチェックできる「権利」も与えられている。多くの会社員は、源泉徴収制度により税金が引かれた給料を受け取る。私の父は「会社の業績によって変わる給料の増減には敏感になるけれど、すでに引かれている『税金』には

鈍感かもなあ。」と話している。税金を払った感覚が薄いため、無駄遣いされても、「権利」を行使する人は少なく、結局諦めてしまいう一因になるのだと思った。

今、「地方分権」へむけて大きく動こうとしている。実現すれば、地域が独自に予算の優先順位をつけたり、采配できるようになる。自分達の住む地域で、必要なものと不要なものは、住民が一番知っている。自分達の意見が反映し易く、目に見える形となる。どこか遠い手の届かない存在だった税金が、みんなが一生懸命働き絞り出した「生きた使い方をしなければならぬお金」へと変化を遂げる。但し、地方分権を進めるにあたっては、地域間で格差が生じないように、議論を重ねることがとても大切だと思う。

又、膨大な国の借金対策の一つに、消費税の引き上げが検討されている。所得によって消費税が家計に与えている影響はかなり異なる。例えば、食費で考えると、生活に余裕がない家庭ほど、家計に食費が占める割合は大きくなる。いくら節約に励んでも、生命を維持するためには欠かせないものである。そういうものには、税金を課さない等、私は消費税を見直し、思い切った過去の物品税に近い形を検討する事も一つの方法だと考える。

しかし、何より無駄に遣っている税金を失くすことが最優先だ。一人ひとりが、税金の使途に関心を寄せ、意見

を持ち、絶対に自分達の大切なお金を有効に使うのだという強い姿勢でいる事が大事だと思う。

中学生の私達も、おこづかいで買い物をするれば税金を払う。「まだ」ではなく「もう」すでに「納税者」だ。社会のしくみをしっかりと学び、見極める目を養っていかう。

将来、私達の世代に託されるのだから。

税が担う役割

甲賀市立水口中学校

三年 倉 田 孝 幸

現在、経済危機を抜け出すために行われている政府の景気対策が、時々ニュースで取り上げられています。そこには国民の税金が使われ、国民がその恩恵を受けています。ただ、一時的なものでは自分には関係なさそうに思え、いまいち実感がわきませんでした。そこで、身近で使われている税金について調べ、考えてみました。すると、税金が私達の生活に深く関わる四つの役割を果たしているということが分かりました。

一つ目は、学校教育の充実化です。今、義務教育の最終学年にいる私ですが、今まで学校で勉強してこれたのも、国や都道府県が多額の費用を負担してくれたからです。もし、それがなく自

分達で費用の全てを負担することになると、家の財政が苦しくなるばかりか、充実した教育を受けられない人が出てくることになるのではないのでしょうか。二つ目は、消防、救急、警察による治安維持です。火事や急病、事故や事件など、万一の時に頼れる機関があること、また日常でも予防のための啓発活動やパトロールをしてくれていること、これが、私達が安全・安心に暮らすための重要な要素だと思います。

三つ目は、道路や橋、バスなどの交通網の整備です。買い物や通勤・通学などで移動するとき、どのような手段でも道路や橋が必要になりますし、現代の物流においても非常に重要な役割を果たすこととなります。また、車のない人達にとってバスは、生活する上で利便性の高い交通手段になっています。

四つ目は、医療や年金などの社会保障です。病気やけがで入院したときに、国が費用の一部を負担してくれたり、職を退いた後も生活できるように年金を支給してくれたり、と、不測の事態の時や老後の生活を保障してもらえます。今後少子高齢化が進む中、この制度がより重要になると考えられています。

このように、生活に欠かせない重要な役割を果たすため、税金が使われているのです。

先日の衆議院議員選挙では、増税の話と共に減税を掲げる党も現れました。税金は身近なものですから、増えるの

税が守るもの

大阪信愛女学院中学校

二年 板東歩実

今年の五月、祖父母の家の裏隣から出た火事は、黒い煙を伴って空を覆いました。やがて不気味な炎が、その家を取り囲んだ時、何台もの消防車が駆けつけてくれて消火に当たって下さいました。家の中に居た祖父母を若い消防団員が抱きかかえ、貯金通帳と印鑑を探す祖母に、身の回りの物を持ち出そうとする祖父に、

「命には代えられません、命が優先です。お願いします。外に出て安全な所まで避難して下さい。」

と言って下さったそうです。祖父母は、孫と同じか、それより若い方が懸命に自分を助けようとしている姿に打たれ、何も持たずに家を出て、裏隣の火事を黙って見ていたそうです。

近くの交番の警察官も訪ねて下さり、座ることも忘れていた祖父母に、
「後が堪えますから、少し座らしてもらいましょう。」
と近所の方に声を掛けてくれて、縁台を借りて来てくれました。その間も消防隊員の方々は必死になって消火活動をされており、
「バサッー。」

と屋根が崩れ落ちる中も火元に向かってたホースに迷いはなく、やがて火は消

と、仕方ないと思うそうです。

国民は、より良く生きるために必要な、色々な公共のサービスを受けるために、税金を納めています。

私の通っていた小学校は、少子化のため、3つの学区が統合して生まれた新しい学校でした。新校舎が建てられ、とても良い環境で学ぶことが出来ました。

また、学校運営協議会を立ち上げ、国からの補助を受け、図書館にナビシステムが入ったり、学校の借りた畑で作物を育てたり、地域の皆さんにお茶やお花、絵画や将棋などを教えていただく文化教室があったりと、充実した学校生活を送ることが出来ました。

もちろん地域の方々のご協力があったから出来た活動ですが、国からの補助金が無ければ出来ないことでした。

最近、「税金の無駄遣い」という言葉をよく耳にしますが、何が必要で、何が無駄遣いか、という判断はとても難しいと思います。

人間は、どうしても自分のことばかりを考えてしまいます。自分のことばかりを考えるのではなく、今一番困っている人は誰なのか、と考えるようにすれば、皆が楽しく幸せな人生を送れるのではないかと私は思います。

もちろん、何でも安いほうが助かります。タダならもっと助かります。

でも、国の使えるお金は限られています。何かを安くするために、補助金を増やせば、他の補助金を減らさなけ

は嫌だ、減るのは構わないと思うかも知れません。しかし、必ずしも増税が悪く、減税が良いとは限らないと思います。何のために増税するのか、無駄を全て省いてそれでも増税が必要なのかということ。あるいは、減税した分の財源はどうやって確保するのか、減税によって行政サービスの質が低下することはないのかということ。そういったことを自分が納得するまで知り、考える必要があるのではないのでしょうか。私は単に、増税に怒り、減税に喜びするのではなく、その中身を知り、先のことを考えることが大切ではないかと考えます。

今から数年後、私にも様々な税負担が求められてきます。ただ指示のままに納めて終わりではなく、それがどのように役立てられていくのか、考えられる人になりたいです。

税金に守られて

京都市立上京中学校

三年 田中玖美

私の家は、年金受給者の祖父母とサラーマンの父母、そして大学生の姉と私の三世代6人家族です。

父母は、介護保険料や社会保険料の負担や税金の額が増えていくことを、決して喜んではいませんが、身近にいる祖父母がお世話になっていると思う

ればなりません。

また、補助金を増やしてばかりだと、国のお金がなくなるので、不足分は、国民から税金として徴収しなければならなくなります。

税金が増えるのは、もちろん嬉しいことではありません。

しかし、少子高齢化社会を切り抜けるためには、増税は避けられないことだと思います。

今、元気に働く勤労世代も、将来は、年金生活となり、医療や介護、福祉などの、公共のサービスに助けられることになるのです。

そして、そのお金は、私たち今の子供世代が支えていくことになるのです。人は助け合って生きていくのです。いろんな事情で、税金を納めたくても納められない人もいます。

税金を納める事が出来るということ、それなりの生活を送れているという証拠です。

だから、そういう人は幸せだと思えます。

私が成人になったら、公共のサービスを享受する権利を得るために、納税の義務をきちんと果たしたいと思っています。

えて白い煙も収まりました。延焼は免れたのでした。祖父母の家は、消防隊員のお陰で外壁が少しこげた程度で済みました。

大切な何かを失うかもしれない時、私達が為す術もなく途方に暮れている時、消防隊員、警察官、救急隊員、レスキュー隊員等、私達の人生そのものを守ってくれているこの人達は、皆税金という形の恩恵なのです。

私は、祖父母の無事と家の無事に大泣きしたのを今でも覚えています。身を持って知るこれらの恩恵に気付かされると日常生活の中にあるのは教科書の無償配布、ゴミの収集、道路や公園の整備など、私達の安全な生活を守る為に必要なサービスが、税金によって支えられているのです。

税金の使われ方に色々な考えがあるのを聞いたことがあります。税金そのものは、今や私達と切り離すことはできません。というのも、生活を支える基盤となっていると感じるからです。豊かな社会を築いてもらった先駆者に感謝しその後を引き継ぐ私達が、今以上に安全で安心できる暮らしができるように、これからも税金に関心を持ち続け、仕組みを正しく理解し、納税する義務が生じる年齢になった時には、進んで納税に努め、支えてもらうばかりではなく、支える側になりたいと思います。

日本人であること

大阪市立新北野中学校

三年 白井 エリナ

「日本人になる」とある日、父が私に宣言しました。

私の父はインド人で、二十年以上も日本に住んでいます。兄が来年二十歳になり、「当然日本人にする」と言っていました。父は年老いた時さびしいからと、日本人になる決意をしたそうです。

私は母に、「日本人になるためには、何をするの」と聞くと、説明してくれました。

法務局に、必要な書類を添えて帰化申請書を提出するだけです。大抵の人は司法書士という専門家に依頼するのですが、「自分たちで申請しようと思うのよ。」と両親は自分たちががんばって提出することに決めました。

父がインドの親族関係を記載した書面や履歴書に、それを証明する公的な書類を添えなければなりません。日本の生活はどのようにしているかを証明する必要があります。ちゃんとした家に住み子供を育てているか、適切な仕事をもち十分な収入があるか、また日本の法律を犯していないかなどです。父は料理店を経営しています。ですから納税を証明する書類がとて多いと話していました。

「税金ってそんなに種類があるの」

所得税や個人事業税、消費税、市民税などがあります。そういえば、母はいつも二月頃になると、夜遅くまでパソコンに向かって前の年の店の売上げや経費を整理しています。そしてその結果を税理士さんに見てもらっています。その書類からそれぞれ収める税金を決定するというしくみだそうです。すべての税金を決められた期日までに納めなければなりません。それぞれの税金を扱う事務所が違うので、あちこちの事務所へ支払った証明書をもらいに行かなければならなかったそうです。

両親はすべての書類を整え、無事提出できました。自分たちですと日本人として税金を納めることや法律を守ることがいかに大事であるかを再認識できてよかったと母が言っていました。選挙が近づき、この税金の使い方を議論している番組をテレビで見ます。収入が急になくなり生活できなくなった人たち、豪雨で家を失った佐用町の人たちなど、私たちの生活はある日突然失われることがあります。自分の力では限られるのがあります。そんなときに税金が使われています。

日本人として、正しく税金を納めることがいかに大事であるかを、父の帰化問題で教えてもらいました。父は日本人になったら選挙権がもらえるんだ、と選挙を楽しみにしています。自分の税金を納得した使い方をしてくれる人に投票したいそうです。

私も大人になったら、少しでも日本の生活が良くなるように使われる税金を納められるようにしたいです。

母の納める法人税

姫路市立朝日中学校

三年 樋口 彩花

私の父は私が二歳の頃に亡くなり、私は母子家庭という環境の中で育ちました。それから母は、私が五歳の頃より会社を経営し始め二人の子どもを育てながら現在も忙しく働いています。

私が子どもだった頃、こんな日は家に居てほしいと思う日も仕事で母は忙しく、自分が母親の仕事の犠牲になっていると思った日もありました。幼心に母親は何故こんなに懸命に働いているんだろうか、子ども達より仕事が大切なんだろうかと小さかった頃は、思ったりすることもありました。

そんな母親に税金について尋ねてみました。すると、母からひとつの社会貢献であるという答えが返ってきました。

私は、社会貢献という言葉の意味は理解できませんが、税金と社会貢献がどのように関係するのか、その結びつきが理解できませんでした。

母親としての使命が、子供の幸せを願う子どもを世の中の役に立つ人に育てることだとしたら、経営者としての

税で潤う社会

学校法人西大和学園中学校

三年 津 田 洋之介

使命は、社員や社員の家族の幸せをつくり、時代を一步進める活躍をし、会社と利益を生み出し法人税という税金を払うという形で世の中の役に立たねばならないと考えているということでした。

母親が納めている税金には、法人税だけではなく、市民税や県民税、所得税や消費税、自動車税などがあるそうです。納める先の機関はそれぞれ国や県、市と別々だそうです。また、税金は直接税と間接税に大きく分かれていてと詳しく説明してくれました。

それらを納めることにより、社会貢献をするということは、人間として生まれた役割のひとつでもあるように思うというような話を聞かせてくれました。納めた税金は、私達の教育や生活において有効に活用され、豊かな生活が保障されているそうです。

そんな話を聞きながら、いつも仕事で忙しくしている母が、肝心な時には必ず私の傍でいつも励まし、勇気づけてくれたことを思い、さみしい思いとは裏腹に大好きなのは、母親の心の中の根底にあるものが、自然と私に伝わっていて、すごく大きな愛情を感じとっていたからなんだと思いました。

次世代を担う私たちにも、さらに次世代に、親から子どもへ、命から命へと、税金を納めるというひとつの形で社会貢献をする使命があるということを知ることができました。

先日、僕は学校の行事で富士山に登った。悪戦苦闘の末、頂上まで辿り着き、二日間かけての登山は成功したのだが、その中で特に感じたことは、普段の生活の利便性の高さである。登山しやすいように整備されている

と思われる富士山でも、当然ではあるが、水を自由自在に使えることや砂利道から風で砂が舞い上がることなど、苦労する点がたくさんあった。何気なく過ごす日々の中で、私たちはいかに快適に暮らせているのかということを再認識させられたのである。蛇口をひねれば水が流れ、外へ出ればきれいな道が舗装されているという私たちにとつての当たり前の事実も、私たちが税金を払うことから始まり、成り立っている。家から一歩外へ出れば、道路・公園・図書館・地域の施設など、「みんなのもの」であふれている。それらに対して税金を払うのは当然のことだと思う。

人間は互いのつながりや協力の中で生きている。僕の一生にどれだけの人々が関わるのかなど全く想像できないが、見ず知らずの人も含めて、たくさんの方の努力が社会の一人一人を支えていると思う。日本に存在すること

ができていだけで、紛争に巻き込まれることはなく、難民になることはなく、飢餓に苦しむこともなく、普通に生活していれば幸せに暮らすことができる。これはとても感謝すべきことだと思う。国の発展にとつてとても重要な教育にも、税金が使われている。税金は目に見えるものだけでなく、私たちの安心と安全も作り出しているのだと思う。

しかし、世界にはまだまだ生活に苦しんでいる人がいる。常に命の危機にさらされている人さえいる。日本は世界の中でもかなり恵まれた国である。僕が大人になって税金を納める時、その一部が発展途上国の支援に使われていたら、嬉しいだろうと思う。国の教育や医療の質が向上することで無意味な争いが減るということは十分あり得ると思うし、いつかは支援する必要さなくなるとも思えない。豊かな国が増え、国と国とがもっと協力し合えるようになれば、日本も含め世界中の国にとつてプラスになるはずだ。

時々、ニュースなどで税の申告を偽る人がいると聞く。日本のような豊かな国に生まれながらそのような勝手な行為をする人がいることを残念に思うし、そのような人は結局自分のためになっていないことを気付くべきだ。

よく考えてみると、税金として個人のもとから離れる分以上の価値が返ってきているのではないかと思う。それは教育・安全・快適など様々な形と

なっている。僕は、将来、喜んで税金を納められるような大人になりたい。

税金の使い方

十津川村立小原中学校

二年 高 井 駿 希

僕は以前、テレビのニュース番組で、ある町の町長や役場の人と住民がゴミ処理の問題について話し合っているのを見ました。その町では、住民に町指定のゴミ袋を使ってもらいたいと説明を開いたのですが、住民はそのゴミ袋は値段が高いから困ると反対していました。住民の一人が

「今までゴミは安いゴミ袋やもらったレジ袋に入れて出していたのに、これから毎月千円以上の出費になります。ゴミにそんなに金は使えません。」と怒って言うのと、町長は困った顔をして

「でも、町もゴミ処理にはすごく費用がかかっているんです。少し助けてもらわないと。」と答えていました。

それを見て、
「今まで、ほとんどただやったのに、そんなにお金がいるようになったら、そらみんな怒るわなあ。」

と僕が言うと、お母さんが
「ただじゃないで。町がそれだけ費用をかけてるっていうことは、住民の税

金がそれだけ使われているっていうことや。ゴミ袋代として出すか、税金として出すかの違いだけで、どっちにしても自分達のお金がゴミ処理に使われることに違いはないんや。」

「ゴミ袋にお金がかかって、今までゴミ処理に使ってきた税金が、あの町の医療費や教育費に回されるんやったら、住民にとってはありがたいことや。でも、議員の給料や接待費とか、必要のない道路の工事に回るんやったらとんでもないことや。」

「あんなけんかみたいなこと言うてないで、『今までゴミ処理に使っていた予算はどこにまわるんですか。』って聞いて、いい税金の使い方を考えたらいいのに。」

「あんないました。そして二人とも『あんなけんかみたいなこと言うてないで、『今までゴミ処理に使っていた予算はどこにまわるんですか。』って聞いて、いい税金の使い方を考えたらいいのに。』」

「あんないました。そして二人とも『あんなけんかみたいなこと言うてないで、『今までゴミ処理に使っていた予算はどこにまわるんですか。』って聞いて、いい税金の使い方を考えたらいいのに。』」

「あんないました。そして二人とも『あんなけんかみたいなこと言うてないで、『今までゴミ処理に使っていた予算はどこにまわるんですか。』って聞いて、いい税金の使い方を考えたらいいのに。』」

「あんないました。そして二人とも『あんなけんかみたいなこと言うてないで、『今までゴミ処理に使っていた予算はどこにまわるんですか。』って聞いて、いい税金の使い方を考えたらいいのに。』」

「あんないました。そして二人とも『あんなけんかみたいなこと言うてないで、『今までゴミ処理に使っていた予算はどこにまわるんですか。』って聞いて、いい税金の使い方を考えたらいいのに。』」

感謝の気持ちで

和歌山市立西和中学校

三年 安部 優希

十五年前、母は私を妊娠中に重度の妊娠高血圧症候群になり、私は予定日より二ヶ月余り早く生まれた一三六二gの極小低出生体重児で、すぐに新生児集中治療室（NICU）に入院した。極小低出生体重児などリスクの高い赤ちゃんの医療費はとて高額なのだが、未熟児養育医療制度を受けることで、世帯の所得に応じた一定の医療費負担とオムツ代などの支払いだけで私は高度な医療と医師や看護師による献身的な看護を受け、今は元気に学校に通い多くの友達と充実した毎日を過ごしている。

未熟児養育医療制度とは、身体の発育が未熟なまま生まれ、指定養育医療機関に入院を必要とする赤ちゃんに対して治療に必要な医療費を県が負担する制度だ。

もし、未熟児養育医療制度がなければ、大人の親指ほどしかない細い手足に、点滴の針が刺してあったり、多くの機械を取りつけている生まれたばかりの私の姿を目の当たりにし、また、医師からは未熟児網膜症などのこれから起こるかもしれないリスクの説明を受け、出産の喜びより不安や心配で辛うときに、毎月何百万もかかる高額なNICUの医療費は、精神的にも経済的にもかなりの負担になっていたと両親は話してくれた。

日本の出生率はどんどん下がっているのにNICUを必要とするリスクの高い赤ちゃんは増えていると聞く。しかし、NICUのベッド（保育器）は常に満床状態で受け入れが難しい状態だ。「ベッドを増やせばよい」と考えるのは簡単だが、NICUのベッドを三床増やすと看護師が一五人必要で、人件費や設備費などで年間一億円程度かかるそうだ。

NICUを含めた医療体制の整備や医師、看護師の人件費の多くに税金が使われている。税金は「高いもの」や「取られるもの」と思われがちだ。だが、私達の気がつかない所で多くの人達が税金による恩恵を受け、安心して生活することができている。

私は両親や医師、看護師、社会に支えられて育まれてきた。将来、私が社会を支える一員になったとき、健康に気をつけて元気に働き、義務としてで

はなく、誰かを支えているという誇りと支えてもらっていたという感謝の気持ちを持って税金を納めたいと思っている。

世界の中の日本

浅口市立金光中学校

三年 安田 花織

私は去年の夏、国際理解のための派遣事業に参加し、マレーシアを訪問しました。私はそこで驚いたことがあります。それは、トイレが有料だったことです。なぜなら、水があまり豊かではないからです。また、生水も飲めませんでした。日本では当たり前だったことが、他の国では当たり前でできないこと。これはマレーシアだけではないと思います。日本では水道水を飲むことができるし、公園などにも水飲み場が設置されています。このような便利で安全な暮らしができるのも税金があるからです。水の問題だけではなく、医療費や学校など、日本のように医療費を国が負担してくれたり、教科書を税金でまかなってくれる国は世界に多くないと思います。

私は以前、税金について良いイメージをもっていませんでした。特に私たちにとって一番身近な消費税についてです。最近テレビで、消費税を引き上げるといった話を聞いたことがあります

す。私は「消費税なんかなくていいのに」と思いました。なぜなら、税金の使われ方を知らず、税金について正しい知識をもっていなかったからです。しかし、この作文を書くにあたって税について調べました。すると国の歳入の約50%が税金によるもので、その中の約10%が消費税からだとなりました。実際には何兆円にもなるということが分かりました。もし消費税がなかったら、国の歳入が減り、国の借金が増えてしまうことになるかもしれません。

消費税がなくなると、結局私たちが困るんだと感じました。私は今まで消費税の使い道を知らずに納めていました。しかし今は、税金が私たちの生活のために使われていると分かりました。税金がなければ今の生活が成り立たないということを知りました。また今の日本の消費税率は5%ですが、デンマークなどの国では25%ということを知りました。このことを知って、日本よりたくさん消費税を納めている国はたくさんあることを理解し、納得してきちんと税金を納めなければいけないと思いました。

私は便利な生活が送れるということ、を、当たり前だと思っていました。けれど、世界には日本のような暮らしができる国ばかりではありません。日本も税金のおかげで、豊かな暮らしができています。このことを一人一人がきちんと理解し、税金の使われ方を知った上で税金を納めるべき

だと思っています。そのために、私は税の使われ方や仕組みなどを学ぶ機会をたくさん作って、税について正しい知識を得ることが大切だと思います。私も大人になったら、正しい知識をもって税金をきちんと納められる納税者になりたいです。

税金のありがたさを感じた時

広島市立安佐中学校

三年 西川 なつみ

私は、クラブ活動で吹奏楽部に所属している。楽器は、クラリネットを担当していて、中学校最後の夏休みも、毎日朝早くから夏のコンクールなどの大会に向けて練習を重ねている。

先日、私にも二万円の定額給付金がもらえたこともあり、母から「何か買いたいものはあるの」と聞かれた。私は自分のクラリネットが欲しくなり、楽器店へ行ってみた。ショーケースの中にあったクラリネットの値段を見て驚いた。十七万四千元。他の楽器を見てもどれも高価で、定額給付金などではどれも買えそうになかった。しかし、こんな高価な楽器が学校にはたくさんあり、自由に使えるのはなぜだろうと考えた。

そんなとき、私はふと小学校の夏休みに税務署見学に行った時のことを思

い出した。麦わら帽子をかぶり、虫捕り網を持った広報の人が、税金のしくみや小学校や中学校などにたくさんのお金が使われていることなどを説明してくれた。そして、私は学校で使っている大好きなクラリネットや他の部員が使っているたくさんの楽器に税金が使われていることに気が付いた。母からは、定額給付金自体も税金により支給されていると聞かされた。私は、改めて税金のありがたさを実感し、みんなが納めた税金により学校に置かれた楽器を大切に使わなければならないと思った。

税務署見学するとき、警察署や消防署も税金によって活動していると説明を受けた。去年祖母が脳内出血で倒れて救急車で市民病院の救命救急センターに運ばれ手術を受けた。その時の救急車も税金によって動いていることを考えると、祖母は税金で一命を取り留めることができたと言える。

しかし、国民の中には税金を滞納する人がいることを父から聞いた。学校では、国民の三大義務の一つが、納税の義務であることを学んだ。私は、税金を払わない人には税金の重要性や使われ方をもっと分かってもらうことが必要だと思う。

最近、衆議院選挙を前にして、テレビや新聞で税金の話がよく出てくる。消費税を増税するかしないかが問題となっている。消費税は、私たちが買い物をするときに払う必要があるもので、

増税は影響するが、社会全体にとって必要なものであれば、みんなで負担するのは当然のことだと思う。逆に、税金の無駄遣いという話もよく聞くけれど、税金を納める人のことを考えれば、使い方について十分考え、大切に遣ってもらうことが大事だと思う。

これからの社会は、少子・高齢化が重要な課題で、老後の安定した生活や健康で文化的な社会を実現するためには、税金がますます重要になってくる。将来、私も働くようになったら、税金をちゃんと納めて社会に貢献し税金の使われ方についても関心を持ちたいと思う。

「納税の義務」について考えたこと

阿波市立土成中学校

三年 藤本 智萌

三年生になって、社会の授業で公民分野を学習するようになりました。公民分野では私たちが生活している社会や政治・経済の仕組みが、どのようになっているのかについて学んでいきます。私は公民の学習が好きです。それは、ニュースや新聞で見聞きする政治問題・経済状況、普段の生活では意識することがあまりない日本国憲法について学習するからです。

特に興味を持ったのは私たちには権

利の保障だけでなく、果たさなければならぬ義務があるということです。日本国憲法には国民の三大義務が定められています。それは、「勤労の義務」「納税の義務」「教育を受けさせる義務」です。

「義務」というと、なんとなく強制的な響きがあります。中でも、「納税の義務」は「税金を取られる。税金を仕方なく納める。」というマイナスイメージを持つてしまいます。このことを父に話すと、

「英語では納税者のことを、『tax payer』つまり、税（タックス）を支払う人（ペイヤー）と書くんだよ。」

『税を納める』と考えると取られるように思いかもしれないが、社会保障や教育のために『税を支払う』と考えたらどうかな。」

と教えてくれました。私はそれを聞いて、税金から、国民医療費、年金、公共事業、教育費、警察・消防費、ゴミ処理費用、経済協力費が支出されていることを思い出しました。

一番身近な教育費について調べてみました。子供に教育を受けさせるためには、義務教育の九年間で約八〇〇万円のお金がかかるそうです。私の身の回りだけでも、毎年もう新しい教科書、パソコン、実験器具に体育用具、去年の校舎の耐震工事、今年の体育館の改築などあればきりがありません。国民が「納税の義務」を果たしてくれていることで、義務教育を受けること

ができていますのです。私は国民の三大義務について、「私たちに教育を受けさせるために、大人は働いて、税を支払ってくれている。」と考えられるのではないかと思います。そして、税金を納めることを、何か損をしているような感覚で捉えるのではなく、将来への投資という誇り高い行為であると考えるべきだと感じました。

毎年四月にもらう教科書の裏表紙には、

「この教科書は、これからの日本を担う皆さんへの期待をこめ、国民の税金によって無償で支給されています。大切に使いましょう。」と書かれています。私たちには、「納税の義務」を果たしてこられた人々の気持ちに込める必要があります。最大の効果が得られるように無駄なく使うためにも、一生懸命に勉強しなければならぬと気づきました。そして次世代の子供たちへと税のリレーができるように、税金についての意識を高め、「納税の義務」をきちんと果たせる大人になりたいです。

確かな未来のために

三豊市立三野津中学校

三年 藤田 知美

消費税—これは、中学三年生のわたしが唯一納めている税金です。服を

買っても、お菓子を買っても、五パーセントという消費税はついてきます。消費税がなければ、もつといろいろと買える物ができるのに…税金を納めてもわたし達にはあまり恩恵がないのに…わたしははずっとそう思ってきました。なぜ納めなければいけないのか、納めると何かいいことがあるのか、と。

しかし、一枚の紙を見て、その考えは改めさせられました。それは、祖母の「サービス利用表」という紙でした。祖母は今年九十歳を迎え、一人での生活が困難になってきたので、介護保険を利用しています。昼間は家で一人になつてしまうので、近くのデイサービスにお世話になっているのですが、その利用状況を記した紙でした。わたしはその紙を見て、とても驚きました。

サービス内容に始まり、費用総額、保険給付額、利用者負担など、細かく書いてあったからです。それ以上に驚いたのは、利用者負担の欄でした。普通なら費用総額と同額になるはずなのに、たったの十分の一の金額でした。なぜこんなに安いのか、父に聞いてみると、「それは国が、わたしの払った税金でまかなってくれよんや。」

と、教えてくれました。祖母は毎日、楽しそうにデイサービスに通っています。そこでは入浴やリハビリ、レクリエーションなどを行っているそうです。年に一度の誕生日には誕生会を開いていただき、記念写真が家に飾ってありました。また、祖母のようなお年寄り

と会話することも楽しみの一つのようにです。祖母が毎日楽しく過ごしているのは、そして、普段父母が安心して働きに行けるのは税金の歳入があつてこそなんだなあと思いました。

考えてみれば、たくさんの方が税金で整備・運営されていることに気がつきました。わたし達が通っている学校はもちろん、道路や公園、病院、ゴミ処理施設など、なくてはならないものばかりです。他にも、もし警察署がなかったら、朝のお巡りさんの立哨はなく、事件が起こったときは、わたし達は安心して生活することができないと思います。このように、税金はいつもわたし達を守ってくれていたのです。身近過ぎて、いつの間にかあつて当たり前と思うようになっていました。

わたしは、消費税がなくなれば、などと考えていた自分を恥ずかしく思いました。それと同時に、税金の大切さを認識することができました。一人ひとりの納める税金の額は少なくても、国民全員が納めれば、国を守る大きな力になるのだなあと思いました。今は消費税しか納めていないわたしですが、大人になったら日本のため、自分のために、きちんと納税していこうと思います。そして、これからわたし達の税金を福祉のため、教育のために役立ててほしいと思います。

私達の大切な税

松山市立道後中学校

一年 高橋 芹 奈

二月、節分の豆まきが終わると、毎年決まって母はあることを始めます。小さな四角いマスがいっぱいの用紙を手前に、通帳・たくさんの山積みされたレシートや領収証や証明書を左に、そして電卓を右に、カチャカチャ計算したり、記入したり、小さな紙を並べたり、重ねたりしている母の姿が四〇五日続きます。実は、我が家は塾をしているので、この時期が来ると確定申告が必要のため、書類を作成していたのです。それを知るまでは、いったい何をしているのだろうとずっと不思議に思っていたものでした。

私が学校で初めて税について習ったのは、小学校六年生の一学期の歴史の授業の時でした。日本で税制が出来た今から約一四〇〇年前、まだお金がない時代は稲・地方の特産物・布や労働力の提供が税とされました。でもその量に、当時の人々は大変苦しんだそうです。三学期には、現在の税の種類や内容について学習しました。物を購入する時に一緒に納める消費税や酒税などの間接税に、土地や建物を持つている場合や収入に応じて納める所得税などの直接税という二つのタイプがあることも初めて知りました。こんな昔か

ら税はあったのかと、今私達のまわりにはまあなんていろいろな税でいっぱいなのかと、驚かずにはいられませんでした。

先日、何げなく見ていたテレビ番組のある国の女の子の話を、ぐっと胸がつまりました。十歳で本来なら毎日学校に通っているはずなのに、勉強どころか今日食えることが出来ないのです。母娘二人暮らしで、肝心のお母さんは病気で働けないばかりか、病院に行くことさえできないのです。これが日本だったら…。司会者の一言に私は思わずハッとしました。そうです。日本なら、諸手続きをすれば本当に困った時には、国が地方が手を差しのべて助けてくれます。そして、最低限の生活ができるように守ってくれます。それは、みんなが納める税のおかげなのです。この時、お金が動くことに必ず関係してきて、どちらかというと好ましくない税の存在を、改めて見直しました。少額かもしれないですが、何か購入した際私自身が支払う消費税も、どこかで役に立っているのかと思うと、なんとなくうれしくなりました。また、二月に、納税は私達国民の大切な義務だからと笑った母を、ちよっぴり誇らしく思いました。

私達の生活や環境は、税によって数えきれないほど守られ助かっています。小学校の通学路に危ないからと作ってくれた新しい信号はもちろん、予防接種、学校、新学年になると当たり前の

ようにもらう教科書などこれらすべてが、みんなが納めている税のおかげだということに心から感謝し、今まで以上に一生懸命勉学に励んでいこうと、心に強く思いました。そして、将来自分の希望する職業に就き、社会を支える一員として、私もしっかりきちんと税を納めていきたいと思っています。

税金へ感謝

北九州市立若松中学校

二年 松田 八重佳

私は北九州市にある児童養護施設で生活しています。そこは、親がいない子や共働きで面倒が見れない、虐待、普通の家庭環境で育つことが出来ない子など、様々な事情を持っている2才〜18才までの子が生活している施設です。そこでは、先生たちがとても良くしてくれて、1人ずつのおこづかいやお菓子なども家庭と同じくらいもらっています。

中1の夏休みに税金について学習をしました。当時は施設の事など全く知りませんでした。この1年間で少しは多く理解できるようになったと思います。

施設内に居ると疑問に思う事がいくつか出てきました。まず、1日3食のご飯が食べれるという事です。まわりからすると親が払えないなら誰がその

お金を払っているか気になります。おこづかいやお菓子、衣類、くつ、水道代、電気代、ガス代などもどこがお金を払っているか疑問に思いました。

施設の先生達に聞くと、国からの税金だそうです。国からという事はみんなが払っている消費税や所得税、法人税などで納められた国への資金が私達の生活費となっています。だから病気にかかったときも、治療してもらうこともできます。こんな風に私たちは国からの援助を受けています。でも私たちは、お金の使い方がよく分からず、「生活訓練費」としてもらっている、おこづかいを遊ぶ事にしか使っていない気がします。せっかく国からもらっているのだからもっと有効に使うことにしました。昨年度の目標は1ヶ月二千円のおこづかいで1年間1万円貯金を決めました。欲しい物もいっぱいある中、自分で作ったハードルはあまりにも大変でした。3月になると集計をして通帳に入れます。結果は一万三千円でした。達成感はとても大きいものでした。これからもお金の使い道について考えて貯金したお金をこれから、今までの生活費として国に納めていきたいと思っています。

私たちが生活費としてもらっている国からの税金にはあたたかい支援がありました。ボランティアとして来てくれる人もいるし、なに一つ不自由なく生きていられるだけで幸せだと思っています。私たちがこうして、家庭で

育っている子と同じように過ごせているのは税金を納めている国民の人々、国のおかげで今までの苦しかった日々やつらかった事も楽しく、明るい毎日に変われた事をとても感謝しています。同じ施設の子は「施設から出たい、刑務所みたい。」と言っていました。でも私は違うと思います。この施設を建ててくれて、税金という制度がなければ私たちはここに居ないと思います。例えば、人間関係がうまくてもがまんしなくちゃいけないときもあります。それを取り越えられたら将来の社会生活に必ず役立つと思っています。これからどんな思いをしてでも国から助けてもらった生命で税金を払っていきたいと思っています。

大雨と税金

北九州市立高須中学校

三年 藤 吉 彩

七月二十四日、福岡県に大雨が降りました。

私は祖母宅で両親と共に祖父のお誕生日のお祝いをしていました。夕方になるにつれ次第に雨量がすごいと感じるようになりました。するとテレビでJ.R.が止まったという速報が流れました。両親・祖父母と共に大きな事態であることに気づきました。

二階に上がると黄色のランプを点滅

させた車がゆっくりと走っているのが見えました。父が

「あー、役場が西川の水位をみて危険じゃないかチェックしてくれているんだな。避難する可能性がないか西川の状態を聞いてみよう。」

と言ひ、役場に電話しました。夜遅かったにも関わらず役場の人が電話に出て

「西川は護岸工事をしています。巡回でも安全を確認しましたので安心して下さい。」

と言われたそうで父はにっこりしながら、

「公務員も大切ななあ。」

と言いました。公務員と聞いて私は、社会の授業で学んだことを思い出しました。公務員の仕事は税金で成り立っているということです。私は税金がこんな形で使われているのかと考えながら、遠くで巡回の車が夜中も走っているのが分かり、安心して寝ました。

翌朝、飯塚の親戚の家が雨で水に浸ったという連絡が入りました。午後から両親と一緒にその家の片付けの手伝いをしていて町の役場の人がやって来て、

「災害ですから給付金などが出ると思っています。」

と親戚の人に言っていました。親戚のおばさんは涙を浮かべ喜んでいました。

今回、役場の人の川の巡回や、深夜の電話対応の事、親戚の家で見た災害時の援助などを身近に見て、これらの

仕事は全て税金でまかなわれていることを初めて実感しました。私達家族が安心して眠れたのも、親戚のおばさんが涙を流して喜んだのも、個人ではできないサービスであり、これらがいざという時に行なわれるためにも税金はなくてはならないもののだと思います。

税金については社会で勉強した納税の義務くらいしか分からず、税金は納めるものという印象が強かったのですが、今回の大雨によるいろんな体験は、税金によって私たちの生活が支えられていることを知る良いきっかけとなりました。

これからは衆院選という選挙にむけて各政党が税金をどのように使うかを訴えてくると母に聞きました。税金の使い方に関して興味を持ちながら生活していこうと思っています。

税から伝わる心

福岡教育大学附属福岡中学校

三年 原 口 瞳

今年の春休み、私は新学期に配布される新しい教科書をしまうために本棚を整理していました。懐しさを感じながら昨年度使っていた教科書を手に取ると、ある文章が目に残りました。「この教科書は、これからの日本を荷う皆さんへの期待をこめ、国民の税金

によって無償で支給されています。大切に使いましょう。」

探してみると、他の教科書にも同じこの文章が書かれていました。小学校入学から中学校三年生になった今年まで毎年もらってきた皆さんの教科書。

それらすべてが税金のおかげで私のもとへ無償で届いていたことを、この文章を読んで改めて実感しました。しかしそれ以上に私の心に響いたのは「期待」という言葉でした。

毎日私が無気なく過ごしている学校生活。この中にはたくさんの「期待のかたち」があります。登下校中に私の安全を守ってくれるカーブミラーや通学路に標された「文」の文字。教室の椅子と机や授業に欠かせない黒板とチョーク。中庭の木々やプール、体育館など…。学校をつくるものの全てが「期待のかたち」です。この「期待のかたち」によって私たちの学校生活は支えられています。

高くて私たちの生活に負担をかける嫌なもの。もちろん税金はなくてはならないものであり、税金によって今の私たちの生活は成り立っています。でもやはり、私は税金に対してそんなマインスのイメージをぬぐいきれていませんでした。そんな私に「期待」という言葉は新しい視点を与えてくれました。期待を込めて負担をする。税金は負担するものではありませんが、決して単なるお金ではありません。学校生活をつくる一つ一つ全てに、私たち子ども

税について

諫早市立諫早中学校

一年 宮崎 楓

税。中学生の私には身近なようで遠く自分には関係のないところにあるような、とても不思議な言葉で、制度です。そもそも何故何かを買うわけでもないのにお金を払わなければならぬのか疑問です。そういう話をしていると、祖父がこういふとえ話をしてくれました。

ある小さな村のお話です。そこに住んでいる村人達はとても働き者で毎日一生懸命に田畑をたがやし、毎年沢山の実りを得ています。ところがある年、村人の一人が病氣にかかり働く事ができなくなってしまいました。働けないと実りを得る事はできません。生活に困ったその村人をかわいそうに思ったとなりに住む若者が自分の収穫の中から三分の一を分け与える事になりました。それから数年後また一人の村人が病氣で働けなくなつたので若者は更に三分の一を分け与える事にしました。若者は毎日一生懸命働きますが、手元には三分の一の収穫しか残らないので暮らしは楽ではありません。その様子を見かねた村長が村人全員を集めて言いました。

「なあ皆の衆、働けなくなつた村人の面倒を若者一人に任せるのではなく、

セージが寄せられている。例えば、「バルーン大会の成功を願っています」とか「佐賀の環境を保全する活動に役立てて下さい」「子どもの健やかな成長を見守り子供にやさしいまちが育まれるように『子供へのまなざし運動』に賛同し、その推進に役立ててほしい」など……。地域を元気にしたい、豊かな自然を残したいなどという気持ちを大いに反映できてとても素敵だと素直に思った。二年ほどではあるが、私は佐賀を離れたことがある。遠くから見たふるさととはとても温かく大きな存在であつた。帰るといっそうその気持ちは強くなり、いつまでもこの佐賀の地を大切にしたいと思っている。魅力あふれるまちづくりに、いつか私も役立つことができたなら、どんなに幸せなことだろう。自分の力でそれを「かたち」として表すことができる日を楽しみにしている。

福沢諭吉が発表した「学問のすずめ」の中に、税金とは国民と国との約束であると述べられている。その国民の一人一人が「納税の義務」を果たすことで、税の公平な還元は成立する。潤いある暮らしを実現するために次世代の私達の責任は大きい。だからこそ、これまで以上に税への関心を持ち、いざ社会の「力」になれるようなしつかりとした担い手になりたいと思う。

悩ませた。「書くこと＝知ること」であり、あらゆる視点で情報を得ながら、少しずつではあるが私なりの理解を深めていった。

今年の梅雨は七月後半になって大雨が続き、山口県や私たちの住む北部九州にも多大な被害を及ぼした。いつも通りの生活を取り戻せるように安全が保てるように、この復興のために国や地方の財源が投入され、税金など有効に使われることになる。働き手が納めてくれた税金は、色々な場所で活用され私たちの暮らしを見守ってくれている。『ふつうに生活できる幸せ』は、失つてのちその有難さを感じることが多い。税とは、その地に住む人達の生活を保障し、支える役割を担っていると言える。

これからの日本を荷う子どもたちへと込められたたくさんの期待。私もその期待に支えられていることを忘れずに、積極的に多くのことを学び、そして将来、日本を支えていると胸を張って言える納税者になりたいと思います。

幸せの礎

佐賀大学文化教育学部附属中学校

三年 今井 莉穂

中学へ入り、夏休みになると必ず「税の作文」の宿題が課せられた。そのたびに税について何も知らない自分に気づき、どう作文にしてよいか頭を

わしらみんなで少しずつ米や麦を出し合う事にして村全体で助け合うようにしようじゃないか。」

村長の提案に反対する人もいましたが多数決の結果、収穫の中からカメ一杯ずつを持ち寄ってそれを病気になる村人達に分け与えることになりました。村人みんなで少しずつ負担し合うようになったので若者の暮らしもずいぶん楽になりました。

村長は更に村人を集めて提案をしました。「なあ皆の衆、今はカメ一杯ずつを持ち寄っておるがこれを三杯にしたいと思う。一杯は今病気になる村人のため、そしてもう一杯は次の病人にそなえるため、そして最後の一杯は町に売り、それで村の道や田畑の修繕をしようと思う。」

この提案には前以上に反対する村人が多かったのですが、結局、村人達はカメ三杯ずつを持ち寄る事になりました。初めは反対していた村人達も年月が経つにつれて村長の提案が正しかったのだと知る事になります。病気で働けなくなっても村から米や麦がもらえるしよく整備された田畑からはそれまで以上の収穫を得られるようになり、村の評判も上がり人口も増え大きな村へと発展したからです。

この話を祖父から聞いて私は税の仕組が少だけわかった気がします。村長が提案した平等に持ち寄る米や麦の使い道。つまり米や麦が税金であり、村のため、困っている人のため、そして

いずれは自分自身のために使われるものだと言うのがわかりました。

税と言う漢字は米が抜け落ちるという意味から来ているそうです。それはつまり収穫の中から一定量を国に納める事から出来た漢字です。負担は確かに大変ですが、とても大切で合理的な制度だと理解できました。

日本国民へ、 日本国民より。

大分市立大分西中学校

三年 田島 莉子

私たちの身のまわりには、間接的ではあるものの、「日本国民全員からの贈り物」が数多くあふれている。例えば、春に、義務教育を受けている私たち学生へ、かつて学生だった大人たちから、「勉強にはげんで下さい、そしてたくさん知識を身につけ、立派な大人になって下さい。」という思いの込められた贈り物。確かに、私たちが毎日授業をうける校舎や机、椅子まで様々なものがある。

もちろん大人だけが「税」を払っているのではない。私たちが書店で本を買ったり、文具や流行のCDを買ったりする時、必ず「消費税」という名の立派な税を払っているのだ。

ただ大人はそれ以上の物があり、所得税や法人税を支払うことで、私たち

子供や高齢者の人々、または保護をうけながらではないと生活が困難な人々のくらしを助けている。

時たま、「税なんて支払っていったって、私たちが高齢者になる時、年金はもらえないかも知れないだろう。返って来ない金を国に支払ったって、私たちにとっては無益だ。」と、そんなことを言う大人がいる。それを聞いて私は、「果たしてそうなのか？」と思った。

確かに日本の今の経済はお世辞にも安定しているとは言えないし、「今、私たちのために税を納めてくれているあなたたちのために、あなたたちが損をしないように必ず将来あなたたちを支えてみせます」なんて、そうしたいと思っ

「しかし税を納めない、日本国民の「納税の義務」を果たさない無責任な大人がいることによって、年金がもらえずに困っているお年寄りや、生活保護がうけられない人は、日本中にたくさんいるのではないか。確かにその人にとっては「何の利益もない」こともかも知れないが、「高齢者の方々」に年金を贈る」ことは、今の大人が子供だった時、働いたお金で教育を受けさせてくれた人たちへの「お礼」なのだ。

私たちも近い将来、税を納めなければならぬ。今の大人たちへ、お礼を

今年でおわる義務教育、今までの9

年間、私たちが机に向かって勉強できたのも大人たちやそれをやりくりしてきた国家の人たちのおかげなのだ。

私たちが大人になった時、この先生まれてくる子供たちが、私たちのように充実した教育をうけられるように、また、今まで私たちの教育を支えてくれた大人たちへ、充分な恩返しとなるように、私たちは私たちの義務を果たしていかなければならない。

つまり納税とは「義務」なのではなく、「国民が国民へ、贈りものをする権利」なのかも知れない。

笑顔の税金

十島村立口之島中学校

二年 肥後 杏寿

「なんで大人だけじゃなくて、私たち子供まで消費税を払わないといけないの？」消費税がなくなれば、自分の好きな物を安く買える。なぜ税金を払うべきなのか、何のために使われているのか分からず、私にとって税金はあまりいいイメージのものではなかった。

私は今、鹿児島県のトカラ列島の一つ「口之島」で祖母と一緒に住んでいる。山海留学生としてこの四月、大阪からやってきたのだ。この島には若い人はあまりいない。ほとんどがおじいさん、おばあさんだ。だから、私はいつも不思議だった。「おじいさん、お

ばあさんたちは、どうやって収入を得ているのだろう。どうやって生活しているのだろう」そこで、祖母に聞いてみた。すると、「年金で生活をしているんだよ」と返事が返ってきた。

年金？年金は自分が払ったものが年をとって返ってくるものだと思うって。しかし、みんなが払う税金から補助が出ているのだそう。私は初めて知った。おじいさんやおばあさんにとって年金がなくては生きていけない。そんな大切な年金は税金でまかなわれているのだ。

祖母はさらに教えてくれた。「お前も、税金のお陰でこの島に来られたんだよ」山海留学生として来ている私に、税金の補助があることも知った。私がこうして祖母と暮らせることも、きれいな海で海ガメと泳いだ素晴らしい体験も、全部税金のおかげだ。さらに考えると、私が交通事故に遭った時、救急車が来てくれたこと。給食が安く食べられること。病院のない口之島でも歯科検診や内科検診が受けられること。波が高くてフェリーが口之島に着けるように港が整備されたこと。今まで当たり前のように感じていたことが税金によって支えられていたのだ。

こうして見てくると、税金は社会を支える源なのだ。人間の体で言えば、「心臓」のようなものだ。心臓が体のいろいろな場所へ血液を送り、体を元気に動かすように、税金が社会の隅々まで行き渡り、人々をサポートし社会

を元気にしている。困った時、手を差し伸べてほしい時、力を貸してくれるのが税金なのだ。と知った。口之島の小さな小さな島でも、私や祖母のことをこうやって元気にしてくれるのが税金なのだ。

生きていくには、人と協力することが欠かせない。一人がみんなのために「税金」という形で協力すれば、みんなが元気に頑張っていける。こう考えてから、物を買う時、「このお金が誰かのために役立つっているんだ」と思いながら消費税を払えるようになった。これから私も大人になり、いろいろな税金を払う義務が出てくる。子供やおじいさん、おばあさんの笑顔がいつまでも見られるような社会を目指して、私も税金でしっかり社会に貢献したい。

税の支え

那覇市立首里中学校

三年 吉田 早希

ある日、私はゴミ出しを頼まれて、分別をしているときに、気付いたことがあった。

燃えるゴミの中に、プラスチックや小さな金属類が入っていたのだ。私は、それがとても気になり、そのまま出しているのか、母に聞いてみた。すると母は、

「新しいゴミ処理施設ができて、分別

方法が変わって楽になったのよ。」と、話してくれた。

その後、学校の総合の時間を利用して、新しいゴミ処理施設、那覇・南風原クリーンセンターを訪ねることになった。そこは、驚いたことに、ゴミの悪臭や排煙などはなく、とてもきれいに整備されている所で、私の想像とは全く違っていた。また、施設では、ゴミ処理施設の見学ができるようになっており、職員の方が丁寧に説明してくれた。

説明によると、このクリーンセンターは、焼却に伴う排ガスの濃度や汚染物質排出量の低減に努めていて、その処理の時に発生する熱を電気に変え、近くにある還元施設に供給しているのだそう。無駄を極力おさえた循環型施設なのだ。こんなにすごい施設にどれだけお金がかかっているのだろうと思いついてみた。すると、二百五億円もの大金が使われている事を知った。

さらに、このお金が全て税金であることを知り、さらに驚いた。私はこれまで、税金について深く考えたことがなく、知っているといえば、社会の授業で習った、国民の三大義務の一つというくらいで、まだ自分には関係ないこととしか思っていなかった。税金に関する問題がテレビでいろいろ報道されるのを見て、こんなに問題が起これるんだったらなくても良いのではないかと考えたこともあった。けれど、その税が私たちの便利な生活を支えてくれているのだ。さらに、税金で造られ

たこの施設は、環境にも優しい。税金は、環境保護にも役立っているといえる。

私たち日本人の中には、税金なんて払う意味がないと思っている人がいるそう。だが、考えてみれば、私たちは、普段気が付かない所で、その税に助けられて生きてきた。学校の校舎や体育館、机や教科書、他にも病院や今回のゴミ処理施設の建設など、数えきれないほどたくさんあるが、とても重要で大切なものばかりだ。利用したこのない人なんていないだろう。

税金は、人や環境を支えたり、守ってくれたりしている大きな存在であるということ。私には学ぶことができた。これから、私が一人の社会人として税を納めていく立場となるとき、支えてもらった感謝の心を忘れずにいようと思う。今後、税は高くなっていくだろうといわれている。確かに、負担は大きいかもしれないが、私はしっかり納税したいと思う。税金のある理由を知り、こうやって、その大切さを理解することができたからだ。

橋にかける思い

宮古島市立佐良浜中学校

三年 浜川 綾

伊良部島の住民が長い間待ち望んだ「伊良部大橋」は二〇〇六年に起工し、

二〇一三年に開通します。全長三五四〇メートルで、通行料金を徴収しない橋としては日本最長だそうです。工事が始まったのは、僕が小学六年生の時でした。テレビや新聞のメディアでは島民の喜びの声が連日大きく取り上げられていたのをはつきり覚えています。現在では、毎日着実に橋が延びていくのを見て、島民は「我らの伊良部島の限らない発展」を想像し心躍る思いでいっぱいになります。橋の総事業費三八〇億円。あまりにも莫大で宮古島市の住民だけの財力では支払えるものではありません。社会の時間で学習した「税金」で、「伊良部大橋」の工事は進められているのです。国民の義務である「納税」のおかげで僕たちの日々の生活に、これまで無かった快適さと安心がもたらされるのです。感謝します。

「税金」では学校・ダム・空港などが造られます。これらは僕たち日本人になくてもならないものであると同時に、あることが当たり前のように思われがちです。「税金」を「使わせてもらっている」ことにあまり関心が向いていません。国民が負担したからこそ多くの公共施設が利用でき、毎日の生活に保障がもたらされ、明日への準備ができていくのに……。まさに、「税金」の制度が無くなれば、国が生き続けることができなくなるかもしれないのです。

現在日本は、少子高齢化が進み、将来の人口の多くは、高齢者になると予

想されています。また不景気がなかなか解消しない為、完全失業者の数も減りません。苦しんでいる人々の社会保障の問題・年金問題など、「税金」は問題解消の大きな柱です。「人は支え合いの思いやりの中で生きている」思いやり・支えは形で表せませんが、税金の使われ方は生活の中に表れ、見て感じるができます。

他界した僕の曾祖父は、心臓病でした。急な症状の変化があった時、天気が良いれば行ける病院も、波が高いと島から船が出ないため、行くことができません。天気がよくなるのを神に願ひ、家族はとても大変な思いをしました。あの時橋が架かっていたら、曾祖父はもっと長生きできたかも知れません。伊良部大橋は島民に生活の快適さと共に、安心、健康の保障をしてくれると思います。僕は完成を心待ちにしています。

「税金は、僕たちの生活を支えている土台である」そう全ての国民が実感できるような新しい社会に、二十一世紀がなっていくことを僕は願います。また、僕達若者の手でそのような社会を創り上げることが大切だとも考えます。

目に見える「大きな力」を持っている税金。豊かな社会をつくりあげていくために、かけがえのない税金。これからも、僕たちの生活に大きく貢献し続けると信じています。

全国納税貯蓄組合連合会 会長賞 受賞作文

税のありがたさ

札幌市立宮の森中学校

三年 佐藤 てまり

私には七歳離れた弟がいる。弟は生まれた翌日、肺に残っていた羊水から感染症の数値が高まり、新生児専門の病院に入院することになった。たくさんのチューブを体に巻き付けて保育器の中でぐったりする弟。当時小学生だった私と姉は毎日、学校から帰ってくると自転車飛ばして様子を见に行った。「元氣になって」とただただ願った。

医師の懸命な処置により、弟の病状は日に日に回復し、十日ほどで退院することができた。今、小学一年生。とつても元氣に遊び回っている。中学三年生の私は、今なら分かる。弟が治療を受けた病院は税金で成り立ち、医療にはたくさんのお金が活用されていたのだ。税金のおかげで、弟は命を救われ、私たち家族は悲しい思いをせず

に済んだ。

現在、医療問題が毎日のように新聞などで取り上げられている。北海道は産科医や小児科医が不足しており、医療過疎も深刻だ。弟は恵まれていたが、

小児科医が近くにいなかったり、病院が遠かったりして命の危機にさらされることだってある。どこに住んでいても医療の恩恵を受けることができるシステムづくりはとても大切だ。医師の数を増やしたり、遠隔地から速やかに患者を運ぶドクターヘリ体制を充実させたりと、医療問題の解決には税金の活用は欠かせない。

医療にかかわらず、国民が納めた税金は、毎日さまざまな場所で私たちの暮らしを支えている。今の私にもっとも身近なのは教育だろう。私達が毎日勉強する場となっている学校の運営はもちろん、教科書なども税金が使われている。一歩家を出てみると道路があたり前にある。そうした社会基盤の整備でも税金はかせせない。食事をあたり前に食べられるのだから農業への補助金などに税金が投じられているからだ。世界に目を向けると日本は発展途上国に支援する活動を行っている。税金が人を助けることによって、平和にも貢献している。まだまだ税金の働きはいっぱいあるだろう。もっと税金に関心を持たなければならぬと思う。

あの時、弟が救われたからこそ、今の私たち家族は笑って暮らせる。税には人を笑顔にする力があることを実感している。これからも税は暮らしを支え、国を支え続ける。将来は私も一人の納税者となり、社会を支える役割を担う。どのように税金を使えば、もっとみんなが幸せになるのか、そんなこ

とも考えていきたい。

税が支える明るい未来

軽米町立小軽米中学校

三年 奥 裕 香

「お母さん、またガソリンの値段上がったってよ。」

「また？昨日、車にいればよかったあ。」

朝のニュースを見ながら、私たち家族は最近値段の上がるガソリンの話題で盛り上がっていた。

「ねえ。なんでガソリンの値段が最近あがってるの？」

「原油が上がっているのもあるけど、税もあるからねえ。」

私の質問に母はため息まじりで答えた。

「税。」よく耳にする言葉だが、税がどういうものか詳しくは知らなかった。

私が知っている税は消費税、たばこ税くらいだ。気になって教科書で調べてみた。所得税、法人税、道府県民税、ゴルフ場利用税など聞いたこともない税がたくさんあった。

では、税はどんなことに使われているのか。調べていくたび税が気になっていき、もっと知りたいと思った。

私は税を調べる前は、税なんてなくても生活できると思っていた。税がない方が生活は楽になると思っていた。

しかし、税を改めて知り、税なしの世界の中になつたらとても不安だし大変だとわかった。

例えば道路が壊れてもほつたらかしくなる。一人暮らしの高齢者など生活に困っている人たちの生活保護もない。私たち中学生が学校で勉強するのもたいへんなお金がかかってしまう。そんな世の中ではとても不便だし、弱者が生きていけない。

最近、税金の無駄遣いという話をよく耳にする。それはよくないことだ。

国民のために使われるべきお金のだから、国民のためになる使い方をすべきだ。しかし、だからといって税について知らないまま、「税なんてなくてもいい」と考えてはいけない。そんな人たちに私はもっと税の大切さを知ってもらいたい。

テレビのガソリンの話をつっかけに私は税について調べてみた。そして家族に調べたことを教えた。家族も知らなかったことがあつたらしく、驚いたりしながら真剣に聞いてくれた。

税とはとても身近なものなのに、よく知らないことが多い。ふとした家族の会話から生まれた疑問。その答えを捜しているうちに、いろいろなことがわかった。

こんなふうに少しずつ税を理解して、次に日本を支える私たちで明るい未来を切り開いていきたい。

完納の精神—— 今のぼくにできること

会津美里町立高田中学校

一年 伊 達 一 勢

両親の給与明細書を見る機会があった。ぼくが目をとめたのは、「税」の文字だ。

「所得税と住民税って、お給料から引かれてたんだね。」

ぼくは、初めて知ったことだった。少し驚いたぼくに、両親は軽く笑った。

所得税は国に、住民税は町に納める税金だ。給与明細に記された金額ぐらゐをたくさんの人が納めると、どのくらいの額になるのだろうか。『平成二十一年度当初予算、国の収入・支出』を調べた。国の収入の半分あまりを税収でまかなっていた。税収のトップはやはり所得税だ。次いで法人税、消費税となる。支出はどうだろう。その約3割を社会保障のためにあてられている。つまり、みんなから集めてみんなのために使っているのだ。とてもよいしくみだし、使われ方だ、と思う。税金を納めるのは個人だけれど、個々が合わさり、大きな費用となつてよりよい社会をつくり出している。

ぼくは、おじの家の玄関にある小さな鏡のことを思い出した。ずいぶんと昔のものであったが、『町民税完納記念』と記されていた。玄関ノブのわき

で、赤い文字がとても目立っていた。玄関に飾る程大事なのか、首をかしげた。改めて、完納の文字がうかぶ。社会づくりには税金は欠かせないものだ。税金をきちんと納めることは、よりよい社会づくりを担っている。おじは、そんな思いから、完納を大事にしたのではないだろうか。完納の精神は、よりよい社会づくりの精神なのだ。

ぼく達は、どんな社会を望むのか。

つまりどんな保障をうけることができる社会を望むのか。安心して生活できる社会は、教育や安全、医療、福祉などが保障される社会だ。そして、保障するための費用の財源は税金である。

社会保障の具体的な内容と、そのための財源、税金のシステムを考えることは政治の役割だ。大宝律令の時代からそのシステムを考え人達が国を治めてきた。現在、少子高齢化が進む中で、税金と社会保障費のバランスがとれるシステムを構想するのは、とてもとても難しいことだろう。しかし、ぼくは、政治に願いをもっている。『むだな使い道をなくす』『消費税の税率を上げる』などのアイデアに関心をもつて見ていきたい。まず、今のぼくにできることは、税金をきちんと納めることだ。我が家は完納です、の精神をもつようにしたい。納税によって、社会づくりと関わっていることをほこりに思いたい。

ぼくは、税金について、どう思っているか、両親にたずねた。母ははっき

りと答えた。

「義務だから、じゃなくて、もつと税の必要性がわかると、納めなくちゃって思うのよ。」

税の必要性って、一勢は知ってるかなあ。」

「毎月、給料から税を納めていることを確かめるとほっとする。安心する感じだな。」

と父が言った。ぼくは、大きくうなずいた。

私たちと税金

茂木町立須藤中学校

三年 川上 真弘

「税金」と聞いても僕は今まであまり関心をもてませんでした。税金は働く大人の人人ちや会社社が納めるものという感じを持っていたからです。

しかしよく考えると僕も税金を払った事があることに気がつきました。それは消費税です。本屋さんで好きな本を買った時や、ジュースなどを買った時に五パーセントの税金を払っています。

学校の授業の時に税金の事を調べ、消費税以外にも所得税や相続税・自動車税などがあることを知り、土地や家にも税金がかかっていることがわかりました。

税は私達の暮らしに深く関わっている

ます。公務員といわれる人々の給料は税金でまかなわれています。もし税金が無くなったら、火事が起きても消防車が来ないし、病人が出たときには救急車も来ない。警察官がいなくなり、町は犯罪であふれて安心して暮らせなくなってしまう。またいろいろな事情で生活に困っている人には、生活保護費が出ますが、これも税金でまかなわれています。

僕の住む茂木町では、中学三年生まで医療費が無料で診察を受けることができます。これも税金のおかげによって成り立っています。

僕が毎日学校に通う通学路は、道幅が狭い上にカーブが多く坂道も多くあります。さらに宇都宮、真岡方面へ向かう車がとて多く、危険を感じたことが何度もありました。今はあちこちで道路を広げる工事が行われており、そのおかげで以前より安全に通学することができるようになってきました。

また僕が生まれる前には大雨が降って逆川が氾濫し、町が大洪水にありましたが、その復興にも多額の税金が使われたそうです。

もし税金という制度が無かったら、道路の整備や河川の改修も行われないということになってしまいます。

さらに調べていくうちに身近な物も税金でまかなわれていることを知りました。それは教科書です。教科書には、こう書いてあります。「この教科書は、

これからの日本を担う皆さんへの期待をこめ、国民の税金によって無償で支給されています。大切に使いましょう。」とあり、教科書も無償で配られていることを知りました。給食費も父や母が払ってくれてはいますが、税金で多くの額が補助されています。さらに最近学校に入った木の温もりの伝わる机や椅子なども税金でまかなわれています。

このように僕たちの生活は、小さな事から大きな事まで税金によってまかなわれていることがわかりました。

こういった中で今の僕にできるのは、税金を納めてくれた人たちに感謝の気持ちをこめて学校生活を精一杯頑張ることだと思えます。そして大人になったら世の中に役立つ人になって税金をきちんと納め、今までの恩返しをしたと思います。

支えられ支えていく 私達の税金

みどり市立笠懸中学校

三年 大澤 佳那子

医療費が無料になるってどういうこと。私の住むみどり市では中学三年卒業までの医療費が無料になる申請が始まった。私自身にとっては残すところ半年と迫っている期限で両手をあげて喜んではいられない。なぜ今の時期に

実施になったのかはわからないが、子育て真最中の家庭には少なくとも医療費負担を考えずに医療を受けることができる。子育て世代の人々が住居を構えるにあたり選択肢の一つになり、みどり市の少子高齢化を食い止める政策と考える。

ここで医療費について家族で話し合いをした。少子高齢化社会を迎えて、高齢者が増えることによって生活するための年金や医療費は増える一方である。逆にその費用を賄う若者の世代の割合が減少している。景気低迷で有効求人倍率も過去最低を記録している。いったいどうしたら財源を確保し、安心して生活できるのか、個人では解決できない問題なのである。ただ税金の使い方をひとつと一人一人が考えたなら節約できるかもしれないという考えのもとに三つの改善策が提案された。

①収入に見合った生活。②エコ活動に興味を持って実践し、行政ばかりに頼らないで自分にできること、つまり自己責任を持って生活。③中負担中福祉という結果にたどりついた。

ここで最初に取り上げた無料化と③について考えてみた。無料化はとても響きが良いが本当に必要な人が必要な医療をうけられるのだろうか。医療現場も少子高齢化の影響は避けられない。本来の優先順位を保持するためにも自己負担が全くないのは、納得し難いのである。なぜなら未来の日本の借金を増やすばかりで、大切な税金で今の生

昨日の五円は 今日の笑み

所沢市立所沢中学校

三年 伊藤 太陽

活が支えられているということに鈍感になってしまふ。医療だけに絞って考えても、公平な医療を実現するためには特別な場合を除いて、自己負担は必要なのである。NHKの「そりゃあんまりだ」の番組の中で介護現場の実情を取り上げていた。介護保険制度の導入でサービスを受けようとしても、自己負担増、介護者の収入は激減、経済的にも精神的にも社会から取り残された生活をしいられている。在宅介護の限界に近づいている危機感を感じた。安心して年を取っていけるような制度はかなりの税金が必要となる。

日本の未来に税金は不可欠。私たちは今後この社会を担っていく。納税の義務を果たしていく。税金が生活の中での役割を見つめ直し、税金に対する意識を高めていく。

今回中三までの医療費が無料化されたことによって、税金が投入される。少子化対策の成果をひとり一人が税金を正しく理解し安心して暮らせる社会を築いていかななくてはならない。大切な税金。私たちが安心して医療が受けられ守られていることに感謝するとともに、税負担を軽減するためにも健康を心がけていきたい。

夏休みを目の前にした、ある日の午後。暑期中、僕はいつも通り教科書を取り出した。そして、ふと裏になった教科書を見る。その時、僕は初めてこの文章が書いてあることに気付いた。「この教科書は、これからの日本を担う皆さんへの期待をこめ、国民の税金によって無償で支給されています。大切に使いましょう。」僕はこれを見て、税に興味を持った。

まず、税の事を知るために、公民の教科書を開いた。そして、そこに書いてある税の仕組みや、納税の義務についての説明を、一通り読んだ。税の事が分かったところで、周りの人に税についてどう思うか尋ねてみる。すると、税金はもったいないから払いたくない、義務だから払うと答える人がいた。しかし、僕が教科書を見た限り、そのような悪い印象は受けなかった。税は本当に僕らに損なもののなか。税があることで、僕らにはどんな利点があるのだろうか。そして、僕らは本当に税の事を理解しているのだろうか。

例えば、僕は昨日、百円の商品を買った。すると、五円の消費税が課される。そして、その五円は国税として

国に納められ、僕ら国民のために使われる。道路や信号、学校の机、黒板、そして校舎も、その税金で作られている。見直してみると、僕の毎日に税はかせない物だった。

しかし、昨日の五円は、すぐに僕の生活に生きてくるわけではない。その五円は、見知らぬ誰かに幸せを届けるのだ。病院で困っているお年寄りへ、無邪気に笑う子供達へ、働きたくても働けない大人へ、その五円は幸せを届ける。そして、今度はその人たちが、誰かの幸せを願い、税金を納める。それが僕のために使われるのだ。僕の教科書も、みんなの善意が巡り巡って、僕の所に届けられた。そう思うと、幸せな気持ちでいっぱいになった。こうして、税は全ての人の心と生活を幸せにしてくれる。

そんな幸せの循環を作るには、全ての人が税を理解することが必要だ。全ての人が税について学び、理解すること、税は本当に良い物になる。僕は税について調べてみて、その事を痛感した。

もちろん納税は義務である。しかし、それは幸せになる「権利」だと僕は思う。昨日の五円で、今日、僕は笑顔でいられるのかもしれない。僕はこれからも税について学び、きちんと納めていこうと思う。みなさんにもっと税について知ってほしい。この国がたくさんの笑顔であふれるように……。

税金と支え合う心が くる最大の笑顔

春日部市立東中学校

三年 斉藤 笑夏

「人」という字は、二本の縦棒が互いに寄り掛かり合い支え合って立っている。同様に私達国民は「納税」という制度によって、知らない人同士が支え合い、安全かつ安心に暮らしている。だからそれぞれが社会で生きていく上で「税金」というものは必要不可欠なのだと思う。憲法に定められた「義務だから払う」のではなく、「何の為に必要なのか」を私達はもっと考えるべきではないのか。そして支払う意志を持って、意識して「納める」ことができたなら、この国を支えているのは私達なのだ、胸を張ることができるだろう。

国の平成二十一年度、歳出当初予算は約八十九兆円弱であり、税収は四十六兆円強と半分程度に過ぎない。一方で少子高齢化による社会保障費は、この十年で五十四%増となった。増え続ける社会保障費の財源として消費税をどう扱うかが焦点になると、新聞やニュースで取り上げられていた。お陰で政治にも少しづつ興味が湧いてきた。私はこれまで、税金について深く考えたこともなかったし、消費税以外あまり身近に感じていなかった。仕組

みはわかりにくく、その使い道さえよくわからなかった。この作文を書くにあたり色々調べてみたら、案外身近で私の生活にも密接に結びついていることがわかった。例えば「九十五万二千円」これは公立中学生一人当たりの年間教育負担額だ。無償で教科書が配布され学習に必要な備品を整えるのに使われている。お陰で平等に教育が受けられている。そして何かあれば救急車やパトカーが来てくれるといった、警察や消防により守られている安全な暮らし。ごみの収集や処理などの環境衛生を考えた街づくりや、安心して暮らせるための医療をはじめとした社会保障関係。また便利で暮らし易い環境を整えるために、道路・公園・下水道などの整備などなど。税金に陰ながら支えられ、私達は健康で文化的な暮らしを営んでいる。こうしてみると「納税の義務」は、私達の豊かな生活の為にこそあるのだと気付かされた。

ところで、冒頭の歳出予算約八十九兆円のうち、〇・七%の六千三百億円弱が経済協力費として、開発途上国の自立支援に使われている。嬉しいことに私達の税金は自国民のためだけでなく、貧困や飢餓に苦しんでいる世界の人々をも支えていたのだ。今の私は、わずかばかりの消費税を払っているだけだが、税の恩恵を理解し支え合う大切さを学んだ。だから納税者のうちの一人なのと言っても過言ではないはずだ。微力ながらも、私も世界で苦し

んでいる人々を支えていることになる。百円で五円の消費税を支払う小さな子供さえも小さなボランティアになれるのだ。「税金」は、私達の暮らしを豊かにし笑顔くれた。私は社会に出て税金を納めるようになったら、「だれかの笑顔を思っで納める人」になりたい。そして開発途上国の人々をも笑顔にできたいと思う。

希望のつばさ

行田市立長野中学校

二年 坂 本 裕 大

残り少ない日数に「学校が始まっちゃうよ、宿題参ったな。」と焦っていたある日、家にあった市報九月号の表紙の「笑顔でいただきまーす！安全でおいしい給食」の文字が目飛び込んできた。「学校か」と思いつつ気になつて読んでみたところ、様々な形で学校給食に携わる人達の深い思いを知ることができた。

同じ頃何度も目にしたのが、「給食を支給して、全ての子供達に教育の機会を」と活動している国連世界食糧計画(WFP)のCMだった。支援の対象は干ばつや紛争で十分な食糧を確保ができない主にアフリカ大陸の国々だ。給食の時に子供達が手にしていた赤いカップは、給食用としてWFPが渡したもので、これに雑穀を混ぜたシ

チュウの様な物が一杯毎日給食として配られる。子供によってはそれがその日唯一の食事となることもあるという。子供を貴重な働き手とする親も、日々十分な食事を用意できないため、給食のある学校へ子供が行く事を止められない。校舎や机がなくても、お腹が一杯になり勉強もできて友達がいる所は、とても楽しいのだらう。難民キャンプで暮らす子供に「将来の夢は？」と尋ねても、困った顔をするだけで何も語らない。満足に食事も摂れず不安だらけの子供達が夢を語ることはない。だけど給食のある学校に通っている子供達の目は輝いている、お腹が一杯になるといいという一番の希望が叶ったのだから。少しずつ知識の幅をひろげ、やがて自分達の将来を思い描く様に変わっていく、給食支援は子供達に未来にひろがるつばさをつけているのかも知れない。国民の暮らしを支えることができる国を変えていくのは、この子供達の底力かも知れない。WFPは活動資金を世界中の企業と個人からの善意に委ねているため、昨今の世界的規模の景気悪化で資金が不足し、いくつかの学校では給食支援を中止しているという。つばさをつけはじめた子供達のことにも心配だ。

それに比べ僕ははどうだろう、朝からしっかりとご飯を食べて校舎も机も揃い、教科書だって毎年新しいものを得て、おいしい給食も待っている。「毎月おもしろい献立がならんでいくけど、負担も少ないし給食って助かるよね。」と母が言っていたことがある。僕達の中学生生活は給食を含め全て税で支出されることで成立しているのだ。生まれた国の社会の仕組みがしっかりしているということは、それだけで十分に幸せなことなのだ。そんな環境にありながら真面目に授業に取り組むことなく、勝手な不満を並べて過ごしていたら、自分達が社会に出て国を支える納税者の一員となる頃、給食支援を受けながら力をつけてきた子供達の国に追い越されてしまうかもしれない。残り一年半あまりの中学生生活を支えてくれる両親だけでなく、税金を納めている見ず知らずの方々にも感謝しながら、将来の夢に向かって大切に過ごしていきたいと思います。

豊かな暮らしと税金

三条市立第二中学校

三年 小 川 勝 己

現代の日本では税金というものは、政府が行う経済活動(財政)を支えると共に、公共的なサービスを提供しています。つまり財政を支えるという役割を税金は担っています。

まず、私たちに最も身近な税として消費税があります。これは私たちがスーパーなどで買い物をしたとき、金額の5%を負担するというものです。

でも、子どもからお年寄りまで負担することになるので、その負担は大きくなるという問題があります。

その他にも所得に応じて納める所得税や法人税、死んだ人の財産を受けついだときに納める相続税などがあります。こうしてみると税金にはたくさん種類があり、国民は大きな負担になっています。そして最近消費税の引き上げという話を聞き、さらに負担が大きくなるのではないのかと思いました。

しかしこうして集められた税金は、公共の事業に使われたり、社会保障費として使われたりしているのですが、全ては国民が豊かな生活を送るために使われているのです。もしも税金がなかったら国民は豊かな生活を送ることができません。だから国民が納めた税金を無駄に使うということはしてほしくありません。

税金は私たちの暮らしには、このように関わってきます。例えば道路を作ることです。夏休み中、太平洋沖での地震でお盆前に高速道路が崩れて通行止めになりました。そこでは税金が使われ、道路の復旧に役立ちました。さらに新潟県では地震や水害が起こり、とても大変でした。避難してきた人たちへの水や食料、毛布などの救援物資、家が壊れて住む場所がなくなってしまう人たちへの仮設住宅なども税金が使われています。もっと身近な例でいうと、私たちの使う教科書や学校建

設とその設備などにも税金が使われています。こうしてみると国民の納める税金はいろいろな人の役に立っていることがわかります。自分の納める税金が他の人たちの役に立っていると思うとうれしいです。

税金は私たちの生活にとっても強く結びついていて、欠かすことのできないものです。それはさまざまなところで利用され、それは国民の利益となっています。こうしてみると税金を納めることで国民が助け合って生きているように思えます。

これから少子高齢化が進んだり、国の借金が増えたりしたら、今よりも高い額の税金を納めなくてははいけません。ですから、税金を無駄にしないためにも税金の使いみちをしっかり考えていくことが大切になっていくと思います。将来、たくさんさんの税金を納める立場になりますが、社会をよくするためにもしっかり納めようと思います。

税金なくても大丈夫？

諏訪市立諏訪中学校

三年 小澤 晶 徳

二年前、僕が住む諏訪市周辺で記録的な大雨が降った。諏訪湖は氾濫し、多くの家が床上浸水や土石流の被害にあった。土砂崩れに巻き込まれたり、川に流されて死んでしまう人もいた。

また、道路にはひびが入り、いくつかの橋は壊れてしまった。

今ではすっかり元の町に戻り、大雨の痕跡はなくなっているが、もし税金というシステムがなかったら、この大雨の被害にどのような影響が出ていただろう。

諏訪湖からの放水量を管理する水門は、税金によってつくられている。しかし税金がないと、水門をつくるお金がそもそも集まらない。いつ起こるか分からない水害のために自ら高いお金を出して水門をつくらうとする奇特な人はいないからだ。水門がつけられなかったとすると、大雨が降った時、諏訪湖が氾濫し、水害が湖周全域に拡大してしまう。

また、災害現場周辺には交通渋滞が起こらないよう交通整理をする人達がいる。本来ならその人達の給料は税金から賄われるはずだが、税金がないとそれもできなくなる。自らすすんで無給で交通整理をする人はいないだろう。その結果、救急車が駆け付けようとしても交通渋滞に阻まれてしまい、被害者を助けることができなくなるだろう。

さらに、災害時に大切な役割を担う警察や消防、自衛隊、病院などには多くの税金が使われている。これらがすべて税金を使えないとすると、最悪の場合、お金がない人は助けを求めても救助してもらえない可能性がある。

大雨の後には税金を使って壊れた橋や道路の修復工事をする。税金がない

とすると、自分が使わない橋や道路にすすんでお金を払う人がいるはずもなく、災害の爪痕は残ったままになるだろう。

やはり税金というシステムがないと、国民は生活に困ってしまう。

その一方で、現実には税金が必要ないところに余計に使われていることがある。例えば、談合などによって本来ならもっと安くできた工事費用を高くしてしまうという様なことがよく報道されている。また、山奥のような交通量の少ない場所に道路をつくったり、洪水が起こらない川の上流にダムをつくることなどもムダな税金の使い方だ。このようなムダがあると、必要とされている公共事業をすることができなくなり、それを本当に必要としている国民が生活に困ってしまう。

二年前の大雨の後、この町は税金によって復旧した。税金というシステムは国民を危険から守る上で必要不可欠なものである。しかし、談合などによって税金がムダに使われることがあつとをたえない。税金は国民の生活のためにもっと有効に使ってほしい。納税者も税金の必要性を理解してきちんと納税をした上で、その使い道を監視する必要がある。

私と税金、みんなと税金

山武市立山武中学校

三年 高橋 佳那

税金と言われて、皆は何を思うのだろうか。

「必要だと思う。」「下げてほしい。」「色々な答えが返ってくるだろう。私の場合はこうだ。」

「詳しく分からないが、必要だと思う。」

私は税金と言ったら、消費税ぐらいしか、思いあたらない。そこでインターネットや、両親に聞くなどして、「税金には、どのようなものがあるのか」「税金は何に使われているのか」の二つの事について調べてみた。

税金には様々な種類があり、国税と地方税に分けられる。国税には、個人の収入の額に応じてかかる所得税や、土地などにかかる、地価税、消費税、登録免許税など色々あり、地方税には、自動車に所有している人にかかる、自動車税や、家や土地などの償却資産にかかる、固定資産税などがあった。私自身が深く関わっている税金は消費税だが、家ではどのような税金を払っているのか、両親に尋ねてみた。私の家では主に、消費税はもちろん、所得税・固定資産税・住民税・自動車税などを払っているらしい。その中で、身

近な話題として、私の家では最近、車を買ったため、自動車取得税、また、もう一台の車を車検に出したため、自動車重量税というものも払っているようだ。それとは別に、自動車税も払っていて、排気量に応じて金額が変わるらしい。その上に、ガソリンを入れる毎に、また、ガソリン税も取られている。自動車を所有するだけでも、沢山の税金を国へ払っている。つまり、日本に住む限り皆の払う税金は、とてつもない金額になるという事である。そこで、この国民からの税金を、国はどのような事に使っているのかという疑問がわく。

調べてみたところ、私達の生活に必要な施設の整備や、子育て支援などに使われているようだ。例えば、私の家で身近な自動車にかかる税金でつくられている『道路』。自動車で出かける時、ほとんどの道路が、きれいに舗装されている。もし私達が税金を払っていないければ、きつときれいな道路を使う事は出来なかっただろう。きれいな道路を使う事が出来るのも、やはり、私達が払った税金のおかげと言えるのだ。しかし最近、私達の税金で、無駄な道路を作っているという事が問題となっている。それは「税金の無駄使いなのではないか」と、私は思う。両親が汗をたらしながら働いたお金で払っている税金。その税金は、一円も無駄にしてほしくないし、国民のために有効に使ってほしい。

また、納税者の私達も、税金を取られていると考えず、いつか私達にとって良い何かとなって返ってくる、というプラスの面で考える事によって、よりよい生活になるのではないかと、私は思う。また、そう実感したい。

達入院費で更に心配になったそうです。しかし、高額療養費という制度があり、自己負担限度額を超えた場合、健康保険から払い戻される制度です。また、妹の分も合わせて払い戻されたので金銭面での不安は消え、安心して治療することができたそうです。最近のニュースでは、妊婦のたらい回し問題や医師不足が聞かれます。私達のように治療を受けることができないなんて、なんて不幸な出来事でしょう。みんなの税金で、日本の未来を担う子どもたちのため、有効に使ってほしいと思います。

未来の鍵

松戸市立第六中学校

三年 助川 真菜

私は、毎日元気に過ごしている中学三年生です。税金について考えるまでは、全く知識がありませんでした。

ところが、産まれた瞬間から私は税金によって命が救われました。私は双子の姉妹で生まれ、早産だったため、周産期医療センターという低体重児などの子どもを見ってくれる病院に二か月間お世話になったそうです。ミルクを飲むことなんでももちろん出来ず、二十四時間体制で、先生達が治療にあたってくれました。貧血など様々な困難に出会ったそうです。私だけではなく、双子の妹も同様に入院していたので両親の心配は大変だったと思います。それに加え、金銭面でも出産費用に、私

また、数年前に亡くなった私の祖父は、脳梗塞という病気で体が不自由になりました。二度目の入院では、左半身が動かなくなり、とてもかわいかったです。それと同時に祖母も介護の負担が増えることになり、大変な日々を送っていました。祖母の負担を考えて、平成十二年より始まった介護保険サービスを利用することになりました。介護サービスは費用を利用者が一割を支払って、残りの費用を介護保険が負担してくれるサービスだそうです。

祖母が話してくれました。病気になるって以来イライラして怒ってばかりいた祖父も、週三回の施設サービスを利用し、元気になって行ったそうです。私が祖父の家に遊びに行った時、デイサービスで不自由な手で一生懸命作った切り絵を嬉しそうに見せてくれました。施設のみなさんと歌った歌も披露

してくれました。祖父にとつては、施設に行くことは生きがいとなっていました。祖母にとつても、自由な時間が出来て、趣味の時間にあてたりと、介護から開放され、リフレッシュする事ができたそうです。

私達は、今まで沢山の人達に支えられていたことが分かりました。税金は言葉ではありませんが、国民それぞれへ「がんばれ」という、応援メッセージのように感じました。私もやがて、大人になります。納税の義務をきちんと果たし、その税金が、有効に使われるよう考えていきたいと思っています。

エコと税金

柏市立第三中学校

三年 須田 詩織

ここ数年、地球温暖化が進み、異常気象や海面の上昇など、私達の身の回りではいろいろな変化が起きています。このようなことから私達の生活の中には、エコに対する意識が高まっています。また日本政府は、地球温暖化対策の一環として、環境性能に優れた車の購入に、税金を優遇しています。他にも、デジタルテレビやエアコン、冷蔵庫などの家電製品を購入すると、エコポイントがつき、商品券などと交換できるなど、多くの税金を使いながら地球温暖化対策に取り組んでいます。

しかし、私達が生活していく上で必要な税金を、地球温暖化対策のためにこれほどまで使ってもよいのでしょうか。無駄使いをしているというわけではありませんが、もっと私達の身近なことで、地球温暖化を少しでも止めることは不可能なのでしょうか。

私はよく部活の帰りに、教室の電気が点けっぱなしになっていることや、水が出しっぱなしになっているのをよく見かけます。そこで私は、学校の電気と水道は年間どれくらい使われ、どれくらい料金が払われているのが気になり調べてみました。昨年一年間の柏三中の電気の使用量は十六万四千四百kwhで料金は四〇九万二千四百一円でした。これが柏市内の小中学校全体になると、使用量は二億五四〇四万三二四円にもなります。また、水道の使用量だと、柏三中は六九二六㎡、料金は四六五万九千九百五円で、柏市内全体だと五八万五五〇一㎡で、料金は三億五一〇万八千八百二円にもなります。たった一年間にも関わらず、この高額の料金は、全て税金から払われているのです。

学校で一年間に使われている電気代と水道代は、普通の家庭からは考えられない高額な料金となっています。それは、何万人という人数が一緒に生活しているためだけが原因ではないと思います。この中には私が見たような、無駄遣いされている分の料金も含まれているのです。

もし、この無駄遣いされている料金を減らすことが出来るなら、その分のお金は、もっといろいろな場で使うことができると思います。そのために私達は、こまめに水を止めながら水道を使ったり、点けっぱなしになっている電気や、出しっぱなしの水を止めるなど、一人一人が節電節水の意識を持つことが大切だと思います。そしてこのことは、地球温暖化対策の一つにつながるのではないのでしょうか。

地球温暖化と騒がれている中、私達は大きいことを気にしすぎて、身の回りにある些細な無駄遣いに気付いていません。地球温暖化を止めるには、一人一人のエコに対する意識が大切で、そして私達の身近なエコに対する取り組みが税金の節約にもつながるのだと私は思います。

五円の力

中央区立日本橋中学校

三年 長澤 美歴

ある日突然、私の父は救急車で運ばれた。父が倒れたとき、姉は必死で救急車を呼び、私たちは心臓が口から出そうになる程張りつめた空気の中、救急車の音が聞こえてくるのを今か今かと待っていたのを今でもはっきりと覚えている。間もなく救急車が到着し、救急隊員の方々の落ちついた対応で、

父は病院に搬送された。そして、今では手術を終えて病気を克服し、元気な父に帰ることができた。

このできごとがあるまでは、正直いって「なんで子供が百円のアイスを買うときにまで税金を払わなくちゃいけないの?」と思っていた。でも、あのとき我が家に駆けつけてくれた救急車と救急隊員の存在を支えてくれたのは、税金である。そして、父がその後にした大きな手術の手術代の多くを賄ってくれたのも国民保険であり、その制度を支えているのは、保険料と、他でもない税金なのである。そう考えると、あの日救急隊員が差し伸べてくれた一人の手、手術をして下さったお医者さん達や看護師さん達の手は、想像もできないくらい沢山の人の力で支えられていたのだと実感する。それと同時に、心から「ありがとう」と思う。

アメリカでは、政策的な判断により、医療に対する保険制度の整備が日本に比べて格段に劣っているという。そのため、盲腸一つでも保険が利かず、救急車代がかかるのはもちろんのこと、手術代としても百万円以上の費用がかかるという話を聞いたことがある。

自分や、自分にとつて大切な誰かが病気になったとき、怪我をしたとき、心から助けてほしい、治してほしいと思うのは当然のことながら誰でも同じである。しかし、アメリカのような医療制度の下では、残念ながらその願い

が叶うかどうか、その人個人の持っているお金に左右される場合が生じかねない。そう考えると、私達の国の税金の使われ方の一つである医療制度のあり方は、まさに日本人が昔から大切にしてきたとされる「思いやり」の気持ちの表れであり、日本人は、一人一人がお互いに自分達の健康と命を支え合って生きているのだと気づかされる。父の病気の後、近くを救急車が通るとき、心の中で「がんばれ」と思うようになった。そして、子供である私がコンビニで払った五円の消費税でも、誰かを助ける力に繋がっていると考えると、ほんの少しだけ誇らしい気持ちになれる。

これからも、税金を支えている「思いやり」と、それに対する「ありがとう」の気持ちを大切にしながら、大人になっていきたいと思う。

皆のために

世田谷区立希望丘中学校

三年 中谷 明穂

私は、この作文をきっかけに「税」について調べてみて色々なことを知りました。その中で一番驚いたことは、国の歳入の三十八パーセントを公債金で支えていることです。何も不自由なく生活できる日本がたくさん借金をしているなんて思ってもいませ

んでした。しかし、これが現実です。だから、今だけを乗り切って未来に負担を押しつける無責任な日本を少しずつ改善していかなければなりません。そこで、少しでも借金を減らすために消費税率を引き上げようという考えがあります。消費税は、確実に国の収入源となり、且つ平等に課税できるので、少し増税すれば大きな効果が期待できます。しかし、この考えに賛成する国民は多くありません。なぜならば、国民には「増税する前に、政府の税金の無駄遣いをなくすべきだ」という言い分があるからです。確かに、皆のための税金を個人に使ってしまう政治家などのニュースを見ると悲しく思います。しかし、税金の無駄遣いをしているのは本当に政府だけでしょうか。私たち国民にも改善すべき点があると思います。

例えば、私がこうして公立の中学校で教育が受けられるのも税金のおかげです。私たちが使っている教科書や教室にあるパソコン、体育用具など、たくさんの物に税金が使われています。その額は、一人当たり年間約百万円にもなります。それなのに、学校の机に落書きをしたり、実験器具を乱暴に扱って壊してしまったりすることは税金の無駄遣いをしているのと同じです。だから、学校の物をもっと大切に使うと改めて感じました。そしてこれからは、大人たちが一生懸命働いて納めた税金のおかげで学校生活が送れるこ

とに感謝し、その努力を無駄にしないよう、授業も行事も一生懸命に頑張ろうと思いました。

また、学校の他にも、選挙を行うときに必要な選挙公報や投票整理券などにも、たくさん税金が使われています。しかし、最近では選挙に行かない人が増えていきます。これも税金の無駄遣いにつながります。税金によって成り立っている唯一の参政権を無駄にしてはならないと思います。

この他にも、私たちが豊かに安心して生活するために、様々なところで税金が使われています。皆で協力して納めた税金は道路や消防などの公共施設や公共サービスとなって、皆のもとに戻ってくるのです。税金の無駄遣いをなくすためには、このように一人一人が税金の使い道について知ることが大切だと思います。そして、税金は皆の生活のために納められているということを政府を含め国民は理解しなければなりません。今の日本には、皆のために税金を納め、皆のために税金を使う思いやりが必要だと思います。

私たちの身近な税金

板橋区立板橋第一中学校

三年 石田 由衣

税金にはいろいろな種類があり、直接私たちに関係する税や、初めて聞い

た税の名前があってビックリしました。一番身近なのは、やっぱり消費税で、物を一つ買うのにも税金がかかっています。

私たちはそれがふつうになっているけれど、日々の生活の中で、お父さんはたばこを吸い、お母さんはビールを飲みます。そこで、私は日々どれだけの税金を払っているのかを考えてみました。

お父さんがたばこを一日一箱吸う場合、一箱一七五円の税金がかかるそうです。一ヶ月(三十日)続けて買うと五二五〇円の税金を払っていることになります。なんと、一年では六三三七五円もの税金を払っている事がわかりました。

そして、お母さんがビールを一日一本飲む場合、一本約七七円の税金がかかるそうです。一ヶ月(三十日)続けて買うと二三一〇円の税金を払っていることになり、一年では二八一〇五円も払っていることがわかりました。

この作文を通じて、いろいろな税金に興味を持つようになりました。

つい先日、車で出かけた時にガソリンを入れたら、レシートに税金の表示が書いてあったのがすぐ目に入ったり、「この道はガソリン税で作りました。」という看板を見て、さっきのガソリン税はこんな風に使われて、ちゃんと役立っているんだなと思いました。

私は、税についてのパンフレットを見るまでは、税をよく知らなくて、消

誰かの税が妹を救った

世田谷区立砧南中学校

三年 川越 れおな

費税のことを良く思っていないませんでした。「消費税がなかったら買えるのに！」と何度も苦しい思いをしたことがあります。みなさんは、そんな経験がありませんでしたか？

私たちがいつも当たり前のようにしている事にも、いっぱい税金がかかっています、それを当たり前と思うような人間にはなりたくないと思いました。

普段、私たちが当たり前だと思っているお風呂、トイレ、洗濯でもいつもキレイな水を使っているのは税金で上下水道の整備がちゃんと行われているからです。学校で教科書がもらえるのも、私たちがきちんと納税して、その税金が役立っているからです。

私たちにとって当たり前でも、日本以外の恵まれない国の子供たちにとっては当たり前じゃないのです。私たちは本当に恵まれているのだと改めて実感しました。

これからはいろいろな税を考え理解し、興味を持ちたいと思います。私たちの身のまわりには、こんなにたくさん税金があり、たくさん納税した税で私たちの生活が守られていることがわかりました。

最後に、私たちの大切な税金をみんなのために、より有効的な使い方をし、ほしいなと心からそう思いました。

「宿題。ああ、税の作文ね。そういえば、うちもお世話になったわね。」「えっ、どういうこと。」私は、鉛筆を置き急いで顔をあげた。「それはね……」母は、こんな話をしてくれた。

私の妹は、心臓に二つ穴が空いた状態で生まれてきた。妹は心臓のせいで体が弱く、夏の暑い日には顔を紫色にしなからハアハアと息をしていた。いつもグツタリと苦しげに寝ていた妹。

二歳になってもまだ上手に歩けず、赤ちゃんのように抱っこされていたのを私は今も憶えている。

妹が三歳になった時、いよいよ手術が必要になった。医師の説明を聞いて病院から帰ってきた母は、青い顔をしてボソッと呟いた。「手術に二六五万円もかかるんだって……」妹の命は救ってあげたい。でも、そのまえに「お金」という問題と向き合わなければいけない。そんな状況に母は追い込まれてしまったのである。「こんな大金、どうやって出せばいいのかしら。」悩んだ末、母は同じ心臓病を患う子供を持つ友達に相談した。「大丈夫よ。そのお金は、社会保障費で国が全額負担してくれるわ。」「えっ。本当なの。」「そう。うちは、ちょっと難しい

ケースで手術費は一千万円って言われたけど、何とかなった。」母は急いで保健所に行き、震える手で申請書を書いたそう。

「本当に、助かった。実際、私達が負担したのは、三万円ぐらいだったのよ。」そう言っ母は、私に手術計画と見込み費用の書かれたレポートを見せてくれた。いつも「もう少し税金が安ければいいのに。」と愚痴をこぼしている母が十年経った今でも、そのレポートを大切に取っておいているなんて。もうボロボロになってインクが薄くなっているその紙を母は、大事そうにタンスの中にしまった。「お金の心配はしなくていい。子供のことだけ考えていればいいんだと思った。とてもありがたかった。」と母は、嬉しそうに呟いた。

その後、話にあった社会保障費を調べてみると、社会保障・恩給費は二八・五パーセントと歳出内訳の中で、最も大きな割合を占めているということが分かった。(二〇〇八年度での額二十四兆円) その一部が、妹のような難病の子供達のために使われている。

私も消費税を払っている。少ないおこづかいの中から毎回五パーセントずつ引かれていく消費税。やりくりが大変である。

しかし、その消費税の一部が誰かを応援するために使われているのであれば文句は言うまい。十二歳になった妹は現在、毎日元気に学校に通っている。

あの時、誰かが払ってくれた税金で今の妹の笑顔がある。

人のピンチを救い、再スタートすることを応援している税。今まで、税金はいくら集められ何に使われているのか知らなかったが今回をきっかけに税金に対して興味が湧いた。これから調べていきたい。

少子高齢化をくい止める。

町田市立堺中学校

三年 小林 優輝

今年の夏は、八月三十日に日本の未来に大変な影響を与える衆議院選挙があります。その選挙に立候補している人のほとんどが、少子高齢化対策として「子育て支援」をしますと宣言していますが、そもそも何故少子高齢化の対策を取らなくてはならないのか？また、赤字国債を発行して多くの財政赤字を抱える日本が、何を財源にして「子育て支援」をするのでしょうか？

日本人の平均寿命は、男性七十九歳で世界第三位、女性は八十六歳で世界第一位です。これは大変嬉しい事なのですが、逆に子どもの出生率は急激に下がっています。この少子高齢化が進むに伴い、働き手の税負担が今の3倍となり、働き手一人で一人のお年寄りを養うのと同じ事になります。今から

四十年後の僕は五十五歳で、僕の子どもは成人しているでしょう。僕は自分の子供にこんな大変な思いをして欲しくはありません！

そこで、僕なりに考えた子育て支援対策を述べたいと思います。例えば世帯年収が同じ二つの家族、「Aは四人家族で子どもが二人いて」、「Bは妻と夫との二人暮らし」があるとします。ある保険会社の調査資料によると、子ども一人が幼稚園から大学を出るまでの教育費（養育費ではない）は平均一千二百七十万円で、二人だと約二千七百万円も必要になります。このように子どもが二人いるAの家族は子育てに沢山のお金を費やす事になるのです。それに関わらず、A家が育ててくれた子ども達が成人してその子達が払った税金が、B家の様に子どもがいない家にも年金として行ってしまうのは、とても不公平だと思うのです。

そこで、僕なりの税制改革案を作ってみました。税金は社会に貢献するよう、子どもが居ても居なくても同じ所得に対しては同じ額の税が課せられます。そこで、まずA、B家の元の税金を五十万円だと仮定して、新方式ではその二倍の百万円を両家から徴収します。その後、増額分の百万円を色んな形での子育て支援に当てて行くのです。

この案を使えば金銭的な理由で子どもを作らないことを選択した人達も格段に子育てがしやすくなるので、少子

高齢化の根本的対策になると思います。

僕は、この作文を書くために色々な資料を沢山調べました。そして僕はまだ選挙で投票する事は出来ないけれど、今からでも選挙や政治に関心を持ち、「増税しても良いから、子どもを育てる事に前向きになれる税の仕組み」を作ってくれる人が当選するのいいと思いました。そして、速やかにそれを実現してもらい、今の僕等のような子ども世代の、将来への不安を無くしていただきたいと切に思いました。

未来への貯金

横浜市立岩崎中学校

三年 斉藤 優佳子

国民の義務である「納税」。税金と聞いても一体何のために納めるのか、何に使われているのか、私には分からないことばかりだ。

未成年の私にとって、一番身近な税金は「消費税」だ。大人でも子供でも何か買い物をすれば買った金額の五パーセントを消費税として払わなければならない。この消費税だけでも、一年間の国の収入は十兆円にもなるそうだ。消費税の税率が上がるという話も出ているようだが、税率が一パーセント上がるると一兆円の増収になるそうだと私は、想像もつかない大きな金額である。

そんな多額の税金は、一体何に使われているのだろう。調べてみると、とても身近なところで使われていることが分かった。

私達が毎日通っている学校。ここにもたくさんさんの税金が使われている。校舎やグラウンド、毎年配られる教科書も「もらえる」と思っていたが、税金から用意されているのだ。机や椅子がそろえられ、当たり前のように勉強できるのも、大人の人達が国民の義務をきちんと果たしてくれているからなのだ。

私は、吹奏楽部に入部していて自分の楽器を持っているが、楽器を買ってもらうまでは学校の楽器を借りて練習していた。学校には多くの楽器があるが、それにも税金が使われているのだろう。たくさんさんの人達が、一生懸命に働き納めてくれた税金のおかげで、私達は毎日充実した活動ができるのだ。

私が当たり前に生活している毎日の中で、税金がとても大きな役割を果たしていることに初めて気付いた。

高齢化が進み、少子化である今の日本は、社会保障にかかる費用が増えていくそうだと。二〇〇〇年には、六十五歳以上の高齢者を三・六人で支えていたのに対し、二〇四〇年には、一・六人で支えなければならぬそうだ。私は四十六歳になっているはずだが、親の世代が今納めている税金よりも、もっと多くの税金を納めなければならぬことになる。そう考えると不安になってきた。そして、私達の将来が豊

かであるように、今からでもできることを考えなければならぬと思った。

みんなが少しずつ納める税金、それは、国の貯金のようなものだ。払って終わりではなく、一度集められてから私達に返ってくるものだ。国に納めるのではなく、自分自身に納めているのと同じことだと思った。

今、子供の私達は、大人の納める税金に支えてもらっているが、私達が大人になって納める税金が、年輩の人や子供達を支えることになる。納税は、一方通行ではなく循環しているものだった。

将来、みんなの貯金を無駄なく大切に使うために、私達ができることは、世の中の事に目を向け、関心を持つて今から未来を考えていくことなのではないかと思った。

税金と水の大切さ

横浜市立錦台中学校

三年 佐々木 文哉

夏の部活の後は、水が何よりおいしく思います。それは、私達の住む日本では、水道の蛇口をひねると、そのまますぐに飲める水が出てくるから実感できるのです。日本以外の多くの外国では、水道がないため毎日何キロも歩いて井戸や川まで水をくみに行かなければならないと知りました。また、

一見きれいに見える井戸水も、浄水をしていないわけではないので、水を飲むことで病気になるったり死に致ることもあるそうです。日本では、税金により上下水道が整備されていて、飲み水で病気になる心配はありません。でも、この当たり前の日常に私達は、日々もつと感謝をし、目を向けなくてはいいけないと思います。税を納める事は、国民の納税の義務として日本国憲法に

しるされています。しかし、これは税を納めると共にその税の使い道まで関心を持つ責任を忘れてはいけないと思います。若い人の中には、個人主義を主張し自己中心的にお金の使い道を考える人もいます。それは、今現在自分の健康や体力に自信があり、明るい未来も夢も全て叶うものと自負しているからです。けれど、人はいずれ年をとります。老後の安定した健康な生活で、文化的な社会を実現するためにも、労働力となる社会がしっかりと国を支えなければならぬと思います。少子高齢化はこれからの日本にとっては、深刻で大きな問題になります。二〇四〇年には、一・四人で一人の高齢者を支えなくてはならないだろうと推計も出ています。これは若い世代に大変大きな負担となります。その時になって、あわてて税の仕組みを考えるのではなく、その未来のために公平な税負担を今から考えていくべきだと思います。一部の貧しい国の子供達

にがあります。それに比べ、私達は義務教育の名の下、中学校まで教科書も無償で受け取れます。自由に勉強をする機会を与えられていることはとても贅沢だと思います。

今回、税金について調べることで税金の大切さと、勉強の大切さに税金のさまざまな分野で私達を豊かで快適で安全に暮らすために考えられて使われていると分かりました。特に医療、警察、清掃、ゴミの処理や図書館などは私達の生活には欠かせないので、本当に日本は恵まれているので日本に生まれて良かったと思います。けれど、今日の日本の社会は変化しつづけます。将来税によって多くの人々がより一層公平に充実した暮らしができるように考えていくと共に、さらに地球全体を考え、アフリカ等の地域の人々にも手をさしのべる工夫をしていかなければなりません。僕は税金の大切さについて関心を持ち、自分のためだけではなく周りの人のことを考える人間になり、そして社会人になった時はきちんと税金を納めて、社会や地域に貢献できるようにしたいと思っています。

税の使い方

南部町立富河中学校

三年 齋藤 峻

「日本は世界一の借金国」というの

を以前テレビの番組の中で見聞きしたことがあります。でも、その時のぼくには全く実感がありませんでした。ぼくの中では、日本は豊かで、欲しい物は、何でも手に入るような気がしていたからです。それに、日本の「国の借金」ということが全然ピンとこなかったこともありました。つまり、ぼくは、税金に関してとても無知で無関心だったのです。

けれども、今回「暮らしと税金」という資料を見たぼくは、本当に驚きました。それはどうしてかという国の予算額の大きさもさることながら、国の収入の三分の一以上が借金だと知ったからです。もしも国が普通の家や会社だったとしたら、きつと悲惨な状況に間違いありません。もしかすると明日暮らすお金にも困るようなことになっているかも知れません。

なぜ国の借金は、こんなに増えてしまったのでしょうか。どうすれば、減らすことができるのでしょうか。

そこでぼくは国の支出の方に目を向けてみました。見てみると社会保障関係費、公共事業費、文教及び科学振興費等、どれも必要なものに思えます。

地方交付税交付金も都市と地方の格差を減らすには大切なお金だといえるでしょう。でも、そんな中で国の支出の四分の一弱は国の借金の返済にあてられています。つくった借金を返すのは当たり前のことですが、この返済はいつ終わるのでしょう。数字からだけみ

ると、返す額より新たな借金の方が多いので、永遠に終わりそうもありません。ぼくたちが、大人になってからも「借金国日本」のままなのでしょうか。早く借金国から抜け出したいと思いません。

最近、税金をこんな風に無駄づかいしているという雑誌の記事やテレビ番組をいくつか見ました。必要なお金を税金から支出するのは当たり前のことだから、もしどうしても税収が足りないのなら消費税率のアップも仕方ないと思うし、お金を沢山もうけている人達に沢山払って下さいというのでもいいかもしれません。でも、無駄づかいをして足りなくなっているお金を国民全体からとるなんておかしいと思います。前に社会の学習の時、その年の予算が余ったら、余ったお金を予算を減らされないために全部無理に使い切ることがあると学習したことがあります。ぼくは、国として公共の施設はどれもバリアフリーにするなどの未来に向けて先行投資するみんなが幸せになるための支出であって欲しいと思っています。使わなかった予算を借金を返すことにあてることはできないのでしょうか。

税金はみんなが幸せになるために、一人ひとりがしっかりと納めなければならないと思います。でも、それをつかう時、本当に必要なところにつかって、決して無駄づかいのないようにして欲しいと思います。

税金の大切さ ―夢の実現を通して―

福井市立足羽中学校

三年 小原 あい

「この教科書は、これからの日本を担う皆さんへの期待をこめ、国民の税金によって無償で支給されています。大切に使いましょう。」教科書の裏表紙に書かれたこの言葉に、私は教育費にたくさん税金が使われていることを改めて感じた。教室の机やいすなどの備品、校舎の建設、そして給食。一食がたった二百円余りで食べられる給食は、栄養たっぷりで本当にありがたいと思う。私達中学生一人当たりの年間教育費は、九十四万三千円。何と多くの税金がすぎ込まれていることか。税金がいろいろなところで活かされていることを知って、驚くことやその恩恵を感じることが多い。

今年三月、私はジュニア大使として、アメリカのニューブランズウィック市を訪問した。一週間程の短期派遣であったが、費用の大半は市の負担によるものだ。福井市では、毎年市内の中学生十名を、ニューブランズ市、フラトン市、杭州市、水原市の一都市に派遣している。多くの市民税を使って実現されている国際交流。

私は、中学校訪問、ホームステイ、文化施設訪問を通し、アメリカの人達

とたくさん交流を図ることができた。初めは緊張して英語を話すことも聴き取ることも難しかったけれど、ホストファミリーやクラスपालをはじめ多くの人達に励まされ、少しずつ自信を持つことがコミュニケーションをとることができるようになった。

アメリカと日本の違いは、食文化一つとってみても大きなものがあり、驚くこと、戸惑うことが多かった。しかし、アメリカの歴史を学んだり、見学に出かけたりいろいろな人達の話を知ったりすることで、なるほどと納得できることも増えたように思う。異文化にふれたことで、アメリカ社会、そして国際交流そのものに、さらに関心を持つことができるようになった。本当にたくさんさんの貴重な体験ができたことに感謝している。税金を使つて得られた今回の体験については、今後より多くの人達に何らかの形でフィードバックをし、国際交流の大切さを理解してもらえようように努力していきたいと思う。

税金、それは私達の生活を支えるものの、税金のおかげで、私達は安心して快適に暮らすことができる。さまざまな体験への挑戦を応援してくれるのだと思うと、夢や希望を持って勉強に励むことができる。

これからの私達に必要とされているのは、「自分の幸せな環境に感謝すること。」「税金の使われ方についてきちんと理解すること。」だと思う。「税金

が自分自身を支え、ゆとりのある社会を支える糧となるのだ。」ということをお忘れず、税金についての関心と正しい認識を持った大人へと成長していきたい。

なくてはならない税金

藤枝市立大洲中学校

二年 大畑 美晴

「見て、横断歩道が消えかかっている。」

私と友達が学校へ行く途中に横断歩道が消えかかっているのを見かけた。

ある朝、通学路を歩いていると消えかかっていた横断歩道は工事をしていった。私は、今までよりもずっと道路が歩きやすくなると思い、とてもうれしかった。

次の日の帰りには、もう横断歩道はきれいに新しくぬり変えられ、すぐく歩きやすくなった。しかし、その時の私はだが、どこのお金で横断歩道を直してくれたのか知らなかった。そういう消えかけた物などは、すぐ直してもらえないのがあたりまえだと思っていたのだ。

それからしばらくたった学校の国語の授業で税についての勉強をした。みんなが、身の周りの税金で恩恵を受けている物を言っていくと、信号機、図書館、そして横断歩道も税金で作られ

たり修理されているとその日、初めて知った。あの横断歩道も、税金のおかげで修理されたんだ。もし税金の制度がなかったら、横断歩道はボロボロになり、転んでけがをしてしまう人がいるかもしれないと思った。また、雨の日には歩道を歩いていると、後ろから来た車にバシャーと水をかけられる。それを不快に思っていたが、道路の舗装をしてもらった時は本当にうれしかった。そう考えると税金の制度があるってことは、とてもすごいことだと思う。

私の身近な税金は消費税だ。私は物を買う時、消費税などなければいいのにと考えたことがある。しかし、消費税も大事な税金であることを税の勉強をしてわかった。消費税はなくてはならない税金の一つなのだ。

私達が学校で使っている机やいすも、古くなれば修理してもらったり、新しい物に取り換えてもらえる。しかし、だからといって物を乱暴に扱ってはいいけない。すぐに取り換えてもらったりできるからこそ、物を大切に長く、長く使うことが必要だと思う。そうすれば、本当に必要なところに税金を使うことができる。

私達が生活していく中で生活の支えとなってくれている税金。税金があるから私も、みんなも安心して毎日が送れている。税金は私達に本当になくてはならないと今、私は思う。そして税金はみんなのものだから、みんなが明るく過ごせるように正しく税金

を使っってほしい。

税について

高浜市立高浜中学校

三年 水島 卓也

もし日本という国に生まれていなかったら？今まで当たり前のように考えていた事の大部分が、違っていたかもしれない。

具合が悪い時、電話一本で駆けつけてくれる救急車。何か問題が起きた時に相談できるおまわりさん。毎日の生活から出るゴミを処分してくれるゴミ処理施設。これらの公共サービスがきちんと受けられるのは、日本の国民が納めている税金のおかげだ。

僕が15年前に生まれてから今まで、多くの税金の恩恵を受けてきたが、その中でも教育面の事は特に大きいと思う。毎年新学年になると配布される教科書や授業で使う体育用具など、学校すらない世界の恵まれない地域の子供達に比べれば、申し訳ないくらいだ。ちなみに、中学生一人当たりの年間教育費の負担額（平成十八年度）は、九十五万二千円ということらしい。僕に通っている中学校だけで、一体いくらの税金が使われているのか想像もつかない。

このように、税金の恩恵を受けてきた僕も数年後には、税金を納める立場

に変わっているはずだ。そこで気になるのが、これからの社会の変化とそれに伴う税のあり方だ。日本の人口は二〇〇四年をピークに減少し、二十一世紀半ばには二・五人に一人が六十五歳以上の高齢者となる超高齢化社会になると言われている。また、日本の労働力人口（満十五歳以上の働く人・完全失業者も含む）は減少してきており、将来の税負担をどうするのか真剣に考えて対策を立てていかなければならない時はすぐそこまできているようだ。

今世の中では、税金の使い道を決める国会が解散され、選挙の街宣車が走り回っている。選挙権のない僕には関係ないと言ってしまうがそこまでだが、各政党の景気対策やら税金の使い方の抜本改革やらを聞いているだけでも興味深い。難しいことはわからないが、結局のところ家の家計も国の家計も根本は同じで無駄使いをやめて節約しようということなのだろう。

平成二十一年度末の公債残高は、約五百八十一兆円見込みで、国民一人当たり約四百五十五万円にもなり、その返済には十三年もかかるというデータがある。春先に、定額給付金のことで大いに盛り上がったが、こんなにたくさんさんの借金を抱えていて単純に喜んでいいいいのか疑問が残る。僕たちやこれから生まれてくるであろう子供たちの将来が、借金だらけでお先真っ暗というのは勘弁してもらいたい。今当たり前のように受けている公共サービス

や社会保障制度が維持され、お年寄りや子供たちが安心して暮らしてゆけるためには、僕たち一人ひとりの意識が重要なのだと今の世相から強く感じている。

未来へのバトン

豊田市立逢妻中学校

三年 沼 采伽

「あー、暑い。暑すぎる！学校にエアコンついたらいいのにねー」

夏休み、部活を引退してからも、学校に行く機会が多く、この季節になると、いつものこんな話を、友人としながら学校に向かう。

わたし達の学校生活にも、たくさんの税金が使われているのに、まだまだ税について未熟だったわたし。今考えると、何も知らずにわがままなことばかり言っていた気がする。

家に帰ると涼しい部屋。朝の会話を思い出し、母にエアコンの件を話してみた。すると母は「学校でもたくさん税金が使われているからねえ。」そんなことを言われた。（税金？わたしの生活の大半を過ごしている学校では、どんな税金が使われているのだろう？）という疑問を持ちながらパソコンに向かい、調べてみた。すると、わたしが知っていたのは、ごく一部だったということ、まだまだ知らない所に

も、わたし達のためにたくさん税金が使われていることを知った。

わたしが一番驚いたのは、給食についてです。毎月払っている給食費。これは材料を買うために使われているだけで、光熱費、人権費、輸送費などは、すべて税金でまかなわれていることが分かりました。他にも、何気なく使っている部活の道具、机や椅子、教科書など、学校で使われているもののほとんどに税金が使われていました。それなのに、机に落書きをしたり、乱暴に扱ってしまったら……。今さらなのですが（そんなこととしてはいけないよな。申し訳ない。）と改めて感じました。

最近では、少子高齢化が問題となっていますが、その一方で、税を納めない、働かない若者が増えています。今までわたし達のために支えてくれた人々を、このままでは支えられない。また、このまま納税者が減ってしまうと、すべてを自分で負担することになり、今のわたし達の豊かな生活は保障されなくなると思います。みんなが助け合うことで、国を支えられているのだから、税に対して正しい知識を身につけ、もっと興味を持ち、学ばなければならぬ。と実感しました。

後五年で、わたしも税を納める立場となります。感謝の心を忘れず、恩返しする気持ち、また、未来に貢献するのだ。という気持ちで納税したいと思っています。今まで支えてくれた方に安心して生活してもらえよう、社会の一

員、国民の一員であることを理解し、しっかりと納税者になりたいです。税金を使う側は感謝の気持ちをして、納める側には「納税して良かったな。」と思ってもらえる使い方をしなければならぬと改めて感じました。これからもずっと安心して生活できる国であるために。明るい未来のために。「税金を納める」という自覚・責任を持たなければいけないと思います。そして、もともと日本に笑顔が増えますように。

税金の姿

甲賀市立水口中学校

三年 吉田 智 夏

日本では、最近ひんぱんに地震が起こるようになりました。私が住んでいる滋賀県でももうすぐ大きな地震が起きると言われています。地震以外にも集中豪雨によって土砂くずれや洪水などのとても大きな被害が生まれました。

税金の使い道の中に、このような自然災害を受けた被災地への支援も含まれていました。私は、インターネットで税金の使われ方を調べるまで、こういうところにまで税金が使われている事を知りませんでした。それは、私が税金にあまり関心を持っていなかったからです。

私は今まで消費税として5パーセントのお金を払うことがいやでした。百元ショップで買い物をしてでも会計はいつも百元プラス五円。どうしてこんな中途半端金額なんだろうと思いました。消費税として出す金額はそんなに多くはないのですが中途半端な金額を払う事が面倒でした。

しかし、税金の事を調べてみてその5円は小さな金額だけど確実に世の中の役に立っていることがわかりました。今、私が通っている水口中学校は私が小学校の高学年だった頃、建て直されました。当時、水口中学校に通っていた私の姉はその工事が終わった時、教頭先生からこの工事には君達の親や多くの人が納めた税金が使われているという事を教えてもらったそうです。私が消費税として払ったお金がもしもこの工事の資金として使われていたらとても嬉しいことだなと思いました。この恵まれた学習環境は先生や両親のおかげですが、税金に支えられている事も知りました。

税金の使い道はさまざまでした。この様に学校建築や教科書などに使われていて私達が直接見たりふれたりできる物に形を変えている税金もあれば私達が直接見る事はできないけれどODAなど他国の支援に使われている税金もありました。税金の事を調べていくと税金のイメージはある言葉にぴったりだなと思うようになりました。それは、引退まで、部活をしてきた中でよ

く耳にする言葉でした。それは、「みんなは一人のために、一人はみんなのために」という言葉です。この言葉は思いやりを表している言葉だと思っています。税金はみんなの思いやりによって集められたお金だと思います。そんな大切なお金だからこそ税金の使い道を決める時は慎重に議論されているのだと思います。

私は今、あの工事によってきれいで丈夫になった水口中学校に通う事ができて本当に嬉しいです。

税の大切さ

豊郷町立豊日中学校

三年 藤田 有 里

もうすぐ、衆議院の選挙があります。テレビや選挙公報で、立候補者のマニフェストを見たり聞いたり、父母や今回二十才になって初めての選挙に行く姉の話の中から、税金に対する話題がよく出てきます。

税金のムダづかいを根絶するとか、消費税の増税についてとか。今の私には難しい話も多くてすごく遠い話のように思ってしまうのですが、作文を書く機会にいくつかの資料を見て私達の生活の多くが税金で支えられている事を知りました。

私は吹奏楽部に所属しています。今年の春新しい楽器を購入してもらえ

事がありました。何十万円とする楽器で個人では持つ事がなかなか出来ません。また、私が卒業した小学校の旧校舎がきれいに改築され、記念行事に参加させて頂き、貴重な体験をさせてもらいました。このような出来事も、元はみんなが収めている税金があるから実現されたものです。

毎年、新しい教科書をもらえたり、空調設備が整えられた校舎で気持ち良く勉強できるのも、すべて税金のお陰です。

なのに私達は、日々暮らす中でそのような事が当たり前のようになっていっている気がします。

近い将来、私達中学生が一番身近な消費税が、今の5%から引き上げられるという話も聞く事があります。決められたおこずかいの中で、同じ物が買えなくなってしまうかもしれません。私にはまだ選挙権もないし、国民みんなが幸せに暮らすのに税率を上げるのが良いのか悪いのか解りませんが、こんな私達にも出来る事って何でしょうか？それは、税金でまかなわれているすべての物を大切にする事だと思います。例えば先程の楽器でも校舎でもそうです。学校で時々起こる破損事件もなくなつてほしいです。また家庭においても、ゴミをちゃんと分別し減らすとかもそうだと思います。

多くの人々の力で、今、私達が快適に生活させてもらっている事を忘れずに、また機会を持って税金の学習をす

る事によって、税にいつも身近に感じ、納税の大切さを知っていきたいと思います。

「税」を知ると

京丹後市立橋中学校

三年 吉岡 志 栞

「税」と聞いて私は、あまり良いイメージを持ったことがありませんでした。私の一番身近にある消費税だってそうです。「物を買う度に税を払わなくてはいけない」という意識から、良い印象が浮かばなかったのです。しかし、今考えてみると私は「払う」という一方的な見方しかしておらず、その「税」によって自分自身が支えられていることに気付いていませんでした。

私は小さいころから「ぜんそく」という病気を持っています。そしてそのぜんそくがひどくない時であっても、月一回のペースで薬をもらうため病院に通っています。私は、その薬代や診療料も税金でまかなわれていることを知りませんでした。もしも税金がなかったら、薬をもらうのにもたくさんのお金がかかり、とても大きな負担になっていくはずですよ。まして、毎月通っている私は、税金が無かったら……と考えると、どれだけ税金という存在が大きいものであるか、実感しました。また、税金が使われているのは医療

関係だけでなく、私に通っている学校にも使われています。私は今まで「税金で学校に通っている」なんて考えたことも思ったこともありませんでした。しかし、授業料や教科書、校舎そのものが税金によって支えられ、私たちに学校という居場所まで与えてくれます。

歴史の授業で習った昔の「税」は、とても重く、人々に苦役と不満をもたらすばかりでした。さらにその税が、苦勞して納めた人のために使われることはほとんど無かったといっても過言ではありません。でも、今の社会の税金は違います。自分が納めた税金が、様々な形で自分自身や周りにいる人を救っているのです。

私は子どもなので、自分で税金を納めるということはできません。だから今は、自分の両親を含めて多くの納税者の方々が納めてくださった税金によって支えられています。しかし自分が大人になったときは、今まで支えてくれた恩を返すつもりで、また私たちが今そうであるように、未来を担う子どもたちのため、しっかりと税を納めようと思っています。

消費税やたばこ税など、税金の引き上げが騒がれている今、私たちは税金の大切さを再確認するべきではないでしょうか。税を納めて損している、などということは決してないはずです。また、私が様々な税金の使われ方を知らなかったように、自分が納めた税金

がどのように使われているか知らない、という人も多いのではないのでしょうか。税金が何に使われているのかを知らなければ、自分が損した気分になっても無理はありません。

税について詳しく知ることこそが、気持ちよく税を納められる第一歩なのだと思います。みんなが税について理解し、たくさんの方が国民の義務としてすんで税を納められる社会の実現を目指し、協力していきたいです。

税についての作文— ふるさと納税

帝塚山学院中学校

三年 柳 原 千 明

この宿題が出た時、私は以前テレビで「爆笑問題」が大阪府知事へ「ふるさと納税」をされていたことを思い出して調べることにしました。「ふるさと納税」とは、納税者が自分が指定した自治体に個人住民税を納付できる制度で、自分自身で納税する自治体を決定できる画期的なアイデアであり、市民参加の新しいスタートです。今までは、政治家が勝手に税を分配して使っていました。日本は源泉徴収制度で殆ど給与所得者の為納税者が主役であるという意識を持っていませんでした。だからこの制度は「搾り取られる税金」から「自ら納める税金」へ発想を

転換させる制度ともいえると思います。

私は父母に「ふるさと納税」についての意見を聞いてみる事にしました。父はこの納税は住民税で地方税だからその地域の住民に対して課税し、集まった税金はその住民の為に使うものである。だから、その住民の為に使って欲しいという権利があるといい、税収の格差のある地域に分配するのは格差自体は国の政策の誤りだから地方交付税制を充実すれば良いと言っていました。例えば、大阪市内に住み大阪市で働く父は自分の税金は地下鉄や公園、ゴミの収集等のようにその地域に住む人々の為に使うのが正しいと言いました。母は広島出身で結婚して大阪へやって来ました。当然子供の頃は広島でサービスを受けていた事になります。成人して納税者になったとたん他県へ移ったのです。広島からすれば今までのサービスを「ふるさと納税」を利用して還元してほしいと思うはずだと母は言いました。また、地方では海水浴場や温泉、スキー場等は地方税で運営されていて、母のように都会へ移り住めば税収が減り経営が難しくなるとも言っていました。だから、自分は今まで受け取った分を自分の思う所へ納税できる「ふるさと納税」は賛成だと言っています。

このように、いろいろな意見がある「ふるさと納税」ですがどちらにしても日本は今財政が苦しく交付税を増額して国から地方へ今以上に資金を渡す

ことはできません。そして、東京のように豊かな団体の税収入を地方に交付する仕組みは今はまだありません。だから、国の負担を増加させず東京のような不交団体の余裕財源を地方に回せる唯一の手段がこの「ふるさと納税」だと私は考えています。この納税方法は、画期的です。これらの事から考え、また、父母の意見をきいて私の感想は、納税場所（地域）はどこでも良く自分の感謝している所で良いと思います。ある意味、人気投票のようになるかもしれないませんがどちらにしても任意なので自分の思う方を自分で選択する事ができる点も考えて私は「ふるさと納税」には賛成だと思いました。

税について

羽曳野市立羽曳野中学校

一年 黒田彩貴

税金は、教育・医療・防衛などにおいて、国民が安心して生活するために使われている。ぼくは、消費税しか払っていないが、両親は所得税・府市民税・固定資産税などを納めている。税金は国に納めるもの、都道府県に納めるもの、市区町村に納めるものがある。それらは国民が一生懸命に働いて納めている。だから、みんなは大切に使うってほしいと願っている。しかし、ニュースで悪い人が税金を勝手に使っ

たということを見る。こんなことは決して許されることではない。

このような人ばかりではなく、この国をよくしようとかがんばってくれている人もたくさんいる。例えば、最近、よくマスコミに取り沙汰されている橋下知事や東国原知事である。二人はタレントをやめ、自分たちの府や県のために努力している。橋下知事は大阪府の借金をなくすように財源をカットし、東国原知事は宮崎県の特産物をアピールして、県の活性化に努めている。このような人をもっと増えてほしい。

今の国の収入は約六割が税金で約四割が公債金だ。でも、公債金が増え続ければ、人が自己破産するように、国は潰れてしまう。だから、日本もスウェーデンのように、税金を多くし、社会保障を充実させればよいと思う。そうすれば、医療体制がよくなるし、お金の余裕もできる。そうすることで、国民がもしものときに、安心できる社会になれるだろう。税金を多くすると国民の負担は大きくなる。しかし、将来の安心のためにかかせない。今の負担を軽くすることは、将来の不安につながってしまう。どこかで大変な思いをしなければならぬ。このことはみんなのがまんできり立つので努力が必要だ。

今、世界で高齢化が進んでいる。その一番が日本である。二千年では六十歳以上の人に対しての働き手は、三・六人だが、二十年後の二千年二十年

では、一・九人になっている。このままいけば、二千五十年から二千六十年には働き手は一人より少なくなる。これはたいへんなことだ。そうなれば、国の収入は確実に減るし、お年寄りの社会保障の費用が増えて、公債金も増えてしまう。このようにならないためには、女性が子供を産んでも安心して育てることができる社会をつくり、未来の働き手を増やしていくしかない。

税金は人のためにある。でも、使い方を間違えば、人のためにならなくなる。だから、きちんとした使い方をぜひ考えてほしい。現在のことも大切だけど、現在のことにプラスして先を見通せることが大切である。一人一人の大人が将来のことをよく考えてほしい。そうなれば、自分たちの将来にも明るい光が見え出せる。そして、自分が大人になった社会を、自分たちが責任をもってあずかり、未来の子供たちに渡せるように努めたい。

税について考えたこと

三田市立ゆりのき台中学校

三年 前田百瑛

税について書かれたパンフレットを読んで、日本の将来が、財政的にとても苦しいことを知り、私はとても不安になりました。

私は、国民がきちんと税金を納めて

いれば、国が、安心して暮らせる社会を提供してくれるのだと思います。豊かな教育環境、病気の時や老後も安心して生活できる環境は、親が税金を納めていれば家族全員が受けられる無料のサービスのようにかん違いしていたのです。

現実には、国の財政は、公債という赤字補てんでごまかされています。知らず知らずの内に、国民は、大きな借金を背負わされているのだということに驚きました。国の経済を立て直すため、様々な対策が取られているので、様々な財源も見つからず、見通しの立たない状態にあるようです。

特に、少子高齢化や景気悪化の影響は深刻で、社会保障が追いつかない状況になってきています。長年税金を納めてきた人達がわずかな年金で苦しい生活を送ったり、地域に専門医がいなために命の危険を感じたり、働いたくても仕事がなく定職につけないなど、社会全体が、不安や不満や不公平感であふれています。

そこで、誰もが平等に安心して生活できる社会にするために、私達にできることはないかと考えてみました。

まずは、税や政治に関心を持つことが大事だと思います。総選挙を控え、「税制改革」が論点になっていますが、税の集められ方、税の使われ方をしっかり見張って、より良い社会を築くた

幸せを願って

生駒市立鹿ノ台中学校

三年 横手 柚乃

わたしの祖母は、今年の一月末に亡くなりました。長い長い間、祖母は入院していました。その費用は、とても払えるものではなかったと母は言います。では、どうやってお金を払ったのでしょうか。聞いてみると、国や地方公共団体が一部を負担していると教えてくれました。国や地方公共団体の活動費用は、わたし達が納めている税金でまかなわれていることも教えてくれました。

今、十五歳であるわたしが、税金を納めていると感じる時は店で商品を買っている時ぐらいです。そんな税金が、祖母の入院費用に充当されていたとは露知らず、教えられた時はとても驚きました。税金を納めているけれど、一体どこでどのように使われているのだろうと思っていました。けれど、それは誰かのためにしていることなのだと思うと、なんだか温かい気持ちになりました。

わたしも、いずれ大人になり働き、税金を納めます。やがて、年を取って定年退職を迎えます。病気になって、入院するかもしれません。祖母のように、みんなの税金の力を借りることもあると思います。だから、わたしは、

めに、周りの大人に選挙に参加するよう呼びかけたいと思います。私が大人になったら、マニフェストをしつかり吟味して、投票に行きます。また、選挙で選ばれた人達にも、一般の人達に分かりやすい税の仕組みを考え、責任を持ってやり遂げる努力をお願いしたいと思います。

次に、税が、個人のためではなく、社会のために使われるお金であることを考えれば、小さい時から、公共の物を大事にしたり、マナーを守ったりする公共心を育てるための教育やしつけも大事だと思います。国民が皆、自分は大事にされていると感じられる社会を目指して、お互いへの感謝や奉仕の心で結びついていけたら、多少の痛みは、乗り越えられそうな気がします。

将来の社会に対する不安はなかなか消えませんが、これからは、自分なりに考えた小さな努力を積み重ねていきたいと思っています。私の老後が、福祉の行き届いた社会だといいなと願っています。

身近に生きる税

洲本市立洲浜中学校

三年 片桐 麻衣

私達の中学校は去年から新校舎になり、素晴らしい設備があるようになりました。エレベーターや細かいところでは

多目的ワークスペースなどの市内の公立中学校では今まで開かれないものが配備されている。また、母校の小学校でも体育館が新築され始めた。さらに、多くの市内の学校で耐震補強工事が施されてきているらしい。これらの全ては私達の大切な命を守るためだ。その他にも、授業料や学校生活で使っている光熱費など私達の普段の学校生活の一つ一つにもお金がかかる。

私の住んでいる洲本市は台風で大被害を受けて五年がたとうとしているが、今なお河川敷などの復旧工事が続いている。これにも膨大な費用がかかっていることは違う。また、そのお金は紛れもなく税金から支払われている。中学生の私にとって「税金」ということを意識する機会は多くはないが、この夏税金のことを調べてみて「税金」のありがたさをひしひしと感じ取ることができた。

ではもし、税金が世の中から無くなったらどうなるだろう。消費税を払わなくて済むし給料から所得税を引かれることもない。しかし、今までは当たり前だったものが無くなっていくだろう。火事が起きても消防車は来てくれないし、犯罪を取り締まる警察もいない。ゴミの日にゴミ収集車も来ない。以前、米国のある州で、税金がなくなったらどうなるかを試みた番組を見たことがある。その州は、治安がめちゃくちゃになったと報道されていた。このことから税金のすごさが分かる。

つまり皆が少しずつでもお金を出し合えば、一人では作れないものや少しでも住みやすい環境を作ることができ。皆が極端な貧富の差が無く生活しているのも、税金があるからだ。税金というものが存在しているということでは、私達は『共存』していることだ。例えば、税金で作った道路は、見知らぬ人とお金を出し合って作ったものだ。知らず知らず私達は助け合いながら生きていくのだと思う。

それでは、親からのお金で消費税を払うことくらいしかない私達に今、何ができるだろうか。それは税金から一番援助を受けている今この時に「税」についてしっかりとした知識をつけておくことだ。税金から援助を受け、大人になったら今度は税金をしっかりと納める側にまわる。そうしていくことで、未来の人間に住みやすく楽しく過ごせる環境を提供することができる。

今後日本は不況や少子化社会を迎え、どうしても赤字国債に依存せざるをえなくなっている。税金においては収入と支出のバランスを調整していくことが課題だ。しかし、どんなに課題が山積しているようが、身近な学校から順に税金について考えた結論は、税金は私達の協力次第で大きな力を発揮し、人間が共存していく上で必要不可欠なのだということだ。私はしっかりと納税できる人間になりたい。この大切な私達の明るい未来のために……

そんなお年寄りの為にすっかり税金を納めたいです。どうして顔も知らない他人の為に、お金を払わなければいけないのと思いません。誰だって年を取って、他人の力を借りないと生きられなくなるから。人間は、一人で生きているのではない、他人と支えあって生きているのだから。

税金一つでここまで思うのは大げさ過ぎると思われるでしょう。けれど、この作文を読んでいるあなたも、税金によって生かされているのです。わたしもです。顔も名前も知らない、「誰か」に生かされ、また、その「誰か」の為に生きているのです。そんな風に、生きている人間を、使われている税金を、素晴らしいとわたしは思います。人は人と支え合って生きている—そう思えば、税金を納める意味が分かります。いつか私が働けなくなっても、その代わりにきちんと税金を払う「誰か」がいることを信じています。わたしも働ける間はしっかり税金を納めたいです。その税金のおかげで、生きている「誰か」の幸せを願って。

命の税金

広陵町立真美ヶ丘中学校

三年 鬼木大地

世界では毎日約二万五千人の人が貧困や飢餓によって亡くなっています。

そして、今生きている人の中にも貧しい生活で苦しんでいる人が何億人もいます。社会の資料集には、少年の手足が棒のようにやせている衝撃的な写真が載っていました。テレビでは、一日一食も食べることができなくて清潔ではない水を飲むという人たちについて放送されていました。このような現状を見る度に、かわいそうだな、僕の食べている食べ物を少しでもすぐに分けてあげたいな……などさまざまな思いがこみ上がります。僕の食べ物をすぐに遠い国の人に分けるなんてできるはずがありません。でも少しでも人の命を救いたいと思ったとき、僕にできることは学校で行われているユニセフ募金や赤十字募金、ベルマーク運動、ピースバックプロジェクトでした。僕はたとえ百円という少しのお金でも貧しい人達を救う一人だという気持ちをもって募金をし続けようと思います。

僕はこのような気持ちは大人になっても忘れないようにしたいです。大人になったら募金することや海外へ支援しに行くこと以外にどのような方法で貧困で苦しんでいる人を助けられるのか？このような疑問を持っていたとき、税務署のホームページを見ました。するとそこには、貧困や飢餓に苦しむ発展途上の経済援助に税金が使われていることが書かれていました。そのことを知った瞬間、税金は国境を越えて人の命を助ける素晴らしいものだと思わず感動してしまいました。ユニセフ

募金や赤十字募金に募金しなくても、税金を納めている人は貧しい人たちの生活を支えています。このことを思うと日本人は日本のためだけではなく世界のためにも働いているんだと思いました。一人で納めた税金は最後にはたくさんさんの人の税金の集まりになります。そして、その集まった税金で貧しい人の命を救うと考えると、日本で暮らしている税金を納めている人達がみんな協力して発展途上の問題へ立ち向かっているような気がしました。

僕は大人になって税金を納めるとき、税金は自分の手元からなくなってしまう物ではなく、貧困や飢餓で苦しんでいる人を助けたいという気持ちを込めた命の税金だと思っています。そして周りの人達に納めている税金は命の税金であるということを教えると思っています。

身近な税金

田辺市立中辺路中学校

二年 山本舞香

私の家は、国道沿いの高台にある。約二十年前に、家の田んぼの半分をけずり国道を造ったそう。そのため、私の家は急斜面なげの上にある。そのがけと家の間にはフェンスがたてかけられている。このフェンスで、私達は守られているのだ。これが無ければ

安心して外で遊ぶこともできなかっただろう。だから、私は今あるフェンスに感謝している。

そもそも、このフェンスは新しい。昔は、もっと汚くサビついていて、少しおすだけで全てのフェンスに振動し、とても危険だったそう。そのため、私の両親が、役場に頼みに行き、工事が進められ今のフェンスになったそう。私はその話を聞いたとき、お金はどうしたのだろうと疑問に思った。そこで、

「お金はどうしたん。」

と聞いてみた。すると、

「税金でやってくれたんやで。」

と意外な返事が返ってきた。税金はこんなに身近に使われているのか、と感心した。私は、他にどんな事に使われているのか調べてみた。すると、様々な面で使われていることが分かった。その中で一番驚いたのは、私たちの教科書も税金により配布されていたこと

だった。税金は、私たちの生活に深くかかわっていると気付いた。まず、フェンスに感謝する前に、税金に感謝しなければならなかった。

今、また新しく工事が始まった。それは、急斜面な壁の壁面の工事である。今工事している最中で、これは、約四十年後までにはくるとされている南海地震に備えてだといっている。私はまた聞いてみた。

「これも税金でやってるん。」
と。すると、

「そっやで。」

と、今度は予想通りの返事が返ってきた。今は意外ではなく、感謝の気持ちに変わっていた。また、税金によって、今度はたくさんさんの命が救われることだろう。地震で、土砂くずれが起きてても、国道へ石や岩などが流れることはないだろう。

税金は、少ない命から、多い命まで守ることができる。それだけではなく、私たちの生活や安全を守る警察や消防の費用、そして、市町村のゴミ処理費用までもが税金で支払われている。さらに、少子・高齢化も進んでいく中、公共サービスなどの費用などの財源の中心は税金なのである。私たちの未来にも深く関係していくので考えていく必要がある。

そして、私たちは単に税金を納めるのではなく、納税者として、きちんと税金について十分理解する必要がある。フェンスや壁で守られているのは、税金が支え続けてくれているからという事を忘れずに感謝していきたい。

身近な税について

日高川町立美山中学校

三年 奥村 亜佳音

昨年の四月に私達の住んでいる地域を走っていたバス会社がバスの運行を廃止しました。利用者が少なく採算が

取れないという理由からでした。それに伴い少ないとはいえこのバスを利用していた人達はとても困りました。特に私の身近な事の一つに、高校生の通学手段であるバスがなくなるという事がありました。大変な驚きでした。どうなるものかと家族の間で話題になっていました。私達の町の中心地までは隣り町から今まで通りバスが来るのですが、それ以外の地域にはバスが来ないという事なのです。高校生は家族の車などで中心地までバス停まで送迎をしてもらう事になるのです。そうすると、高校生を持つ家族の時間的な負担、経済的な負担は人事ではなく私達家族の問題にもなってきます。どうなるのだろうと心配でしたが、町で「コミュニティバス」が運行される様になりました。私達の地域から高校生の登校時間に間に合う様に運行時間がぐまれ時刻表や利用料金表が各家庭に配布されました。そこには、高校生以下の利用者の利用料金は無料になっています。それ以外の利用者の利用料金は二百円です。今まで歩いたり自転車で行くには遠い友達の家へは時刻表をみて、家族に送迎してもらわなくても自分で行動できるようになりました。私はこの「無料」ということについて家族に聞いてみました。するとそこには「税金」が使われていることを知りました。

私は毎日スクールバスで通学しています。自転車や徒歩で通学している人もいますが、私は学校までの距離が遠

いのでスクールバスを利用しています。当たり前の様に使っている学校の教科書や教室の机やイスの代金や使用料は支払った事はありません。もちろん、スクールバスを利用してても利用料は払っていません。私は経済的にとても助かっています。

何の不自由もなく学校で勉強しているのは、大人の人達が一生懸命働いた給料の中から少しずつ納めてくれている税金のおかげです。今の私達が義務教育を受けることができているのです。私はその生活の中で教科書や施設などもっと大切に使い、今だけ良かったらいいのではなく、今後の為にも大切にすることをしていきたいと思っています。税金の力をかりながら、与えられた今のこの豊かな生活を守っているのは私達の役目だと思います。税の事をもっと勉強し身近なものと考える知識をもっとその知識を後に自分が大人になっていく中で活かしていきたいと思っています。「税金」はやっ介なものと思っています。思っていました、こんなに身近に感じる事ができました。「なぜ税金払わないといけないの？いやだ！」とは思わず、税金で成り立っているものすべてが私達の大切な宝物として後々に残していきたいと思っています。税金の無駄使いをしない様に私達子供の世界でも考え心がけていかなければならないと思います。今、私にできる限りの事から始めたいと思っています。

ぼくらの大切な税金

津山市立津山西中学校

一年 安川 幸輝

僕が「税金」と聞いて思い浮かぶのは消費税ぐらいです。税金にはどれぐらいの種類があり何に使われているのか父にたずねてみました。税金は、会社の給料で納めている所得税、住民税の他、ビールやタバコ代、ガソリン代等にも税金が含まれていると教えてくれました。生活の中の身近な所にたくさんさんの種類の税金がかくれていました。国民から集めた税金は、公共施設や公共サービスを提供するために数多く使われているそうです。

父と税金の話をして数日後の、8月9日。僕は先祖のお墓参りの帰りに大雨に遭遇しました。中国道は閉鎖されやむなく山陽道と気インターから一般道で家に帰りました。和気から津山までは大雨洪水警報が発令され、道が川のようにとても危険な光景でした。街灯も少なく真っ暗でいつ川の氾濫や土砂くずれが起きても不思議ではない状況で無事に家までたどりつけるか心配でした。さらに雨がひどくなり前が見えない中、遠くにオレンジの灯りが見えました。警察官です。通行止めを知らせる為にずぶぬれで道案内をしていました。う回すると数台のパトカーや消防車や広報車とすれ違いました。美

よりよい 私たちの暮らし

広島市立安佐中学校

三年 田村 まりや

咲町役場の電気はこうこうとし、大勢の人たちが働く姿が見えました。なんとか無事に家に着き、翌日テレビをつけると、美作市の災害を報道していました。昨日と同様その中にも多くの警察官・消防士、町役場の人たちが映っていました。このような公務員の人たちは、税金から給料をもらい公共サービスを仕事にしているそうです。昨日の夜中も必死で働き、僕たちの安全のために仕事をしてくれていたのだと思いました。また、被災地に届けられる多くの救援物資や水、生活用品、土砂で崩れた道路の修復にも税金が使われているそうです。税金があるからこそこんなサービスを無償で受けられるのだと思う。僕たちの生活が安心して送れるように多額の税金が使われているのを実感しました。父が納めた税金も僕が気付かない所で有効に活用されているのだと思います。僕たちが健康で安全に生活する為のサービスや施設の為にやはり税金はなくてはならない物だと思っています。

各家庭から平等に税金を集め、国民一人一人の生活を縁の下で支えている役目をしている税金。今、納めている税金も将来の安心・安全・安定の為に大きな貯金なのだと思います。僕はこの大切な税金をさらに有効に活用してほしいと思います。そして僕も正しく税金を納めたいと思います。

私の姉は今、スウェーデンでホームステイをして生活しています。大きな部屋で暮らし、日本と比べても、とても豊かな生活をしていると思います。昔スウェーデンは、貧しい農業国だったそうですが、今ではどの国でもスウェーデンを福祉の国のお手本と考えている豊かな国です。

スウェーデンは消費税が25パーセントです。その他にもいろいろなところに税金がかかっているようです。しかし姉の行く学校は、授業料がいらないので寮に入るためのお金だけで、日本の学校に行くよりも、とても安いそうです。また医療サービス、介護サービスも充実しています。私は今、歯の矯正をしています。日本では百万円ちかくかかってしまい、とても高いけれど、スウェーデンはお金がかからないので、小さいときからたくさんの方が矯正をしているそうです。

姉の行く学校には、一度仕事をやめて、入学して、また仕事を始める人もいます。生活することに心配することが少ないから、できることだと思います。いろいろな生き方、スタイルが認められて、国がそれを保障し、

援助しています。

このようにスウェーデンでは、高い税金を納めるけれど、皆が最後までいろいろな援助を平等に受けることができます。スウェーデンの人々は、税金を貯蓄と考えているそうです。だから自分でお金を貯めて、老後に備える必要ありません。

そして、最も重要なことは、オンブスマン制度というものが確立していて、税金が正しく使われているかを市民がチェックするシステムができていることです。日本でも最近聞く言葉ですが、これはもともとスウェーデンから来しました。だからスウェーデンの人々は安心して税金を納めていると思います。日本は経済大国と言われていますが、貧しい家では、学校に行くことができなかったり、年をとっても福祉援助を受けることができなかったり、また仕事を失いホームレスになり、外で暮らさないといけない人がたくさんいます。お金持ちと貧しい人の格差が広がっていると言われています。

私は、全ての人が困っているときには国からの援助をうけ、安心して楽しく毎日がおくれるような国になってほしいです。そして、税金を納めることによって、みんなの暮らしが守られ、助け合って生きていることがわかる社会になってほしいと思います。税金を納めることがよく分かるようになったらいいと思います。私もあと数年すると、社会に出て働き、税金を納めるよ

うになります。どんな社会になるのかわかりませんが、日本の未来に希望が持てるような国を大人の人は作ってほしいです。そのためには税金です。私は、高い負担でも高い社会保障の国になってほしいと願っています。

安心な社会を 目指す消費税

綾川町立綾南中学校

三年 福井 勇人

僕たちの住む日本国の借金とは、国と地方を合わせて九百五十四兆円という想像を絶する金額になっている。これらの借金は私たちが快適な生活をするために、道路や橋や学校を作ったり、医療費や年金を支払うのに国や地方が集めた税金で賄いきれなく借金をして遣り繰りしてきた結果だ。これらの借金はいずれは返済していかないといけない。

そこで国は、借金を少しでも減らし、安定した財源を確保するために、消費税率を今の五パーセントから十から十五パーセントに引き上げようとしている。しかし、消費税率が上がると私たちの負担は大きくなる。消費税は高所得の人も低所得の人にも一律にかかるので、低所得者には負担が大きくなる。特に昨今の不況で仕事を失ったり、給料が減っている状況で、消費税率の引

き上げは、国民の理解を得られないと思う。僕だって少ないお小遣いで漫画本や文庫本を買うのに少しでも安い方が良いので反対する。

しかし、これからの少子高齢化で増え続ける医療費や年金を掛金と税金で賄って、みんなが将来に安心が持てる社会を築いていくためには、消費税率の引き上げは将来において避けて通れないように思う。

では、消費税率の高い北欧諸国においては、どうして国民の理解が得られているのだろうか。ちなみに北欧五ヶ国全てが消費税率二十パーセントを超えており、デンマークやスウェーデンでは二十五パーセントに達している。

これは日本の消費税率の五倍にもなり、車や家を購入する時には、消費税だけでもものすごい負担になる。しかし、国の治安は安定している。なぜか。

北欧諸国では、国民に高負担を強いる代わりに医療や福祉制度が非常に発達していて、非常に低負担でサービスを受けられる。将来への不安が日本より少ないようである。さらに、食料品や医療品などの生活必需品には負担を軽減し、贅沢品と生活必需品の税率をきっちり分けている国もあるようで、そのようなことが安定している理由になっている。

さて、日本ではどうであろうか。いきなり消費税率を二十パーセント台に上げるわけにはいかず、仮に今の倍の十パーセントに引き上げれば、医療費

や教育費の負担はこのくらい減りますとか、年金はこのくらいまでなら支給できますということを示し、国民に将来への不安感を少しでも減らす努力が大切だと思う。この将来への安心感ができれば、消費税が上がっても消費も大きく落ち込むこともないように思う。大切なのは、将来へのビジョン、安心感を国民に与えることである。

この消費税のあり方が今後の日本のあり方を決定付けるようにも思う。今こそ、高負担高福祉か、中負担中福祉か、それとも低負担低福祉を選ぶのか、社会の活力を維持しつつ、政府と国民が信頼関係の中で決める時だ。

暮らしに身近な税金

黒潮町立佐賀中学校

三年 弘 瀬 ああと

私がつ通っている佐賀中学校には、「佐中祭」という行事があります。「佐中祭」は、私達生徒や地域の方が地元のおいしい食べ物などの出店をしたり、卒業生や県内出身の方のライブをしたりする、地域全体で盛りあがる文化祭のようなものです。

今年、私はその佐中祭の会場で、ゴミ箱のゴミを集め、ゴミ袋を新しい物に交換するという作業を手伝いました。簡単な仕事だしすぐに終わるだろうと思いい、すすんでその作業に加わりまし

た。

しかし、私は一つ目のゴミ箱を見るなり驚きました。そこには、ゴミ箱に入りきらないのに無理やり押し込んであるゴミがあふれていたし、焼き鳥やイカ焼きなどの串が刺さって袋が破けて中からタレが出ている物もありました。ジュースやビールの飲みかけの物もありました。

分別されていないゴミがほとんどで、私達はゴミ箱の中からビンや缶を取り出して別の袋に入れ直しました。正直、楽しい仕事ではなかったけれど、私は「今までもこの作業を誰かがやってくれていたんだ。」ということに気づきました。

同じように、私達が学校や家で生活しながら出しているゴミも誰かが収集し、処理してくれているのです。しかし、私はその誰かが安全に効率よく作業ができるようなゴミの出し方をしていないでしょうか。ゴミの処理は全て私達のまわりの人々が支払う税金で賄われています。

分別の仕方や収集日などのルールを守らなかつたり、先のとがった物をそのままゴミ袋に入れたりすることで時間や手間がかかり、時には作業に関わる人がケガをするかもしれません。それらは全て、税金を無駄にしているということになります。自分達が支払う大切なお金を、自分達が無駄にしていることになるのです。

私達の生活の中には税金に関わる事

がたくさんあります。中学生の私の周りでも、毎日学習している校舎や机やいす、毎年無料で配布される教科書など数えあげればきりがありません。理科の実験に使う器具や図書室の本、先生達の給料もです。身近なところで日々税金が使われていることがわかります。

その税金を支払っているのもまた私の身近な人達です。最も身近な父母をはじめ、周りの人達や、会ったこともない多くの人達が働いて税金を支払ってくれています。私が毎日使っている教科書や弟が毎日泳いでいるプールなどは税金が形を変えたものです。

私達は、そのおかげで学習できるし、健康に安全に快適に生活できています。私達の生活は、顔も知らないたくさんの人同士が税金を納めるということで支え合って成り立っているのです。私はゴミの出し方一つでも違ってくる税金についてももっとと関心をもつて生活していきたいと思いました。

みんなのために「税金」

久留米市立田主丸中学校

一年 高 尾 純 奈

「もうちつと近いとええがのオ。」牛引きの利助^{りすけ}さんは言いました。これは「牛をつないだ椿の木」とい

う本の一文です。この頃は、税金がまだなく一人の人だけが苦勞してしまいう話です。

「税金」とは、国や都道府県、市町村などが仕事をするために人々から集めるお金のことです。これはみんなのために使われます。税金のことを考えたとき、私はこの話を思い出しました。利助さんと海蔵さんは、山の中の椿の木に牛をつないでおきました。そして、二人で道から遠く離れた清水に水を飲みに行き、帰って来ると利助さんの牛がすっかり椿の葉を食べていました。利助さんは、椿の持ち主の地主に怒鳴られてしまい、

「清水がもうちつと近いとええだがのオ。」

と呟きました。そこで、利助さんは道の近くに井戸を作ろうと考えました。お金持ちの人に頼みに頼んで回りましたが、みんな井戸を作っても自分が何の利益も得ないから利助さんの頼みを断りました。それでも利助さんは井戸を作ればたくさんの人が助かるので、諦めずに頼んで回ります。

結果的に井戸は完成しましたが、私はこの時代に「税金」があつたら良かったのに……と思いました。「税金」があれば、利助さん一人が悩まずにたくさんの人が喜び、助かっていただろうと思いました。

また、こんなこともありました。この春、中学に入学したときのことです。担任の先生から教科書の話を書きま

した。勉強するために必要な教科書。昔は、お金もちの人しか教科書をもっていなかったそうです。そして、こんなことが書いてある詩を紹介してもらいました。

「教科書でかばんが重たいのが嬉しいんよ。」

こう書いてありました。今は、かばんが重いのが嫌なのに昔は教科書が貴重品だったことがこの詩からよく分かりました。それなのに今は、教科書が税金のおかげで無料です。全教科書の値段は、約八千円ときました。そんなに、教科書が高いことに驚きだったし、今は無料なことに感謝です。

私は「税金」を利用してみんなのために使うという仕組みがとても素晴らしいと思います。また、税金を納めているのは、父や母なので父や母に感謝しなくてはいけないとも感じました。学校で当たり前のように使っている机やイス。私は大切な机に落書きをしたり、イスを乱暴に扱ったりしていました。反省しなくてはいいけません。これからは、机やイスに限らず、身の回りの物全てを大切にしていきたいです。そして何より「税金」があることに感謝して……。

税について

大川市立大川中学校

二年 小溝 遥 香

以前、私が何気なく見ていたテレビ番組である外国の特集が放送されていました。その国で車を買うといくらかかるのか、という紹介されていたのですが、驚くことにその国では日本では考えられないほどの多額の税金を払わなければなりません。しかし、それ以上に驚いたのは、税を納めている国民が「税を納めることは当然のこと。何も不満はないわ。」と笑顔で語っていたことでした。税の作文を書くにあたってそのことを思い出した私は、税金の高い国について調べてみました。

そこでできたのはデンマークでした。日本の消費税は五パーセント、それに対してデンマークは五倍の二十五パーセント、所得税に関しては約五十パーセントと国民は高税を課せられます。しかし、こんなに高額な税でも国民がきちんと納めるのには、デンマークの医療福祉制度に理由があります。デンマークでは国の総支出額の四分の一以上が社会福祉関係に当てられているそうです。その為医療費は無料、高齢者には多額の年金が支払われ、更に二十四時間介護体制なども完備されています。なるほど、国民は納得して

税金を納めるわけです。私の祖母は足も悪く高齢なので、こういった制度があるとても安心して暮らせるのではないかと思います。国民が豊かに暮らすための税ならば、もっとこういう使われ方をしてほしいです。

私の母は「たくさん働いても所得税で給料からずいぶん引かれてしまつて困る」と言っていました。そこで私が「その所得税がどういう使われ方をしているか知ってる？」と尋ねると「よく分からない」と答えが返ってきました。所得税が高いと感じるのは、その自分が納めた税がどこでどう役立っているのか知らないからなのではないでしょうか。デンマークの国民は、その高額の税が医療福祉関係に当てられ、きちんと国民のために使われている、というのが分かっているから、納得の上で税を支払っているわけです。私の友達も「税金ってよく分からない。」と言っているし、実際のところ私もよく理解しているわけではありません。そこで私は思いました。どこでどんな風に税が使われているのか、国民に分かりやすく教えてほしい。将来税をたくさん納めていくことになる子供たちに、税の仕組みや納める意味について教えてほしい。何しろ、みんな税について知らないことが多過ぎます。使われている場面を知らなければ、納める意味も分かっていない、私や私の母や友達のような人はたくさんいると思います。納税者が税に対して無知、無関

心であれば、税は正しく納められないし、正しく使われないのではないでしょう。国をつくっていく税のことを、私はもつと今のうちから知っていかなければならない、そう強く感じています。

島原復興と税のかかり

学校法人東明館学園東明館中学校

一年 高見幸希

平成八年六月三日、ぼくは、両親の故郷である島原半島で生まれた。偶然にもこの日は雲仙・普賢岳の噴火終息記念日である。

母の話によると、今から十九年前にそれまで活動を休止していた普賢岳が活動を始め、ぼくが生まれたちょうど五年前のその日に大災害が起こったそうだ。

噴火活動により成長した溶岩ドームが大規模に崩落して、火砕流はふもとの島原市の上木場地区を襲ったのだ。この大火砕流により尊い四十三名の命を奪い、家や田畑だけでなく小学校までも焼きつくした。

さらに地域住民をおびやかす事態が発生した。今度は大雨による土石流。この土石流によりたくさんの家が崩壊し流されたのだ。

この災害により多くの住民が住むと

ころをなくし、また、農作物や海産物にも大きな被害が出たそうだ。

また、この災害により母の実家である有家町と島原市を結ぶ道路や島原鉄道が寸断された。当時高校生だった母の妹は通っていた島原の高校へ行くことができず交通機関が回復するまで近くの公民館などで授業を受けていたという。何と道路が開通するまでは、フェリーで島原まで通っていたそうだ。

十九年たった今では、災害が起こったとは思えないくらい島原は復興している。そこでぼくはどうやって復興していったのかインターネットで調べた。

ハイウェイ道路を思わせる島原深江道路が四年の歳月をかけてできた。これでもた土石流が起こって道路が寸断されたとしても通行ができるそうだ。

また、地域住民が安心して暮らせるように水無川や千本木に砂防ダムを、中尾川流域に治山ダムを建設した。さらに災害地域には、島原を活性化するために復興アリーナや火山体験ミュージアムの雲仙岳災害記念館が建設された。

この復興するためにかかった費用はどうしたのかと考えた。それは国や県や市からの税金で建設されたのだ。ぼくは今まで税金のことなどあまり気にしていなかった。しかし、税金により建設された島原深江道路のおかげで有家町にいる祖父母に自由に会いに行けるのだ。また、ダムのおかげで島原市に住んでいる祖父母が安全に暮ら

していけるのだ。

もしも税金がなかったら、僕たちの暮らしはどうなるのだろうか。救急車に有料に、医療費が全て自己負担に、また、ゴミ収集や交番が有料にと、全ての公共サービスが有料化される。税金がないと教育を受けることもできず、道路も整備されず、全ての公共サービスを受けられない人が出てくるだろう。税金は絶対必要なので、ぼくが大人になって働くようになったら、必ず税金を納めようと思う。もちろん、みんなのために。

税金って？

大村市立西大村中学校

三年 本山由佳

二〇〇九年五月二八日。この日もって全ての国民にお小遣いが与えられた。その名も定額給付金。一人一万二千元、十八歳以下と六十五歳以上には二万円。

定額給付金の話がテレビで報道されるようになってからというもの、友達の間や家族の中でも定額給付金の話が出てくるようになった。友達の間では「給付金で何を买おう?」「私はあれを买うよー」と、喜びの声がある。確かに普通に考えれば、二万円ものお小遣いがいきなりもらえるなんて、こんなに良いことはない。

しかし、私は家族との話の中で知っ

た。これにも税金が使われているという。私に家族は給付金に反対のよう。給付金の配布には大変な手続があるため、そのための人件費がかかるのではない。国にはただでさえ多大な借金があるというのに、この政策によってさらに借金が増えるのではないかと、とのこと。実際、給付金によって目に見えて経済が活性化されたというわけではない。本当にこの政策は日本のためになったのだろうか。

世界でもっとも税金の高いデンマーク。ここでは、教育機関の学費や医療費、福祉機器などが全て無料だそう。しかしこれは、国民が税金を払ってくれないことには成り立たない。国民が高いにも関わらずきちんと税金を納めているのは、それだけの政策を国が行ってくれるからだろう。きつとデンマークでは、国民と政府が互いに信頼し合っているはずだ。

日本でも、今後税金を上げるという話もあがっている。しかし、税金が上がるといえば反対する人も多いだろう。それはきつと、まだ国民が政府を信頼しきれていないからではないだろうか。多大な借金がある上に、無駄遣いをしてる。今国民がかかえている問題や不安はなかなか解決できず、今や国民の不安はどんどん大きくなるばかりである。私達がおじいちゃん、おばあちゃんになった頃には、年金をもらえなくなってしまうかもしれない。国民が信頼できるような政府であればそれ

だけ国民のためになる政策を行ってくれるのであれば、国民は税金が高くなってもきつと気持ち良く払えるのではないだろうか。

税金とは、国民の生活を幸せにするため、豊かにするため、国民を助けるため、そういうお金ではないだろうか。私はそう思っている。国民を幸せにするための税金が国民を苦しめるものであつてはならない。

今、無駄をなくし、本当に何をすべきなのか、税金を何に使うべきなのか、もう一度考える必要があるのではないだろうか。

すべての国民が幸せである日本であつてほしい。

私の願い

玉東町立玉東中学校

三年 福 山 亜衣里

平成二十一年三月三十日午前四時、祖父は長い人生の旅を終え、安らかに天国へと旅立っていきました。祖父は六年前の不慮の事故により、身体の一部を奪われ、またぜん息を患っていた為、突発的に起こる発作と長い間闘っていました。祖父の容体が急変したのは同日の午前三時のこと。頭に驚くような救急車のサイレンと母の慌てた声により起こされて、とても嫌な気がしたことを今でも鮮明に覚えています。

この時祖父を病院まで運んでくれたのが救急車です。救急車は、普段何かが起こったときにすぐ駆けつけてくれるというイメージが私の中でありました。しかし、この救急車は税金があるからこそ動いているし、電話をかけるたびに駆けつけてくれるのです。私達家族の願いも虚しく祖父はこの世を去っていきましたが、税金で動く救急車があつたから、また、税金で購入されている沢山の医療機器があつたからこそ最善の処置を施して下さった為、祖父は生死の境をさまよいながら、一分一秒でも長く大好きなこの世で生きる事ができたと思います。もし税がなくて不便なことだらけの世の中であつたら、救急車も駆けつけてくれなかっただろうし、祖父はどれ程苦しみ、もがきながらこの世を去っていったのでしょうか。そのことを考えると私は胸が痛みます。処置を施して下さった医師の方々はもちろん、救急車、沢山の医療機器の基盤となつている「税」に感謝しています。また、この祖父の死は私の人生に関わる、何か大きな意味を与えてくれたのではないかと心から思います。

以前の私は、「税」という言葉を聞き、何も分からないし、どの様な仕組みかさえも分からない状況でした。しかし、中学校で税について様々なことを学び、また、祖父の死を経験したことをきっかけに、税が私たちにとってどれ程大切で重要な役割を果たしているのかを知ることができました。現在の日本は不況により、税が値上げされる傾向にあります。正直、十五歳の私にはまだ、何パーセントの税が最も望ましいのかや、税の値上げに賛成するべきなのか、または反対するべきなのかなど、詳しくは分かりません。しかし税について関心を深めることは決して無駄なことではないし、むしろ重要なことではないかと思っています。

税により、一人でも多くの人を助け、少しでも生活の中の不便さがなくなるのであれば、今後の未来、全ての国に税があることが当たり前の世の中になることを願います。

また、十五年間の人生を共にし、沢山のことを教えてくれた祖父に感謝しています。

おじいちゃん、ありがとう。

これからの将来を担う私たちにいつでもメールを送り続けて下さい。世界中の人々が元気に、よりよい暮らしを送れますように…。

税のおかげ

都城市立妻ヶ丘中学校

三年 中 西 紗洋美

「今日から税について勉強します。」選択授業の社会の時間、先生が言いました。私は正直、税について勉強して何になるのだらうと思いました。実

際、税について私には邪魔なものというイメージがあつて、むしろないほうがいいのに、というぐらいにしか思っていなかったもので、税について知って何も得しないのじゃないかと思つた。税について勉強することに納得しないまま、税についてのビデオを観ました。そのビデオには税のない世界、私が良いと思つていた世界が描かれていました。でも、全然良い世界ではありませんでした。私たちの「あたり前」があたり前ではなくなつていたので。例えば、警察や消防が出勤するのにお金を払わなくちゃいけない。でこぼこの道路や、ちらかったゴミ捨て場がそのまま、学校へ行けない子どもや、年老いても働く人がたくさんいる。今は考えられない世界がそこにありました。私には遠い国の出来事のように思いました。このとき、私は初めて税がどういうものかを知りました。

税のおかげで世の中が成り立っていて、公園ができたり、高速道路ができたりと豊かになっていくことがわかりました。私が今犬の散歩で通っている公園は、国民みんなの税金によってできている。そう思うと、公園を大切に使わなきゃいけないと思います。ゴミが捨ててあるのを見るとみんなの税金でつくられた公園だから、自分の勝手に汚したらいけないのじゃないか、ゴミを何の考えもなしに捨てる人を少し腹立たしく感じます。今まで何にも思わず、感じなかった私がこうなったの

は、税金がどんなお金なのかを知ったからだと思っています。

そんな税金を私も消費税という形で納めていて、その税金が国のために使われていると知ると、無駄だなんて思わないし、むしろ自分が世の中に役立っているんだと思って嬉しく思います。確かに税率が上がってなんで税金なんか納めなきゃいけないのかわからなくなるけれど、税金の使い道を知ることによって税金の必要さがわかり、税金を納めることへの理解が深まるのではないのかなと思います。

ただ「国民の義務だから」という税金への知識で納めるよりも、税金がどういうためのものなのか、何のために使われているのかを知って税金を納めたほうが、同じ金額でも納める意味があると思います。私はこの選択授業で税について学習することができ、良かったです。

税について学習する前の私のような考えがある人に税がどんなものなのかを知ってほしいと思います。

私たちの暮らしと税

渡嘉敷村立渡嘉敷中学校

三年 新垣聖也

「消費税、所得税、村民税。」

僕たちの暮らしの中には様々な税金があります。中でも真っ先に思い浮か

ぶのは、「消費税。」これは、僕たち子どもも納めている税金です。僕はこれまで買い物をする時、「端数が邪魔だなあ。」などと五パーセントの課税について深く考えたことなどありませんでした。

そのことを両親に話すと、「私たちが安心して暮らせるのも、みんなが、公平に納めている税金のおかげだよ。」と言われ

「どういうことなのだろう。」と疑問に思ったのをきっかけに調べてみることにしました。

平成二十一年度の国の歳入予算は約五十パーセントが税収でまかなわれ、医療費や年金などの社会保障費、生活に必要な公共事業費、また僕たちに関わりのある文教費などに使われていることがわかりました。

そこで僕の住んでいる渡嘉敷村に目を向けてみたところ、同じく約五十パーセントを地方交付税に依存していることを知りました。普段、何と自由な生活をしていて税のありがたさなど感じることはありませんでしたが、今の幸せな暮らしができるのも、国民が「納税の義務」を果たしているからだ初めて実感しました。

ところで「税」という字に別の読み方があるのを知っていますか。それは「ちから」です。税金は地域を活性化させる「ちから」であり、僕たちにとっても勉強など学校生活の「ちか

ら」となります。

そもそも税とは飛鳥時代からあったそうで、「租」という米で支払われる税を、農民は何日もかけて都に運んでいました。その米は「ちからしね（税稲）」と呼ばれていたそうです。そこから「租税」という言葉が生まれたのではないのでしょうか。

そんな風に今も昔も、税金は大事な役割を果たしてきました。だから国民一人一人の「ちから」である税金は、とても大切なものであって、また、決して無駄に使ってはいけないものなのです。

最近、新聞やテレビで毎日のように税金の無駄使いや消費税の増税についての議論が報じられています。また百年に一度の大不況で税金を納められない人が増えているとも聞きます。こういうときだからこそ税の「ちから」に頼り、その「ちから」が子どもからお年寄りまでみんなの生きていく「ちから」になるよう、大切に使うことによって欲しいと思います。

僕が大人になったとき、税金を納めることになりました。そのときは、その税金が、これから様々な人の「ちから」になることを願って納めたいと思います。

財団法人日本税務協会
会長賞 受賞作文

税金が 教えてくれるもの

石狩市立樽川中学校

一年 蔵田和真

「農家って思っているほど楽じゃないんだよ。でもね、税金のおかげで生活が維持されているんだよ。」

私は先日、墓参りのため農家を営む本家を訪ねました。農家には自然がたくさん残っています。本家の祖父、祖母は後継ぎを長男に譲り、水田の他に、趣味で花や果実を作って楽しんでます。北海道の農家はどこも広大な面積で裕福といわれています。私はこれからも日本の食生活を余裕を持って支えていける産業だと思っていたのです。

ところが後を継いだ伯父は、農家の将来について必ずしも良いことばかりではないと語り始めました。将来の担い手がいなくなつてその担い手募集に税金が使われていること。「米あまり」が深刻となる中で、貧困な農家の生活を支えるために、転作奨励金として税金が投入されていること。たとえば、麦、大豆、そば等は十アールあたり一万五千円が、さらに米粉、飼料用米は二万五千円が増額されて支給されるな

ど、追加経済対策に税金が活用される予定であること。農業を支えるために新しい施策が生み出され、税金が有効に使われていることなど、生産する立場である伯父から生の声を聞いたのです。

私は帰宅してから、さらに税金と私達の生活について考えてみました。日本人は古くから勤勉と言われ、生活の工夫と生きる知恵に優れた人種と言われ続けてきました。しかし今では、学校に行けるのに行かなかったり、好き嫌いをして食べ物を平気で残したり捨てたりする人がたくさんいます。今までの私は集中せずに授業中にボーっとしていたり、給食を残したり、私達の学校生活が多くの人々の税金で支えられていることを、深く意識せずにいたと思うのです。私達は、恵まれた環境に生まれ育ったことをもって自覚し、家族ばかりでなく社会に育てられていることに感謝の心を持って生きるべきだと思のです。世界には学校に行きたくても行けない、思うような治療を受けられない、食料も十分に食べることでできないといった貧しい国がたくさんあります。今ではこれらの国に対しても私達の税金で国際貢献や人道支援を行っていることを知りました。私達は、これらとともに、失われつつある日本の生活の工夫と生きる知恵を、世界に広めることができると思うのです。

税金を納めている人は裕福な人ばかり

りではありません。病と闘いながらも税金を納める人もいます。今日を生きるための生活と闘いながら納めてくれた税金を、私達は無駄にしてはいけないと思います。私達の生活を見直し、税金の大切さを学ぶこと。そして、国の新しい生き方を左右するのも税金であるということをも十分に理解し、社会に貢献していける人間に、私はなりたと思います。

税金という大きな盾

由利本荘市立矢島中学校

三年 黒木 未央

私の父は警察官です。警察官を含む公務員の給料は一体、誰が支払っているのか、私はつい最近まで知りませんでした。ある日、学校の授業の一つで、税金教室があり、私は税金について興味を持ちました。「税金は他にどんなものに使われているのだろう」そう思った私は、早速、調べてみました。

税金は私達が通う学校、プール、公立図書館、義務教育の教科書など、とても身近なものに使われていることを知りました。学校で使う教科書は親が払ってくれていると思っていたので、まさか税金で賄われているとは思えませんでした。たくさんさんの思いが詰まった国民のお金を、私達、子供の無限に広がる未来の為に使い、顔も名前

も知らない子供に投資して下さる。私達が落書きばかりしている教科書のお金を支払って下さったのは、生活が厳しい家庭、年金暮らしをしているお年寄りかもしれない。そして、そのお金はなくなしのお金だったかもしれない。そんな想像が思い浮かんだ瞬間、急に自分の教科書が情けなく思えて、「ごめんなさい」と心の中で何度も謝りながら、落書きを消しました。

他にも健康保険・年金・生活保護等の福祉から、私達が何気なく踏み歩いている道路、水害対策の堤防、国定公園などの公共工事、外国からの進攻を防ぐために備えておく経費等の国防費、そして宇宙開発など幅広く使われていることが分かりました。私達が平和に、外国の脅威に怯えずに過ごせるのは税金のおかげだし、インフルエンザにかからないように予防接種を受けることが出来るのも税金のおかげです。知らない間に国民一人一人が、「税金」という大きな盾に守られていたんだと気付きました。今まで税金は邪魔なもの、必要のないものだと思い、「税金がなければもっと買い物が出来るし、有義にお金が使えらるのに」程度にしか思っていなかった私でしたが、その考えが、浅はかなものであったと調べてみてようやく、初めて理解することが出来ました。

もっと税金について知りたい私に母は教えてくれました。それは、『父の給料は税金で支払われている』という

事でした。当時全く知らなかった私は衝撃を受けました。私の家族は税金と納税をしている国民のおかげで生活していくことが出来、私が作文を書いているときに使用している鉛筆や消しゴムも、国民の誰か一人でも納税をしているから買えるのです。税金が無かったら、ノート一冊も鉛筆一本だって買えません。この事実を知り、改めて税金の素晴らしさを感じ、税金を邪魔だと思っていた自分を恥ずかしく感じました。

税金が無い世界は成り立ちません。金持ちばかりが得をする不平等社会になります。国民を守り、支えてくれる税金だからこそ、不透明な使い道を無くしてゆくべきです。そして、税金への印象と使い道を一人一人が見直す事で日本の未来は変わってゆくでしょう。

税金の役割と今後のあり方

古河市立三和北中学校

三年 渡辺 葵

今まで私は、「税金について何か知っていますか。」と尋ねられたら、「私たちの暮らしを支えていくうえで、とても大切なものです。」という答えくらいしかできなかったと思います。毎日のように、テレビや新聞で取り上

げられているのに、あまりにも知らなさすぎではないかと、反省しました。そこで、この作文を書くにあたって、少し調べてみることにしました。

最初に調べてみようと思ったのは、税金がどのような所で使われ、どのような役割を果たしているのかということです。国や都道府県、市区町村では、私たちが健康で豊かな生活を送るために、個人ではできない様々な仕事をしています。例えば、ごみ処理施設や交番や学校、市民病院などの公共サービスや公共施設を提供するためには、多くの費用が必要になります。その費用にみんなの負担した税金が使われているのです。もし税金がなかったら、救急車やごみ収集が有料になったり、医療費がすべて自己負担になったり、公共サービスを受けるのに、すべての費用を自分で負担しなければなりません。これらからもわかるように、私たちが社会で生活していくために、税金は豊かさや、安心を与えてくれる大切なものです。

次に調べたのは、このままの税のあり方に問題点はないのかということです。日本の社会は大きく変化しており、少子・高齢化が進んできています。高齢化は急速に進行しており、二十世紀半ばには、国民の二・五人に一人が六十五歳以上の高齢者という超高齢化社会がやってくると予測されています。同時に少子化が進んだり、若い人たちの中でも働かない人や、正社員でない

フリーターや、パートとして働く人の数が増加してきており、労働力人口が減少してきています。これらの変化は、これからの日本の社会や、税のあり方を考えていくうえでとても重要なことです。今の社会保障制度のまま放置した場合、年金や医療の負担が上昇を続け、将来の世代に大きな負担を残すことになります。

税について調べてみると、決して安心な未来が待っているわけではないということがわかってきました。これからの日本は、少子・高齢化を踏まえながら、豊かで安心な生活を送るためにどうすべきなのかを考えなければなりません。真剣に、一人ひとりが公平な負担と給付の関係について考えることが大切であると感じました。そしてもっと深く税について知りたくなりました。

支え合う社会

柏市立高柳中学校

三年 山崎 優樹

父と祖父の会話が耳にとまった。

「年金生活者には介護保険料の負担は大きいよね。」

と父が心配そうに話す。

「払うのはいいんだよ。世の中の人のために、正しく使われるのであればね。」

と、祖父が答えた。僕は祖父の答えを聞いて高齢になっても納めなければならぬお金がある事や、祖父の納めた介護保険料が、祖父自身のためだけでなく、他の人のためにも使われている事を知り、偉いなと思った。

また、今年の六月頃、母が、「あー、失敗しちゃった。お父さんの会社の書類に、丸を付け忘れたみたい。どうしたらいいのかしら。」と困っていた。理由を聞いてみると、配偶者控除という欄への記入を洩れてしまったらしく、税金も多く払うことになってしまったようだ。帰宅した父に話すと、

「良く気が付いたね。税金が戻ってくるかもしれないぞ。」とニコニコしていた。僕は「やっぱり税金は払いたくない物だよね」と父に聞くと、

「いや、余分に払う必要は無いけれど、払うべきものは払うよ。例えば、お父さんが、病気や不景気などで失業したら、収入が無くなる。税金は発生しないけど、明日食べる物にも困る事になるだろう。だから、納税できることは幸せな事なんだよ。皆でお金を出し合って高齢者や病気の人や、経済的理由で困っている人を支える仕組みになっているんだよ。君達もちゃんと財産の守れる人、税金を払える人にならなくちゃ。」

と言った。後日、母は税務署や市役所で訂正の手続きをしてきた。三週間後、

所得税は還付され、住民税が減額になった。小さなミスから始まった今日の出来事に税が身近なものであることを教えてくれた。

今年、僕の最大の関心は高校受験だ。私立校にするのか、公立校にするのかで、年間の負担額は、百万円近くの違いがある。小中学生の義務教育でも年間同じくらいの金額を税金で負担されている事を知り、本当に助かっているのだなと実感する。

世界では、戦争や、義務教育という仕組が無いために、学校が壊されたり、貧困等で教育を受けられない子供達が沢山いる。教育が無いため、暴力で傷つけられた子はまた暴力で対応し、貧困からも抜け出すことが難しく、そしてまた子へと連鎖してしまう。平和な日本でも、貧困や家庭の事情やいじめ等で、同じ連鎖を起こしてしまう事がある。

教育は当然のように受けられるものでは無い事を肝に銘じ、国の仕組みや両親に感謝したいと思う。

病気になっても怖くない

津幡町立津幡南中学校

二年 松本 みのり

私は、小学校の卒業式を十日後に控えたある寒い日に突然「血管性紫斑病」

という病気で隣の総合病院に入院しました。

絶対安静で歩くことも許されずベッドに横たわる日が約二週間続き、歩行許可をもらい、病院内を歩き回れる日を一週間ほど過ごしました。大きな病院なので、お医者さんや看護師さん、薬剤士やレントゲン技師さんなど、本当に多くの人が働いていてびっくりしました。

そして二十四時間の中で、何台もの救急車が搬送されているのにもびっくりしました。

四月に入り、無事退院できることになりましたが、入院医療費が高いのはびっくりしました。しかし、「心配しなくても大丈夫。」

という母の返事にその理由を聞いて安心しました。

私たちが住んでいる津幡町では、中学生までは、入院にかかる費用は、一ヶ月に千円だけ負担すれば、あとは町が補助として負担して下さるそうです。

それらは、津幡町や石川県や国が集めた税金を法律により国から都道府県へ、さらに市町村へと配分されて、生かされているものなのです。

津幡町では、その他に就学前の子供に対して通院費の助成やチャイルドシート購入時の補助金、児童手当など、子供に関する補助制度がたくさんあるようです。

どのようにしてその補助金が確保されているのかというと、大人が納めて

いる所得税や酒税、たばこ税に消費税、持ち家にかかる固定資産税などに予算をたてて配分し、私の日常生活の中で様々などころに使われているのです。

みなさんの納めてくださる税金により私も十分な治療を受け、費用の心配もせずに入院することが出来たのです。

また、急病に対応する救急隊、事件や事故から守って下さる警察官、その他の福祉や医療などは国民が平等に安心して暮らすために確実に営まなければなりません。

その代わりに私たちは、自分たちを守って下さる人々みなさんに税金を納めることによって、今の社会が成り立っているのです。

私は病気という体験をすることにより、税によって助けられたことを知り、自分もしっかり税を納め困っている人々を助けたいと思います。

そして何気なく生きている中で私たちはさまざまな形で集められた税金により、安心して生活できているのだと思います。

これからはもっと税について詳しく知り、大切な税を大事に使っていこうと思います。

税について知ると

名古屋市立山田東中学校

三年 小 鹿 夢 帆

最近、消費税が増税されるというニュースをよく見るようになった。ほとんどの人が批判しているが、果たしてそれほど批判する必要があるのか。正直、私は税金のことについてよく分からない。けれど、いろいろある税金の中でも消費税は私の生活の中で一番身近なものだ。それに、国の義務といえば、勤労、教育、納税の三つであって、日本に住んでいる以上、絶対に知っておかなければいけない大切なことだ。だから、税金なんて知らないということはあつてはならないし、簡単に批判して良いことではないと思う。

調べてみると、現在の消費税5%は外国に比べれば低い。スウェーデンでは25%もある代わりに、高齢者の環境が充実している。日本で考えると25%の消費税はまず考えられないと思う。けれど、スウェーデンに住む人たちにとっては普通な事で、消費税が高すぎると批判する人はほとんどいない。それは、高齢者の環境が充実していることや、自分の納めた税で国の環境が守られ、自分の将来も安心できるものになっているということを国民一人一人が知っているからだろう。

日本では納税を負担だと考え、でき

るだけ負担を減らしてほしいと考えている人が圧倒的に多い。だが、老後の安定した生活や健康で文化的な社会を実現するために必要な費用を負担するのはあたり前であって、今大切なことは、少子化の進む未来のためにどれだけ公平な税負担が必要かを考えることだと思う。

資料では、二〇〇〇年では高齢者一人を働く人約四人で支えていたが、二〇五五年には高齢者一人を働く人約一人で支えていくことになる。

こうして見ると、将来私たちが大人になるころには、今よりもさらにたくさん税負担が必要になると考えられる。だから、その時になって税金のことで騒ぐことのないよう、今から未来への貯金しておくべきだ。現在、消費税により集まっている歳入は、^{11.4}約10億円。もし消費税がなくなれば物は安くなるけれど、消費税により支えられている社会保障が不安定になり、私たちの未来に影響がおよぶだろう。

今後、私たちは高齢者の方々を支える番になる。けれど、いつかは私たちも支えてもらう番が来るはずだ。その事を忘れず、少子高齢化という問題から逃げずに、立ち向かっていくことが大切だと思う。そして、私たちがもっと税について知ろうとするべきだ。税金のことをよく知らないまま、ただ言われたことを批判するのでは無関心すぎる。私も、まだ知らないことがたくさんあるはずだ。「税」という一文字

を他人事のように考えるのではなく、自分の人生に関わる大切なことであると自覚し関心をもつべきだと思った。

税の行方

京都市立音羽中学校

三年 深澤 哲也

この間、ラジオで二人のアメリカ人が、おもしろい話をしていた。もちろん日本語で、だが。

―車で、ニューヨークからコネティカット州に入ると、眠っていてもわかる。いきなり道が、スムーズになるからさ。そりゃコネティカット州には、高額納税者が多いものね。―

本当かな、と試しに調べてみたら、コネティカット州には、全米で最も豊かな人々が住んでいて、一人当たりの年間所得は第一位だと出ていた。もっとも税政策が日本などとは違い、所得税より消費税や法人税に重点が置かれているらしいが。

その後、高級住宅地として有名な、ビバリーヒルズの話になって、―そこなど、道路はまるで『金』で舗装されているようだ。やっぱり、税収入が大きいからね。―といった具合だった。

『金舗装』とまではいかなくても、こんな風にして人々が、税の恩恵を肌で感じ取れるのは良いことだと思う。

というのも、例えば僕達は、買い物の際、五パーセントの消費税を払うことは意識していても、それがどこへ行って、自分達の生活の中でどのような活かされるのかについては、無頓着な気がするからだ。いや、というよりも、その行方は非常に見えにくいのである。

ところで、僕の近くの大津市では、琵琶湖沿い四・八キロに渡って「なぎさ公園」が完成し、人々の憩いの場となっている。総工費一三五億円と聞いたが、そこにはたくさん税金がつぎ込まれたことだろう。それなのに、公園に行くとき、建物に落書きがされ、ゴミの散乱が目立つ。自分達が納めた税金が形を変えたものだと考えれば、利用の仕方も変わってくるはずである。

そこでこの際、税によって賄われたものには全て、それとわかる表示をしてはどうだろうか。高速道路に「この道はガソリン税によってつくられました。」という看板を見かけるように。そうすれば、きつと身の回りは、その表示であふれることだろう。もちろん、学校の机にも、椅子にも、そしてチヨーク一本一本にさえも、その表示が付くはずだ。

そうしたことは現実的には不可能だとしても、社会の中で、税がどのようなにいきているのかを具体的に知り、実感できることは、税を理解する早道だろう。税についての情報が、もっと与えられる必要があるのは確かだ、それ

も小、中学生くらいの早い時期が良い。子供の時に税についての正しい知識を身につければ、納税の義務をしっかりと果たす大人になれるはずだし、国や自治体の税の使い方にも、常に関心を寄せる納税者であり続けるに違いない。

税を知って、思うこと

宇部学園慶進中学校

三年 鋤崎 有里

私の学校では、毎年二月にディベート大会が開かれる。学年で三つのテーマを決め、それぞれ肯定側と否定側に分かれて戦う。保護者も参観することができ、三学期の一大イベントとなっている。

昨年度のディベート大会。私は『消費税を十パーセントに引き上げるべきである』という論題の肯定側として戦った。国債の問題や少子高齢社会、当時話題だった定額給付金のことを取り上げて論じた。

消費税率の問題はさておき、私はそのディベートを通じて、それまでは難しそうに感じて近寄らなかつた税金のこと、使い道や役割を知ることができ、私たち中学生の生活にも、税金が深く関わっていることを感じた。分かったことを二つ上げようと思う。

一つ目は、税金が国の歳入の過半数を占めているということだ。つまり、

税金が国を動かしているのであって、私が払う消費税も、その立派な一員だということになる。文具や本から、友達の誕生日プレゼントまで、私が日頃買うものの代金の一部が、わずかでも国の運営に関わっているのだ。税金たちはとても偉大な存在だった。

また、最近では税金で支給されない高校の教科書も使うようになり、そのありがたみも痛感しているところだ。

二つ目は、北欧の税に関する制度についてだ。北欧の国々は消費税が高いが、『ゆりかごから墓場まで』という言葉があるように、福祉が充実していることで有名だ。調べていくと、私はフィンランドの資料を手に入れることができた。

フィンランドは、消費税率二十二パーセントと非常に高くなっている。だが、高齢者ケアの制度などがとても良く整えられている。フィンランドは高齢化が進んでおり、そのスピードはEU諸国の中で最も速いそうだ。少子高齢社会の日本も、どこか見習うべき部分があるのかもしれないと思った。

また、私にとっても非常に魅力的なことを知った。なんと、フィンランドでは教育費が小学校から大学まで無料なのだ。それに対し日本では、一人の子供が大学を出るまでに、六百万円から一千万円もの教育費がかかるといわれている。フィンランドの教育事情については、もっと詳しく調べてみたい。他に、社会福祉や保健サービスも無料

またはかなり低い料金に設定されている。

私はデイベートのおかげで、これらの知識を得ることができた。そこで思うのは、知ることが大切だということである。今、日本は不況の中にある。こんな時だからこそ、税のことを知って、考え、効率的に利用する必要があると思う。税を払っている者として、日本のことを考える責任が私たち一人ひとりにあるはずだ。

税が支える 豊かな暮らし

阿波市立阿波中学校

三年 北浦 万澄

昨年の春に、私は生まれて初めて救急車に乗るという体験をしました。病院で落ち着いた時、両親から、自分が救急車で運ばれたということを聞かされ、驚きました。そして、母が、

「救急車に来てもらえて良かった。そうでないと、家族だけでは動揺して病院まで来られなかったのに。」

と、言ったのです。それまで、私は救急車がない社会を想像することもありませんでした。その後、父から、救急車の運営には、税金が使われていると聞きました。そして、この体験は、私が税金を身近に感じるきっかけとなりました。それだけではなく、ゴミの回

収や処理、道路の整備、小中学校での教科書の購入など、日常生活のあらゆる場面で税金が使われているそうです。

以前は、税金と聞いて一番先に思い浮かぶのは、「消費税」という言葉でした。私達は何か物を買う時には、必ず消費税を納めています。消費税も税金の一つですが、他にも、市町村民税、固定資産税、所得税、法人税など、さまざまな形の税があります。そして、どの税金も、国や地方公共団体に預けられ、議会での予算決定を経て、公共事業や、公共サービスとして私達の暮らしに役立てられているのです。

公民の授業で、税金のことを学習した時、「納税の義務」は国民の三大義務であると学習しました。よく、税金のことを「払わされている」という人がいますが、確かに私も買い物をする時など、

「どうして消費税を払わないといけないんだろう。」

と思ったことがあります。しかし、私達が安心して文化的な生活を送るためには、警察、消防、教育、科学振興、保健衛生などの公共的なサービスが必要不可欠です。その維持や運営には税はなくてはならないものです。税金がないと、道路整備もできず、ゴミ処理もできないので生活環境は今よりもずっと悪いものになってしまうでしょう。また、教科書にもお金がかかり、学校の設備も整えられないので、私達全員が公平に教育を受けるということ

まで保障されなくなるでしょう。そう考えると、税のある社会は、私達を豊かで、幸せにしてくれているのだと分かりました。

税金は「払わされている」のではなく、自分達の生活を潤すために会員として出し合う「会費」なのです。一人一人が、会費をきちんと納めることで、豊かな生活としてまた私達に戻ってくるのです。このサイクルが大きくなるにつれ、私達の生活も豊かでもっとよいものになっていくと思うのです。税金のことを知って、毎日元気に生活し、中学校で勉強できるという日常のことが、とてもすてきに思えてきました。私も将来、税の制度をきちんと理解し、納税の義務を果たして社会を支えていける一人になりたいです。

税金パズル

筑紫野市立筑紫野中学校

三年 日下部 好芽

「税金」と私の出会いは、小学一年生のときだった。初めての遠足のお菓子を、駄菓子屋に買いに行ったときだ。学校で習ったばかりのたし算で、二百円以内になるように一生懸命に計算をした。そして、百九十八円分お菓子を運び、自信満々に二百円を店の人に渡した。しかし、店の人は申し訳なさそうに「ごめんね。消費税の分が足りな

いのよ。二百円じゃ買えないわね。」と言った。私は困惑した。なぜ、余計に消費税というものを払わなければならないのか。理解ができなかった。焦りと恥ずかしさで、その場に座り込んで大泣きしてしまった。

あれから八年がたった。家庭や学校で税について、たくさん学んだ。店で買物をし、消費税を支払うことで、納税者としての自覚を感じるようになった。私たちの生活や安全を守るために、税金が使われていることを知った時は、感動した。自分が普段当たり前だと思っていたものに、税金が使われていると知った衝撃はとても大きかった。

また、夜道をいつも照らしてくれる街灯も、税金でできているのだから、感謝せずにはいられない。道の点字ブロックや、車いす用のスロープを見ると、バリアフリー社会を目指して、税金が使われていると考えると頼もしさを感じる。私は税金に対して、身近な友人のように親しみをもって考えている。

しかし、年金問題や税金の無駄使いが連日報道されている。私は耳にすると心が痛む。納税は素晴らしい義務だが、このような報道があると、イメージが悪くなってしまふからだ。だからこそ、国民の信頼をより得るために、公正な税の使い方をしてほしいと思う。もし、税金を例えるとするなら、それはパズルだと思う。一つ一つのピース

身近なところから

読谷村立読谷中学校

三年 知花 あかね

「はい、今月分のお小遣いね。大事に使ってよ。」

私は、小学校一年生の頃からずっと、お小遣いを貰い、お小遣い帳を付けています。我が家のお小遣い制度は、一ヶ月に一度お小遣いを貰う権利があり、それによって、お小遣い帳を付ける義務、また食後の皿洗いや洗濯物たたみ、ペットの世話等という家事での自分の仕事分担については責任を持って行うという義務が生じます。そして一ヶ月間、この義務をしっかりと果たせていれば、翌月もお小遣いを貰う事が出来るというものです。

大きくなるにつれて、お小遣いの金額は上がっていき、使い道も変わってきています。小さい時は、欲しい物があると、よく考えもせずにすぐ買ってしまっていました。が、だんだん、「本当に欲しい物はどれなのか」、「今買うべきなのか」、等と考えながら買い物出来るようになっていきます。また、家族でカラオケに行った時には、食事代は母が払い、部屋代は姉妹で割り勘する事になっていますし、旅行に行った時でも、自分が遊園地などで遊ぶお金や買い物代は、貯金から自分で出します。何故子供なのに自分で出さない

向かう。今日も太陽がまぶしい。すっかりと舗装された道路の上を歩く。友達と「今日何の授業があったっけ」などと話しながら、赤信号で止まる。青のランプがついてから小走りでも横断歩道を渡る。同じ制服を着た生徒がたくさん目に入る。

学校へ着く。玄関で先生に挨拶をして、靴をスリッパに履き換える。四階の教室までの階段を、息を切らしながら上る。教室に入り、自分の席に着き、カバンから分厚い教科書を引っ張り出す。ほっと一息。

今日も学校での一日が始まる。

最後に、もしも過去に戻れるとしたならば、私はきっと、「小学一年生の私」に語りかけるだろう。大泣きして店の人を困らせている「私」に優しく力強く。「今はまだ分からなくても大丈夫だよ。生きていく中で、たくさん学んでいくから。でも、大人になったら、消費税のほかにも色々な種類の税を納めなければならいよ。自分のために、みんなのために、私たちの未来のためにね。」

税と私と暮らし

日出町立日出中学校

三年 中村 友佳

「行つて来ます。」

そう言つて家を出る。一緒に学校に通っている友達との待ち合わせ場所に

たら病院にも行く。住んでいる地域の安全は警察・消防が守ってくれる。蛇口をひねればおいしい水が飲める。部活帰りの暗い道は、街頭が明るく照らしてくれる……。私たちの身の回りには、多くの税で成り立っているものがあるが、私は今までそれを意識したことがなかった。でも、税と私の生活がどんなふうに関係しているのか、そもそも税とは何なのか。次々と疑問が浮かんできたので調べてみた。

私たちは国や地方公共団体から多くの公共サービスを受けている。例えば警察や消防、福祉、教育、老人介護などのサービスにより、安全で健康的な生活ができています。また、道路建設や上下水道、防災環境の整備といった公共事業により、快適に暮らせています。つまり税とは、国や地方団体が公共

サービスを提供するのに必要な経費を、私たちに負担を求めるものだと国が存在する上で欠くことのできないもの、私たちがよりよい生活を送るためになくてはならないもの。それが税だ。

私は今まで「税なんて関係ない」と思っていた。しかし、税について調べてみて、私たちの暮らしと税は、とても深いつながりがあるのだとわかった。たくさん種類の税は、たくさん分野で人々の役に立ち、多くの笑顔を作り出しているのだと思う。

そう考えていくと、家から学校までのアスファルトの道も、青いランプが待ち遠しい信号機も、四階までの階段も、分厚い教科書も、学校で仲間とともに過ごす時間も、全て、大切にしたいと思えた。

もし、今までの私のように、自分の生活と税は関係ないと思っている人がいれば、伝えたい。税があるから、安全で、健康的で、快適な暮らしができるのだ、と。

「行つて来ます。」

今日も学校での一日が始まる。楽しい。今日は何の授業があっただろうか。

といけないのかと、度々疑問に感じていました。しかし、これが我が家という小さな社会のお金のシステムであり、社会での納税や分担金などのルールのミニバージョンであるからだと思えてきました。又、クラスや部活で必要な物を買う時には、領収書を貰ってくる、部活などで預かったお金と自分のお金を一緒に財布に入れない、等という当たり前の事を当たり前に出来る大人になる為の訓練なのです。

このお小遣い制度で勉強してきたお陰で、私は決められた金額の中でどのような使い方をしたら一番良いのかが分かってきたと思います。そしてこれは、国でも同じ事なんだと最近思うようになりました。今、この国に必要なのは福祉なのか、教育なのか、医療なのか、それとも道路なのかを考え、集められた税金の中で上手く用途の配分をしなければならぬからです。

今、私達の中学校では、新校舎建設の予定が立っています。何故かという、現在の校舎が老朽化して、このままでは安心して勉強することが出来ないからです。残念ながら、私達は新校舎で過ごすことは出来ませんが、私達の両親が義務として払ってくれている税金が新校舎建築の為に使われ、もしかすると私達の子供が通うかもしれない新校舎なんだと考えると、一番身近な税金の使われ方だと認識しました。後数年で私達も税金を支払う側に立つと思いますが、義務としての納税と

それによって享受できる権利との関係をつくり考えてみようと思います。

財団法人大蔵財務協会 理事長賞 受賞作文

伝えよう、 税の大切さ

千歳市立青葉中学校

三年 藤田 栞奈

今年の夏は日本各地、異常気象で沢山の人が犠牲になりました。目を背けたいニュースが流れるたびに悲しい気持ちになりました。

私は夏休みの課題の税の作文について、色々模索している中、この辛い出来事により、税の大切さを知る事になりました。それは、誰が被災者を援助するのか、費用はどうするのかと沢山の疑問が頭の中によぎる中、解ってきたのが国民の皆さんが納めている税金が国の財源となり、様々な用途に使われて行く事だと知りました。勿論今回の様に被災地、被災者を救済する為にもです。個人の力では不可能であっても、皆が力を合わせれば互いに助け合う事が出来るのです。税金は私達の暮らしを守り、より良い社会を作る為の大黒柱だと、私は思いました。

以前、心に残る出来事がありました。

祖父は、70歳過ぎです。戦後何も無い時代から今を築いてきた国民の一人です。ある日、初対面の若い男性に話す会話の中で、祖父が、

「あなた方が納めてくれる税金に支えられて暮らせる私達高齢者は幸せだ。まだまだこれから必要とされる物があがりながら、貴重な予算を、本当であれば厳しい世の中を一生懸命に、家族を養っているあなた達が、安定した暮らしをしていける為に、使われて欲しいと思ってるのだけど、本当にすまないね、ありがとう。」

と…。するとその方は、
「今を築いて僕らを育てて下さったじゃないですか。こちらこそありがとうございます。僕は皆さんの言葉を聞いて、また明日から仕事を頑張れる力を貰いました。僕もありがとう、と言える様に歳を重ねて行きます。」

と楽しそうに話し込む姿を見て、とても感動した事を、今ふと思い出し、私も後に続いて行くからねと、心に誓いました。そして同時に、もっと税について理解し、これから私達が安定した社会を作る為にも税を無駄にする事がない様にしなければいけないと思います。

我が家では、節約の為に節電、節水、物を大切に使うエコノミー対策をしています。今の私達に出来る事は、学校へ行き何気なく使っているイスや机、教材類も、大切に使い、節電や節水が心がける事によって、税金の無駄づか

いがなくなると思います。それが全国に何千校とある学校となると、大変大きな金額になります。そうすれば、また違った使い道が開けてくると思います。

納税者の方々に感謝をしながら、税金のエコノミー対策をしていきませんか？

未来のために…。

税金の使われ方

栗原市立若柳中学校

三年 菊地 晴香

私は、今年中学三年生に進級しました。その四月の最初の授業で、高校では教科書を購入しなければいけないという話を聞きました。小学校から今まで、教科書を購入していなかったことに気づきました。義務教育という権利の下で、あたり前のように教科書が配布され、使用していました。

以前、テレビでカンボジアやバングラディッシュなどの貧しい国では、教科書が配布されることもなく、代々受け継がれたボロボロの教科書を使って学んでいる子供達がいるというのを見ました。貧しくて学校にさえ行くことができない子供達も多いと聞きます。私は、その時日本が恵まれているということ、義務教育の水準の高さに驚きました。

日本では、みんなが平等に教育を受けることができる機会が与えられています。なぜ、そのようなことができるのかを考えてみました。税金という、他の人々に支えられて、みんなが平等に教育を受けることができるのです。教育だけではありません。安全な生活を送るための警察や消防、健康な生活を送るための病院や保健所、ゴミ処理その他にも国道や県道などの道路を支えているのも税金のおかげです。

日本の医療制度、技術は進んでいて、けがや病気になってしまっても、すぐに病院に行って治療ができます。けがや病気になってしまったら、あたり前のように病院に行って治療をしてもらっています。しかし、貧しい国々や発展途上国では、医療制度が整っておらず、けがや病気になってしまっても、十分な治療を受けられず、そのままた命を落としてしまう人達も多いと聞きました。日本では、みんなが平等に治療を受けられるため、健康な生活を毎日送ることができます。このことを考えると、日本はとても恵まれています。税金は必要だと改めて思いました。これまで私は、税金といっても消費税しか身近に感じることはありませんでした。それから、税金はどのように使われているのかよく知りませんでした。買い物をする時も消費税をはらうと損した気持ちになった時もあり、「税金なんかなくないのいいのに」と思っていました。しかし、税金のおかげで

たくさんの人々に支えられて、教育を受けている事や安全な生活を送れていることに気が付きました。

私も将来、この社会を支え合う一員として、ちゃんと税金を納められるようになりたいし税金のあり方について考えていきたいです。

私の暮らしと税

桜川市立岩瀬西中学校

一年 荒木沙綾

今年の四月、私は中学生になった。制服にカバン、自転車、ヘルメットなど、中学校で必要なものを新しく買ってもらい、喜びと新しい生活への期待で胸がいっぱいだった。入学式の後、教室で教科書が配られた。机の上に山積みになった教科書を見て、勉強が大変そうだなと少しうんざりした。

小学生の時も、進級するたびに、学校で新しい教科書が配られた。今まで、それをあたりまえのことだと思っていたが、調べてみると、私が学校に通って勉強するためには、たくさん税金が使われていることが分かった。

私のように、公立の中学校に通っている生徒一人あたりの一年間の教育費は、教科書の他、パソコンや実験用具、体育用具などを合わせて、約九十五万円もかかることが分かり、とても驚いた。また、その他にも、先生の給料や

給食費、新しい校舎を作る費用など、これらすべてに税金が使われていることが分かった。

私の中学校は、夏休みに耐震工事が行われ、きれいで安全な校舎に生まれ変わるそうだ。二期からきれいな校舎になるのを、みんな今から楽しみにしている。その工事には、約三億円の費用がかかるそうだが、それもすべて税金でまかなわれるということが分かった。

以前テレビで、学校に行けない、発展途上国の子どもたちが出てくる番組を見た。病気の母親に変わって、妹や弟の面倒を見ながら、働いている少女がいた。その子は、母親が働いていた時に、少しかだけ学校に行っていたことがあって、また学校に行きたいと話していた。少女が、学校に行っていた時に使っていたという、ボロボロになった教科書を大切に開いていた姿がとても印象的だった。

私は毎日、あたりまえのように学校に通い勉強をして、それがあたりまえすぎて、教科書の多さや、予習復習に追われる生活に不満を言ったりしていたが、そのあたりまえのことが本当にありがたいことなんだと心の底から思った。税金という制度があり、税金を払ってくれる人たちが、それを適正に管理してくれる人たちがいるおかげで、毎日学校に通え勉強できるんだということが分かり、そのことに感謝するとともに、その恩にむくいるためにも、

これから一生懸命勉強しようと思った。今、私たちが健康で豊かな生活を送るためには、さまざまな税が必要で、税金なしでは、今のような生活を送ることができないということが分かった。

税金によって、豊かな生活を送れていることに感謝したい。そして、将来は、今よりもっと住みやすい、豊かな世界になることを願い、世界中で税の制度が整い、全ての子どもたちが学校に通えるように、これから、自分に何ができるか考えていきたいと思う。

税への感謝

日光市立東中学校

三年 福田和暉

僕の家では僕が生まれる前から、営業です。三月になると毎年母が、「また今年も納税をしなくてはならないな。」と口癖になっていました。小学生の頃は、納税に関する知識は全くありませんでした。商売をしていると売り上げの金額により、納税額が決まり、国のために役立たせるお金と知ったのはつい最近のことでした。

僕は、高齢者の医療費を国でかなりの額を負担してくれていることも母から聞きました。

僕の祖父は去年、他界してしまいましたが七年間の闘病生活を家族で支えてきました。車いす生活になってしま

い家では設備が不十分なため、やむをえず、老人ホームにお世話になっていました。僕は老人ホームへの不満はたくさんありました。それは、三ヶ月という期間を過ぎると別の施設に移転しなければならぬことです。僕はもう慣れた施設に、病気が回復するまでおいてもらえないのか、今でも疑問が残るばかりです。でも、医療費の負担は、僕達家族にとり、個人負担が低額だったことを改めて知り、今では老人ホームへの不満から、国への感謝の気持ちに変わりました。

納税をすることは、高齢者が増加する今の時代、当然の義務だと思います。誰もがいずれば迎えないかならない老後を、一人一人の力を合わせ、守っていかなければなりません。

老人ホームの施設内のことや医療費の国の負担など母から聞いたので僕は始めて知ることができました。でも、税に関することを全て、誰もがわかっていない事なので税に対する理解をもう少し明確にし、税金がどんな所で、どのように、有効に使われているのか、僕達中学生や、幅広い年代に分かるように、公表すれば、もっと身近なものになるのではないのでしょうか。

日光の町づくりのために、道路は整備され公共施設など様々な所で「税金」が使われています。プールや動物園などでも、低料金や無料サービスの所も増えてきました。僕の妹は、小学二年生なので、身近な遊戯場に国の税

金が利用されているということを、教えてあげようと思います。

僕達一人一人が日本を守って行かなければならないと思います。安全で快適な暮らしができるように、単に義務として、税金を納めるのではなく、納税者として、仕組や、使い道を十分に知り笑顔で生活できる町づくりそして国づくりを心がけていきたいと思っています。

安心を支える税制度

太田市立尾島中学校

三年 戸 谷 佳奈枝

今回の学習を通して、私が今日買ってきた物にも消費税がかかっている、わずかだけれど私も納税しているんだということ学びました。

消費税は、ニュース等でよく耳にする言葉ですが、普段はことさら納めているという感覚が持ちにくい税金です。以前は制度そのものがなかったのに、三%から五%、そして将来はもっと上がるだろうと言われていました。商品プラスα、改正されると、きつとおこずかいにもひびいてくるでしょう。だから目の前の事だけを考えると損してしまいう気持ちになるのかもしれない。

でも私は、今この制度はなくてはならないものだと思います。国や地域を一つの家計にたとえたら、家族が生活

していくのをみんなで見え合う。そして幸せになる為に一人一人が自分のできることをがんばっていく。当たり前の事なのに何故「税金」というマイナスのイメージが強いのでしょうか。

それはきっと、税金のしくみ、何より税金を通して受けている様々な恩恵を、私を含めて多くの人が認識する機会が少ないからではないでしょうか。道路や公共施設をつくるのにどんなお金持ちでも一人の力には限界があります。日々の生活の中で「あつて当然」というとらえ方は、今、考え直す事が必要だと思います。

私は今、働いていないので支えてもらっている事の方が多い立場ですが、社会人になったら、与えられる事ばかり願うのではなく、責任を果たせる納税者の一人になりたいです。

今、不景気で未納・滞納の課題は深刻なのかもしれません。でも、そんな時こそ「相互扶助」日本の社会保障の根幹を築いてきた精神を、しっかりと根づかせていくべきだと思います。

その為には、まず知るところ事の第一歩が大切だと思いました。とはいっても、なかなか身近には話題になりづらいのが現状です。税に関する資料は私にとって、大きな一歩となりました。税金、医療や年金等、これまでいろんな人の努力で実現してきた様々な社会保障が決して他人事ではなく、私達の生活や未来にも、直接かわってくる事。義務を果たさなければ、時には当

然の権利も主張できなくて困ってしまいう事等。もっと普段の生活の中で大人も子供も関心を持つべきではないでしょうか。

義務教育を卒業する私達が尚一層、意識を高めて「日本の未来は安心だね」と言ってもらえるよう、これから学び、行動していきたいです。

税とモラル

加須市立昭和中学校

三年 山 崎 圭 哉

「あなたは救急車の一回の出動にくらかかっているか知っていますか？」

という問いがテレビから聞えてきた。「多分、千円くらいだろ…。」と僕は思った。聞いて、驚いた。実は一回の救急車の出動には四万五千円の税金が使われているそう。しかし本来、救急車に乗る必要のない軽症患者が68%を占めている。これを救急車の「タクシー利用」や「コンビニ利用」というそう。

そんな中、救急車の有料化が現在、議論されているようだ。平成18年度の大阪府で二千例の重症患者の対応の遅れがあったという。「寂しいから話し相手がほしい」という理由で救急車を呼ぶ人もいられるらしい。こんな僕達が…驚きの気持ちがかみ上げてきた。僕

は本来の目的から考えると救急車の利用は無償が当たり前だと思う。しかし、テレビのアンケート調査では有料化に賛成する人が七割もいた。僕にとって意外な結果だった。それほど現状が深刻なのだと感じた。

税金とは何か。僕は社会科で「公共性の高いものに対して投じる国や地方の財源」と学んだ。この公共性というもののとらえ方が個々で異なるようだが、公共性という言葉から公園整備や道路整備への利用に前向きな人もいれば、「税金を払うからには自分のために使わなければ損」という考え方をする人もいる。今の税金利用については、政治家たちだけで意見を言って、政治家たちだけで決めているような気がする。使用目的やその結果に対して、国や政治家たちは、もっと税金を払っている僕たち「国民」の意見も聞いてほしい。

救急車のタクシー利用もそうだが、本来の税の使用目的と照らし合わせる機会や場がないことも問題だ。冒頭の救急車の問題の例では本来に必要な人に対しての利用は、社会全体で守る意味でも納得できる。今健康な僕たちもいざ病気になった時には無償であつたほうが安心だ。しかし、病気でない人がタクシーとして救急車を利用するのは、僕は納得できない。つまり、税金がみんなの納得する方法で使われているかどうかをチェックし、報告するシステムを国民が作ることが重要だと思う。救急車の例も単に無料・有料ではなく、

目的にあつた利用であつたかどうかを判断し、正しい利用でなかった場合、有料にするようなシステムを作ってはどうか。

最近、救急車のタクシー利用以外にも納税や各種保険料、病院窓口などでの不払いが増えてきているようだ。税金やその他の支払いを「払いたくない自分一人くらい払わなくても大丈夫。救急車や病院はなくなるなら」と考えているのだと思う。

税は多くの人を守り、育てるものだと僕は思う。だからこそ、払う時も使う時も、ひとりひとりがモラルを大事にしなければならないと思う。

変身！ 税がくらしを変える

学校法人本庄東高等学校附属

中学校

三年 齊 木 あきら

今年の夏は政治が熱い。八月末の衆院選に向けて、各党のマニフェストが出揃った。各党とも、行政・政治改革や子育て・教育、年金・医療などにおいて、それぞれの考えを表している。そのマニフェストの木幹となるのが税である。つまり、私たちが払う税金が国の予算を支える財源となっているのである。

税は、私たちの身近でいろいろな形で使われている。

で使われている。

先日の日曜日、祖母の体調が悪くなり、病院の救急外来を受診した。心電図をとったり血液検査をしたりして特に異常はないと言われ、家族みなほっとしたのだが、その時病院に払ったのが千円を切る金額だった。いっしょに行った母は、

「あれだけ検査をしてもらって、これだけの支払いですむなんて、びっくりしたよ。ありがたいね。」と、驚いて言った。

確かに我が家のことを考えると、税は様々なところで形を変えて、くらしに反映されていることに気づく。

八十才を越える祖父や祖母は、後期高齢者医療制度に加入している。特に介護施設に入所している祖父は、家計の大きな負担になっているとよく母が言うが、この医療制度があるから我が家の家計で何とか遣り繰りがつくのだろう。私自身に関して言えば、小学校の時は教科書が無償でいただいた。父や母にしても、高速道路の料金が安くなったと喜んでいた。

また最近では、エコカーに対する減税や補助金のニュースが話題にのぼっている。税が環境を支えているよい例である。さらに、税は宇宙へも私たちの夢を広げてくれる。国際宇宙ステーション（ISS）で、さいたま市出身の若田光一さんが日本人初の長期滞在に成功した。ISSは、世界の人々にとって大きなプロジェクトである。日

本は「きぼう」という実験棟に対して、六千億円という国費つまり税を投入しているという新聞記事を読んだことがある。そして、これからも「きぼう」の運用のためには、毎年四百億円がかかるそうだ。大きな額の税だが、宇宙開発の過程で生み出された新技術は、太陽光発電やＣＴＳキャンなど、くらしの隅隅まで生かされていることを知った。

私たちが払った税は、なんて大きな変身をするのだろう。私が使っていた一冊の教科書から宇宙ステーションの実験棟まで、様々な形を変えてくらしを豊かにしてくれる。みんなが分担して出し合った税、一人一人では達成できないことを、実らせてくれる強力なパワーをもっている。そのパワーを私たちが効果的に使うことで、税はさらに大きな変身をしていくはずだ。くらしを支える税、私たちはそれを正しく効果的に使う方法を常に考えていく必要がある。

税が繋ぐ支え合う心

学校法人市川学園市川中学校

三年 中 川 秀 平

中学三年の夏休み、僕は部活動に全力を注ぐ日々を過ごしていた。練習のため駅へ向かうと、早朝にもかかわらず駅前ロータリーでは、衆議員総選挙

に伴い激しい選挙戦が繰り広げられている。街頭演説に耳を傾ければ、『税』という言葉を目に何度も耳にする。

思えば僕は、義務教育の中で、税の恩恵をもう何年も受けて来た。この機会に『税』について聞き流すことなく、しっかりと向き合い考えてみようと思う。誕生から一年程たつ頃からまず予防接種などで社会保障費のお世話になる。図書館などの公共施設は、幼児期に通う大切な場所だったことも忘れてはならない。程無く、小学校に入ると、こ

こからは主に教育費が僕達の支援をしてくれる。義務教育の期間中に児童一人あたり七百八十六万円もの税金が使われる。あたり前のように手にしていた真新しい教科書の代金が国の歳出の約四パーセントにあたることから、教育に当てられる税金の負担額の高さが伺い知れる。千葉県においては、県全体の歳出総額の二十一％が中学校を運営するために使われていることを知り驚きとともに感謝の気持ちを持った。また、部活動の大会などが行われる競技場や野球場など環境整備にも税金が役立てられ、治安を守る警察や消防も税金なくしては成り立たない。税との関わりは直接支払う機会のある消費税くらいというこれまでの考えは一掃された。

「納税」は国民の三大義務の一つといわれるが、社会生活に必要なものが整備され、安全で健康な環境を維持するためのものであるならば、快く税を

納めることが出来ると思う。

平成生まれの僕達は、両親の時代と比べると子供の人数がとても少ない。少子高齢化社会が着実に近づき現実になりつつある。税を払う人は減り、高齢化に伴い、医療費や社会保障費は増加の一途だ。収入より支出が増え続け、度からの税収を考えていく必要があると思う。

税の国際比較をすると日本の消費税は5％ととても低い。だが、国内だけで考える場合、高額の商品を購入する時など5％の消費税がとても高く感じられてしまうものだ。これは社会保障の先進国といわれる諸外国の実情を知るチャンスがないからだと思う。国民が税金の用途を充分に理解し納得することが出来たなら、日本の国に合った形で消費税率を変えて行くことが可能だと思う。

税制について考えた時、支え合ってこそ成り立つものであることに、改めて気付かされた。十五才の僕はまだ少しばかりの消費税を支払うに過ぎないが、近い将来社会人となった時には、恩返しに気持ちを忘れずに、快く納税が出来ると大人になりたいと思う。そして日本がいつまでも豊かで文化的な国であり続けられるように願いたい。

笑顔のために

千代田区立神田一橋中学校

二年 川 嶋

彩

今年、私はとても貴重な体験をしました。夏休みに入ってから、学校のインターシップで、高齢者サービスセンターに訪問をしたのです。初めて体験する高齢者の介護は大変な事も多かったのですが、何より三日間を通してたくさんの笑顔に出会えた事がとても嬉しかったのです。そして、

「毎週ここに来るのをとても楽しみにしているよ。皆さんのおかげ。ありがとう。」

と話す、高齢者の方々の姿が心に残りました。

私は家に帰るとすぐ、母に体験の事を話しました。講師という職に就きながら、介護の仕事にも携わる母との会話の中で、介護を必要とする人を社会全体で支えるための仕組みとして介護保険制度がある事を知りました。だからこそ受けられるサービスがたくさんあり、高齢者の方々とその家族は安心して生活できるという事、そしてこの制度を支えているのが、税金であるという事を聞きました。

そこで私は、もう一度、学校で貰った『わたしたちの生活と税』というパンフレットを読み直してみました。私の身近にある教科書無償のサービスや、

中学三年生までの医療費助成サービスが税金で支えられている事は意識していました。しかし、今回、私が訪問をした介護デイサービスや、訪問介護等も税金の『社会保障制度』でサービス費用のほとんどが賄われているという事を知りました。ありがたうの笑顔と家族の安心は、税金と深く関わりがあったのです。

私自身、平成七年十二月双子で生まれました。私も兄も超未熟児で、母も危険な状態だったため個人病院から大病院までの搬送に救急車と高速道路が使われました。一刻を争う事態中、短時間で搬送され、私達三人の命が助かったのも、今の笑顔があるのも、医師と税金によって整備された高速道路、そしてすぐにつけてくれた救急車のおかげなのです。

以上の事からも私は税金は必要なのだと思います。だからこそ、国民一人一人の関心は、税金の使われ方にあるのだと思います。ニュースでは、時々、税金の無駄遣いを耳にします。そんな時、私はとても残念に思います。

税金、それは国民一人一人が手を取りあいお互いに感謝をしながら平等に社会を支えていくものであってほしいと思います。

私も大人になり、税金を納める時が来たら、その税金が、自分の家族や周りの人々だけでなく、見知らぬ人々をも笑顔にしていけるように努力していきたいです。また私自身もありがた

とうの感謝の気持ちを忘れずに、今までより一層社会に目を向けながら生活をしていこうと心に誓いました。

税金は私達を守るもの

新宿区立西新宿中学校

三年 竹村 絵梨奈

私の亡き弟は、平成13年1月9日に生まれました。弟は、先天性多発性筋肉拘縮とラルセン病と呼ばれる、日本でも数名しかいない珍しい病気を持っていました。のちに、祖母もバット・キアリ症候群の肝硬変とわかり、弟の病気と関連があることが分かりました。

私の家は、決して裕福ではなかったのですが、弟は税金から、高額医療費負担制度を受けていました。

結局、生まれてから一度も、我が家に来ることなく、闘病生活を送り、1歳9カ月という短い生涯を最後まで、懸命に生きました。もし、税金がなかったら弟は、公正な医療を受けることができなかったと思います。

最近、テレビなどで『減税』という言葉が耳にするようになりました。日本は、カナダと同じ、消費税5%の国です。世界では、韓国やオーストラリアの10%から、最も税率の高い国、スウェーデンの25%の国があり、そう

考えると、日本は、世界でも、税率の低い国だということが分かります。そして、問題なのは、公積金収入（国の借金）が、約38%なのに対し、国債費（借金の返済）が、約23%と、公積金収入が増えていく一方だということです。税率5%で、多額の借金を背負っているというのに、『減税』をしたら、国の借金は、いつなくなっていくというのでしょうか。財政は、増えるばかりだと思います。

『増税』をすることで、最初は批判の声やデモが起こるかもしれませんが、10年後、20年後に軌動に乗った時、国民が理解してくれるはずですよ。

国の借金を背負いながら、生活をすることは困難です。他力本願ではありませんが、国が大きな目で、これからの老護や子育てに対して、税金の中から貯蓄をしてほしいと、私は願っています。

そして、納税者の税金に対する意識を変えていくことも、これからの課題ではないでしょうか。その為には、国がどのようにして税金を使っているのか、ということ具体的、且つ分かりやすく説明することが、まず、必要ではないでしょうか。自分の納めた税金が、結果的に、国民一人一人の負担を軽くしていることを再確認し、税金は、私達を苦しめているものではなく、私達の生活を守る、相互扶助であること忘れてはいけないと思います。

私は勿論、弟や祖母も、税金によっ

て助けられてきました。私の使命は、その御恩を弟と祖母に代わって、できるかぎりのお返しをすることだと思っています。滞納せずに、感謝の気持ちを持って、税金を納めたいです。そして、自分の納めた税金が、自分の暮らしや他の誰かの役に立つことができるのなら、それ以上の喜びはありません。

感謝の心を忘れずに

淑徳中学校

三年 飯島 幸恵

私は、この作文を書く前は税についての意識など全くありませんでした。興味さえなかったです。まだ中学三年生だからとか大人になったら考えればいいやとか思っていました。でもそれは遅い気がしてきました。

私たちが今こうやって勉強できていることも、蛇口をひねれば清潔な水が出てくることも、夜、安心して寝られることも全て税金のおかげなのです。

私は今まで、これらのことは当たり前だと思っていました。まさかこんなにも税金に助けられているとは思っていませんでした。だからこそ、これからは感謝の心を忘れずに生きていきたいです。

世界には、勉強しなくてもできない、生きたくても生きられない子供たちが

たくさんいます。明日という日が来るということは私たちにとって当たり前ですが、世界の悲惨な子供たちにはそれがあやふやなのです。今を生きているとで精一杯なのです。それに比べて私たちは、本当に幸せだと思います。とてもとても恵まれているからこそ、その当たり前前の幸せに気がつかないで、自分の好きな物を買って、遊びまわって、テレビを見て、にこにこ笑っているのです。一歩外に出て世界の子どもたちを見て下さい。その子供たちは、私たちを見て、どのように思うのでしょうか。私は遊ぶことやテレビを見るのが悪いといっているのではありません。でも感謝の心を忘れてしまふのは良くないことです。

こういった世界の子供たちや、日々汗水たらして働いて税金を払ってくれた大人たちのことを考えると、授業で使う教科書をなくしたり、捨てたりはしないでしょ。また、歯を磨く時など水を出しっぱなしには出来ないでしょう。こういった、一人一人の意識が大切なのです。税金を払ってくれている大人たちに顔向けできるように、せめて私たちができることは、ちゃんと毎日学校に行って、学校で使う教科書などの物を大切に、感謝することだと思います。

初めにも書いたように大人になってからではだめなのです。口ではどんなことでも言えるし、この作文にはどんなきれいなことでも書けます。でも、そ

れを実行しなくては意味がありません。私はこれから先、どんなことに対しても感謝の心を忘れずに生きていきたいです。だから、私がこの作文にめぐりあえたことも感謝したいと思っています。だって、私の税金に対する意識が変わったのですから。私もいつか大人になり、税金を払うようになったら胸を張れるように、今はありがたさを忘れないでこれからの学校生活を送りたいと思います。

あたり前ではない

練馬区立北町中学校

三年 北谷 友佳里

私の母は、障害者です。なので私の家には介護者さん、ヘルパーさんが出入りしています。その時に「介護保険」「社会保障」などという言葉を使ひたび耳にしていました。私は気にもとめず生活していました。ですが今回、学校で税について学ぶ機会がありパンフレットを読みました。すると「社会保障」という文字が、くわしく読んでいくと、私の母にもとても関わりが深いことに気付きました。いままではあり前のように介護者さんが来て介護サービスをしてくださり、「どこからこんなにお金をだせているのだろう」と思っていました。それは税金である社会保障制度からだしていただいてい

て、介護サービスの利用者の負担は、サービス費用の一割で済んでいました。もしも、この制度がなくなるとして自分で出すことになっていたら、どうなっていたでしょうか。きっと家庭は崩壊していたのでは？と私は思います。そう思うと、毎日毎日税金を納めてくれている人に感謝しなくてはならないなと感じました。あたり前にはないと思っ

てはいけないと思いました。

私はこの作文を通して色々考えました。私は教科書に落書きをし、まだ使えるようなものでも流行に合わせ捨てていました。これが税によって使えているなんて知らずにいました。ですがこのことを知ったとき、とても心が苦しくなりました。納税者の気持ち、願いを踏みにじっていた、税金の意味をなくしてしまっていたと思います。気持ちや願いがこもっている税金を無駄にせず、気持ちにこたえられるよう大切に、大切にしていきたいです。

これからは、私たちが納税者となっていくます。少子高齢化などがあると思います。問題がいろいろと増えていると思います。このことを、見すごすことのないよう、未来をしつかり見つめ考えていかなくては、ならないと思います。自分に子どもができたときに、その子が安心して大人になっていけるような社会を、つなげていきたいです。たった五パーセントではない、この五パーセントで、世界の誰かが笑って幸せに生活できているんです。

最後に私は、今できることを考えました。それは、毎日毎日の学校生活を大切に過ごすことです。税金を納めてくれている誰かのためにも、貧しく学校に行けない子のためにも日々を大切にしていきたいです。

税について

大和市立南林間中学校

三年 宇田川 愛

先日、私は九百九十九円の黒いベストを買いました。「千円でおつりがくる、とても安い。」と思い購入しました。実際、レジに持っていくと消費税が入り、千四十四円でした。消費税を払うのは当然だと思っていましたが、少し残念でした。

普段、納税というと、私たち中学生は全く関係なく、大人が払うものだ、と思っていました。しかし、考えてみると、お小遣いから少しずつ消費税を納めていることに、今回気付きました。でも、それらの税金が何に費やされているのか、意識したことがありませんでした。

税に関する「わたしたちの生活と税」という冊子を読んで、一番身近に感じた税の歳出は教育費です。先生のお給料も私の教科書も学校の机も椅子も、全て私が勉強できる環境にあるのは税金が教育費に使われているからだ、

と知りました。そして、冊子の中に、気になった図がありました。それは、歳出についてのページにあった、県民一人当たりの教育費の割合です。人の絵で、教育費は頭から胸元まで、最も広い面積を占めていました。税金をたくさん納めているのは、もう学校を卒業し、私とは関係のない人ばかりだと思えます。私は多くの人に支えられて、学校で学ばせてもらっているのだと思いました。

私は夏休みに、祖父母にお金をもらいました。母に、

「若い時の恩は将来、倍返しにしないとね。」と言われました。これを聞いて、大人になったら祖父母が私にかけてくれた愛情やお金を、それ以上に返さなくてはいけない、と思いました。社会も家族としくみは同じではないかと思えます。私が勉強できるのは、今、働いている人達のおかげです。その人達が、税金を払うことが出来なくなるときは、私達が払う人になります。同じように、その人達がこれから産む子供の教育費を納めるのも、私達なんだと思います。小さい頃は親に育ててもらい、大きくなったら、親を支えてあげる。これと、社会は似ていると感じました。

少子化が進み、人数の少ない今だからこそ、私達、一人一人がしっかりと育ててもらっている時期にまじめに勉強して、将来、税金を納められる人に

なることがすごく大切だと思います。若い人の人数が少なくても、社会を支えていける一員になりたいです。

自分は、「良い成績をとらないと」「良い高校へ行かないと」と思っていました。けれど、成績を上げる為に学校へ行っているのではなく、未来で給料をもらい、税金を納められる人になる為に学校へ行かないと、と思いました。

将来は私を育ててくれた恩を、倍返しとして、みんなの為に、納税していきたいです。

私の大好きな街

山梨市立山梨南中学校

三年 竹居 のぞみ

「いつてきまーす。」今日も元氣よく家をとびだした。きれいに舗装された道路、たくさんさんの桃畑、交差点の信号機、それはいつもと変わらない風景だ。そこには、「いつも幸せに暮らしている」ということが実感できる。学校では、きれいな教科書を使い、一人一人の机や椅子があり、部活もできる。とてもいい環境で勉強に励むことができる。私達は毎日、何不自由なく楽しい生活を送っているのだ。でもそれは、決してあたり前のことではない。私達が毎日を幸せに送れているのは、たくさんさんの人が納めている税金によってつ

くられているのだ。

私達の身の回りには、税金によってつくられているものがたくさんある。私にとって一番身近な所は学校だ。一昨年夏、夏休みを利用して校舎の耐震工事が行われた。私達は安心して学校生活を送れる様になった。車椅子用のスロープやトイレなどたくさんさんの工夫もされている。もちろん机や椅子、教科書もだ。これは全部、国民全員が払っている税金によってつくられ支えられている。

税金がこんなにも私達の生活に関わっているとは正直知らなかった。でも、税金を払わなければ今の様に幸せな生活を送ることはできないと思うと、税金というのは本当に大切な事とわかった。国民全員が協力して税金を払うことで道をつくり、街をつくり、そして国をつくる。私は税金を通じて国民が一つになっている気がしてなんだか嬉しかった。

しかし、最近では税金をしつかり払っていない人がいたり、税金が無駄に使われている様なニュースを耳にする。せっかく国民が一つになっているのに、たった一人の人がみんなと違う行動をするだけでそれは崩れてしまう。私は、それは本当に悲しい事だと思う。最近、担任の先生に言われた言葉、「個人は集団の影響を受けるけれども集団を動かすものは個人である」これはクラスのことだけではない。国もこの言葉にたとえることができると思う。

やはり国をよくするということは、まず個人の気持ちが大切だと私は思う。税金だってみんながしつかり払えば、絶対私達の生活は更によくなっていくと思う。もっと安全な道路、もっと便利な病院、そして老人や子供達が安心して暮らせる社会ができると思う。

これからも、毎日幸せに送っていけるかは全て個人しだいだ。でも、私はしつかりみんなに税金を払ってもらいたい！そう強く思う。そして、笑顔がいっぱいの日本をつくっていきたい。私もまた、「いつてきまーす。」と、今日も元氣よく学校へ向かう。キラキラに輝いた私の大好きな街へ。

「身近な税金」

南越前町立南条中学校

三年 山内 悠衣

私は、毎日必ずニュースを見るようにしています。そして、ある日消費税の税率を上げるというニュースを聞きました。私は、その時、税率を上げたって何でもいい事なのに、出費が重なって家計が苦しくなるから皆が反対するだろうにと思っていました。でも、三年生になり、税について学習を進めていく内に、税金を納めることに反対ばかりしていられないかもしれないと思うようになりました。

税金について調べて一番心に残った

事。それは、税金が使われている物は私達の身近にあるという事です。暮らしの安全を守る警察、病院、きれいな水をつくる浄水場、私達にとってなくてはならない学校。それらが、私達の納める税によって成り立っているのです。

私の中学校は古く、築三十年は過ぎています。そこで、今年は耐震工事がされる事になりました。それはとても大規模な物で、プレハブ校舎もエアコンもすべて税金でまかなわれています。私は義務教育として、当たり前のように小・中学生を過ごしてきました。しかし、税金がなければ学校に行くのにもお金がかかりすぎて、アルバイトなどをして働かながらでないと教育を受けられないかもしれません。現在のような環境で、同じような教育は受けられないと思います。私は、何不自由なく学校に行くことが出来たおかげで、いろいろなことを学び、今の友達が出来たことに感謝したいです。

私は小さい時に熱性けいれんをよく起こしていたそうです。そのため、私は一回だけ救急車で病院に運ばれることがありました。日本では救急車は無料ですが、外国では有料である方が多いそうです。調べてみると三万から二十八万円ぐらいいかかるそうです。その当時妊婦だった母に心配をかけ、その上、二十八万円もお金を払わなければならなかったら今ごろ申しわけない気持ちでいっぱいだったと思います。

ます。そんなに高額なお金が必要なら、緊急事態でもおいそれと救急車を呼べなくなってしまうのではないのでしょうか。

ニュースでは多くの人が脱税で逮捕されています。自分達の身近にあるもの、病院、信号機、その他色々な私達の生活になくてはならない物に税金が使われているのに、自分だけがいい思いをしようと思っていることにとても腹が立ちました。私の好きな言葉に「ひとりではみんなのために、みんなはひとりのために」というものがあります。税金を納めるというのはそういう事なのではないでしょうか。支え合う事で今の私達の豊かな暮らしが成り立っているのです。高齢化社会で、これからますます税金が必要となります。しかし、納税することで皆の生活が苦しくなるのでは何にもなりません。今後は、税金の無駄づかいを無くし、税金が有効に使われるように一人一人が使い道を考えていくことが大事だと思います。

私たちの税

三島市立中郷西中学校

三年 鈴木 里 彩

私が初めて税に興味を持ったのは小学生の時です。税理士さんが学校に来て、税の種類や必要性を教えてください

のがきっかけです。それ以来税は大切なものであると認識はしていましたが、なぜ大切かを問われるとはつきり答えられない状態だったので、一度税についてきちんと調べてみようと思いました。

まず私が知りたいと思ったのは、税がどのようなことに使われているのかということでした。調べた結果、こんなに身近なたくさんのお事に税金が使われているとは思っていませんでした。とても驚きました。しかも、どれも私たちの生活に欠かせないものばかりでした。

例えば、つい最近私達が住んでいる静岡県で大きな地震がありました。幸い、震度が大きかったわりに被害は少なかったのですが、その理由は多くの家が耐震工事をしていたり、家具の固定をしっかりしていたからだと思います。なぜそんなに多くの家で耐震工事がされていたかというと、「特定の建築物を耐震工事した場合、費用の一部を補助する」という制度があったからだだと思います。そして、その補助費は住民が払った税金から出ているのだそうです。私の祖父の家はとても古いけれど、補助をしてもらい耐震工事をしたお陰で、今回の地震では何の被害もありませんでした。祖父は、補助をしてもらったから大変助かった、工事をしたお陰で安心して暮らせるようになったと、とても喜んでいました。このように、人の命に関わることに税金

は使われているということを知り、税の大切さを感じました。

また、信号機や水道、更には医療費の負担など生活していくうえで必要なものにも税金が使われているそうです。もしこれらが税金で負担されなかったら、どうなるでしょう。もし個々の家庭で全てを負担しろと言われたら、生活の成り立たない家庭も出てくるのではないのでしょうか。税金とは全ての国民が平等に、幸せに生活する上で必要不可欠なものであるということを強く感じました。

例えば、普段から私達日本国民はかなり税金に助けられて生きているのです。私達が学校に通えるのも税のお陰です。税金に助けられて生活しているのだからこそ、私達には納税の義務があるのだということも、よく分かりました。

今回税について調べたことで、たくさんのお話を学びました。税のほとんどが誰かが一生懸命働いて稼いだお金です。誰かの努力があって、私達、特に子供は生活できているのです。私達中学生はまだ働くことができません。だから、大きくなって働くようになったら、今頑張っている税を納めてくれる人達に少しでも恩返しをするため、また将来国を担っていく子供達のために、しっかりと税金を納めていきたいです。そしてみんなが笑顔で安心して生活できる社会を作っていきたいです。

身近に隠れていた税金

知立市立知立中学校

三年 加古 詩 織

旅行が大好きな私のおばあちゃん。しかし長期の旅行に行くことはできません。それは二日に一回、人工透析を受けているからです。私のおばあちゃんは人工透析を必要とする身体障害者なのです。

今年の春、中学校三年生になった私は社会科で国民の義務を学びました。その中には納税の義務というものがありました。私は税とは何なのかあまり分からなかったのですが家に帰って家族に聞いてみました。するとおばあちゃんのような身体障害者の人は高速道路の割引、自動車税の減免、タクシーの割引、所得税の一部優遇、自動車取得税の免除、国民健康保険の減免、といういろいろな福祉制度を受けられることが分かりました。そして、そのような福祉制度は税金によってまかなわれているということを知りました。今まで私は税というものの知識はなく、自分とはあまり関係のないものだと思い込んでいました。しかし今回、このことを知り税金をすごく身近に感じるようになりました。今までは税という言葉聞いてもあまりいいイメージはなく、マイナスなイメージの方が大きかったけれどこんなにも私たちの生活を支えて

くれていることを知ると、税金に対して感謝の気持ちでいっぱいになりました。

私はふと思いました。もしも税金がなかったら生活はどうなってしまうのか。そこで調べてみたところ、例えば医療費の金額自己負担、救急車やごみ収集、交番などの公共サービスは受けるのにはお金がかかる、といった問題点が出てきてしまうことが分かりました。このようなことを考えると、安心して安全で豊かな生活を送るために、税金はとても大切なのだということを感じました。

二泊以上の旅行に行くことの出来ない私のおばあちゃん。健常者と同じ生活が送れているのか、というところではないのが現状です。それを改善する一つの方法として私は、税金でもっと多くの透析施設ができればいいと思います。そうすることにより、私のおばあちゃんを始めとした透析患者が、旅行先でも透析を受けることができるようになるのではないのでしょうか。そして健常者と同様な生活に一步近づけるのではないかと思います。

私のおばあちゃんは内部障害なので外見は健常者との違いはありません。しかし健常者には予測もできない苦勞があり、それは一生付きまとうものです。そんな苦勞を少しでも和らげるために福祉制度というものがあり税金が使われているのだと思います。これは税金の望ましい使い方ではないでしょ

うか。私はこの作文を書くことにより、税を身近に感じ、関心を持つことができました。

私が大人になり一人の納税者となるとき、税が正しい方向に使われることを第一に考えたいです。そして自ら納税することにより社会に貢献し、よりよい日本を創り上げていくための力になりたいと思います。

祖父の病氣から考えたこと

学校法人近江兄弟社中学校

三年 西澤

峻

僕の祖父は「パーキンソン病」という病氣と闘っている。僕が小さい頃は剣道を小学生に教えていたほど元気だった。けれどだんだんとこの病氣のため体が動かなくなってきた。今では外出する時は車イスが必要なほどだ。十年ほど前は手足が震える程度だったのに、徐々に歩くのが難しくなってきた。今では一日中寝ていることが多い。

両親が働いていたため、朝早く預けられ、夜遅くまで祖父母に面倒を見てもらっていた。だから祖父の家は僕のもう一つの家でもあった。祖父は介護なしでは生きていけない状態である。

一人で介護をしている祖母は大変で、僕にもいろいろぐちをこぼす。なかなか動いてくれない。みんなと話せない。

耳が遠い。薬が効いている時はよいが、三時間おきにたくさん種類の薬を飲ませる必要がある。

僕は心配になってきて、祖母にどうやって生活しているのか聞いてみた。すると、年金をもらっているので大丈夫だと祖母は言った。それから病氣の治療費は、毎月十万円くらいかかるが特定疾患なので県や市が負担してくれることがわかった。新薬を使っているが、効果はあまりないらしい。

祖父母は病氣でつらい思いをしているが、国や県・市が助けてくれていてと知り、少し安心した。医療や年金、介護などに使うお金を社会保障費というそうだが、この元となるのは税金だ。

「税金の無駄遣い」というように、これまで僕の中では「税金」という言葉になんとなくマイナスイメージがあった。せっかく自分が努力して得た物を奪われてしまうように思えた。でも祖母の話聞いて、社会を守り、安全に暮らせるようにするための大切なものと思うようになった。僕たちはたくさんさんの人の協力で生きているのだ。

でもいろいろな問題がある。これから祖父のような高齢者はどんどん増えるだろう。一方で少子化ということもよく聞く。僕が祖父の年齢になる頃には問題は解決しているのだろうか。

僕は今税金によって支えられている年齢だ。将来医療に関する仕事に就きたいと思っている。パーキンソン病の

ような病氣を治すことで社会保障費を下げることもつながる。それから、祖父母のような人々が安心して暮らせるように税金をしっかりと納めることも社会に貢献したい。

みんなで明るい将来を

亀岡市立大成中学校

三年 山本 悠希

私は「税についての作文」を書くにあたって、自分が「税金」について全く無知なことに気づき困り果ててしまいました。税金には国に納める国税と、道府県や市町村に納める地方税があることを知り、国税を取り扱う「税務署」を訪ねてみて「税」の大切さを私なりに理解し勉強しようと思いました。まず私が住む亀岡市や南丹市、京丹波町の管かつ税務署が園部町にあることを知りました。私は少し緊張して税務署を訪れたのですが、お役所の堅苦しいイメージと違っていたのが和気あいあいとした雰囲気になんて安心しました。税務署には40人くらいの人がそれぞれ別の課で働いていました。すぐに2階に通していただき、総務課のお姉さんがホワイトボードを使って丁寧に分かりやすく説明してくださいました。私のくだらない質問にも可能な限り答えてくれたことに本当に感激しました。帰りに税についての資料やパンフレット

をたくさんいただきました。税務署を訪ねるまで私は全くとっていいほど関心がなく、今まで「面倒なもの」として知ろうとしなかったけど「税」について関心がわき「無くてはならないもの」と考えるようになりました。税はよりよい暮らしのための会費です。私達の身近な地域の暮らしのため、老後の生活の安心を支えています。例えば、新しい学校の建設、図書館などの教育施設を整備したり、教科書の無料配布など学校教育や、病気やケガの治療代、私達の生命や財産を守り安全に暮らせるように、警察や消防の活動、家庭から出たゴミを処理するなど生活環境をよくし、より豊かに快適に暮らせるように税金は使われています。私達中学生が一番身近な税金「消費税5%」は4%は国へ、1%は地方へ活用されています。日本の消費税5%は主要国の中では最低の水準にあります。諸外国では主要の位置を占めていて、ヨーロッパ加盟国では15%以上とすることが義務づけられていることも知りました。消費税率が一番高い国は、デンマーク、ノルウェー、スウェーデンで25%を占めていて人が誕生してから人生を終えるまでの生活が保障されていることも知りました。

私は今まで、税金は国が取って国民は取られるような関係で、あまり良いイメージをもっていなかったけど、そうではないという事が今回の税を知ることによってよく分かりました。みんな

なで豊かで明るい将来を築くために会費（税）を正しくしっかり納め、日本全体がバランスよく発展できるように、税金の無駄使いをしないように正しく使ってほしいと思います。

幸せ資金

泉南市立一丘中学校

三年 佐野文音

「先生、給食費を忘れました。」

小学校一年生のM君は嘘をつきました。恥かしくて本当のことが言えなかったのです。実は、家には給食費を払うお金が無いのです。

M君のお父さんは七十二歳。高齢で職につけず、体の弱いお母さんも働けません。収入は家族でしていた内職のわずかなお金だけで、生活はとても苦しいものでした。

ある日、M君が内職を手伝っていると、友だちが遊びにきました。しかし、お父さんが、

「うちには、遊んでる時間なんか無いんや！仕事してお金を稼がな食べていかれへん！」

と、M君を叱りました。そして、友だちを

「Mは、これからおまえらと一緒に遊ばれへん。もう誘いに来んといてくれ。」

と恐い声で、追い返してしまいました。

M君は悲しくて悔しくて、涙が出ました。

「なんで、うちはこんな貧乏なんや！なんで僕は友だちと遊ばれへんのや！」

M君の家は、市の係りの人の勧めもあり、【生活保護制度】を受けることになりました。

その制度とは、法律に基づき、生活に困っている人に最低限度の生活を保障し、自立を助けてくれる国の制度です。毎月の生活費を支給してくれるほか、病気にかかった時の治療費も免除してくれます。それらのお金は、社会保障として税金が使われます。

お陰でM君の家族は、なんとか暮らすことができ、M君も無事高校を卒業して就職することができました。

M君は『これでやっと生活保護を受けなくても生活できる』と喜びました。でもその頃、お父さんはガンを患って残り少ない命だったのです。M君は、病院のベッドに横たわるお父さんに、自分の初めての給料を手渡しました。

お父さんはもう喋ることも出来なくなっていました。そのお金をギューッと握りしめ、ニコッと笑って涙を流していました。きつとお父さんはM君が立派な社会人になったのがうれしくて泣いたのでしょう。

実は、このM君とは、私の父です。もし、生活保護制度がなければ、父はどうなっていたのでしょうか。

今、父は、働くこと、自分の力で生

活できることに喜びを感じ、助けてもらった感謝の気持ちで税金を納めているそうです。

今、私が納める税金とえば、ほんの少しの消費税しかありません。でも、そのお金が『昔の父のような子供を助けているのかも』と、想像すると嬉しいです。そして、私も学校教育で税金のお世話になっています。

助け、助けられる税金は【幸せを分け合う資金】だと思います。

私は、今まで税金について深く考えたことがありませんでした。しかし、この作文を書く機会をいただき、父と話すことで、税金は希望や夢をもてる生活を与えてくれることを学びました。

「税」を知る大切さ

加古川市立山手中学校

三年 宇野智香

学校からもらった『税金』についてのパンフレットを読んでいくと『税』について自分の無知が分かった。正しいことを知りたいと思った。知らないばかりか、テレビで少し聞いたことのある『税金の無駄遣い』という言葉を深く考えずに使ったことがあるし「消費税率を数年後には上げる。」と言っている政治家に腹を立てたこともある。勝手に、マイナスのイメージを作り出していたことを恥かしいと思った。

パンフレットには税金の使われ方が書かれていて、私のような中学生一人当たりの年間教育費が九十四万八千円（平成17年度）とあった。そういえば、毎年当たり前のように新品の教科書をもろう。「教科書って高いの？」と母にたずねたことがあったが「無料。」と言われ、びっくりしたことがあった。私達の生活や安全を守ってくれる警察や消防にかかる費用も、税金が使われている。毎日のように出るゴミの処理費用や医療費の一部負担は、税金から出される。なんと身近で私達の生活は『税』に頼りきっていることか。私達が、毎日「普通に」生活出来るのは、実は税金のおかげだったのだ。あまりにも当たり前になり過ぎて有難いという感覚がまるでなかった。

今、私の家から歩いて五分程の所に、医療センターが建設中である。そのセンターを中心に、農道だった所も広い道路に舗装され、高速道路の橋脚も、次から次に出来上りつつある。トラックが砂埃を舞い上げながら、せわしく行き交い、見慣れていた風景が日々変化していつている状況だ。数日前、テレビで見たのだが、四国だったか、高速道路が出来るとは村民の願いであり、救急車が出動した際、三十分の時間短縮が出来る為、救える命が増えるという。過疎地に住む者にとつての『命の道』なんだという言葉が耳に残っている。私の家の周囲も『命の道』がつながるうとしていて。

『税』によるサービスは、国民のだれもが受ける権利がある。でも権利を主張するならば、憲法三十条で「国民は、法律の定めるところにより納税の義務を負ふ。」と規定されているように、納税の義務を果たすことは絶対条件だ。『税金』は、国の大きな財布だと思う。やはり無駄遣いをしてはいけないし、国民一人一人が笑顔で生活出来るような、使われ方を望む。正しく『税金』が使われると、この国は潤っていきけるはずだから。

私は、パンフレットを開いてみてよかった。無知であることは、恥かしいだけではなく、間違った考えが生まれる。将来、私が税金を納める時には、自分もこの国を支える一人なのだという誇りが持てる。納税することで、誰かが笑顔になれるなら、喜ばしい。また、私は国民の誰かに支えてもらって生活している。誰かのおかげで毎日暮らしているのだから「有難い」という感覚を忘れずにいたい。税を知る大切さに気付けてよかったと思う。

くらしと税金

桜井市立桜井西中学校

二年 清水 菜央

私の父は、以前アフリカのケニアで小学校建築の事前ボランティアをしていたそうです。もう20年以上前ですが、

今も状況はそれほど変わらないそうです。発展途上国では、学校が整備されていなかったり、教材が不足していたり、勉強をしたくても出来ない子供達がたくさんいます。その原因は、国の予算が少なかったり、地方まで資金がいかない事だと思っています。その当時ケニアのある村では、100万円程あれば、教室を2つ建築出来たそうです。何十人もの子供が、日の当たらない、砂のまわらない教室で勉強する事ができます。でも、教科書は行きたらず、主な教科は、共通語のスワヒリ語の読み書きに留まる所が多いようです。今の私達には想像できない環境です。

この作文を書くとき「くらしの中の税金」という資料をもらいました。その一番に目にとまったのが、生徒1人の一年間の教育負担額が、およそ100万円ということでした。私達中学生一人への教育費に国や市町村からこれだけ多くの費用が出てくるわけです。それは、ぐう然にもケニヤの教室建築費と同じ額です。

私は日頃、自分の身の回りのことしか考える事はできません。身近な人達との物の有る無しや、優劣をつけたらうらやんだりします。でも、もう少し広い視野でアジアやアフリカ、そして世界中を見れば、日本の社会は大変恵まれている事に、気がつきます。何不自由なく、当たり前のように使える水道、道路、学校、それに治安、父の話す地域とは比べられない別世界に私達

は生活しています。その生活の基を維持管理しているのが、国や地方公共団体である、県や市町村です。そして、財源の多くは国民の税金でまかなわれていることがわかります。でも、それだけでは足りずに、国も毎年大きな借金をしています。

私達の家庭にも同じ事がいえます。家族のために住みやすい家を建て、生活に便利な電気製品を揃え、気軽に行動するために車をかいます。しかし、その多くはローンによってかわれています。家族が快適に生活するために判断されたことです。

国も国民が豊かになるように、必要な資金を集めています。その大事な財源が税金ということです。

私達が今以上に豊かな生活を願うなら、人ひとりが何不自由なく勉強できることに、感謝しなければなりません。そして、生活をするには税金が、とても大切であることをと知らなくてはなりません。これから大人になって、理解ある納税者にならなければならなと思っています。

税金がなくな 未来への橋

和歌山市立河西中学校

一年 赤山 幸代

「税金」がなくなったらいいけど

うなるんだろう。私はふと疑問に思いました。そして答えを知るため、私は図書館を利用することにしました。

図書館に行くのに私は道路を歩きました。道路はどこへ行くにも利用する今ではあつて当たり前のものです。この道路は「税金」によって整備されています。もし「税金」がなくなれば、私はデコボコの道を歩いたり、道を歩くのにお金を払ったりしなければなりません。私は一つ道路で答えをみつけました。図書館につきました。図書館は貸出利用カードさえ作ってわたせば、簡単に本が借りられる大変便利な所です。しかし、図書館は「税金」によって保たれています。ここでも「税金」がなくなれば、図書館を利用するのに私はすべての費用を自分で負担しなければなりません。私はもう一つ図書館で答えをみつけました。ここまででも本場に「税金」は私達にとって必要なことが分かります。

本のページをめくって「税」について調べているうちに、私はある興味深いページをみつけました。そのページには「税金は国民だけには使われな」と書かれていました。私はすぐに続きを読みました。そこには、「税金」は国際社会の平和を願った世界の人々のために支援するという内容が書かれていました。さらに読み続けると、技術協力にも力をいれているという内容もありました。私は自分達のためだけでなく、他の国のためにも「税金」

が使われていることに驚きました。それと同時に私達は明るい未来への架け橋をつくっているんだ、と少しほこりに思いました。私達が少しでも「税金」を支えれば、それはやがて大金になります。そしてその大金は私達や他の国の人々の未来をつくるものとなり、足りないところにはピースとなって埋め込まれていく。初めて私はこんなに意味のある重大なことをしていることに気づきました。

私はこの作文を書くにあたって「税金」はみんなが豊かで安心して暮らしていくのに、とても大切だと知りました。

そして帰りにコンビニによっておにぎりを買おうとした時、笑顔で税込みの一〇五円を払う自分に気づきました。たったの五円でしたが、私にはとても大きなものに感じられました。

将来私は欲にふれず、世界中の幸せを願いながら、自分がかせいだお金で「税金」をたくさん納めたいです。自分でかせいだお金なら、私の願いがよりいっそう形になる気がするから。

税が正しく使われるために

広島大学附属中学校

三年 新山 瑠璃

私は今、国立の中学校に通っています。

す。教科書がもらえることはもちろん、授業料もいりません。それは、税金があるおかげです。よく母に、「勉強ができることを、ありがたいと思いなさい。」

と言われます。今まで私はその意味があまりよく分かっていませんでしたが、私たちがというより私たちの両親らが納める税金によって、私たち学生は勉強することができるのだということが、最近になってよく分かりました。子供のころは何で税なんてあるのだろうという疑問がありました。教育をうけられることを始め、私たちが道路を安全に歩けるのも、ゴミを回収してもらえるのも、また、風邪をひいたら病院で見てもらえるのも、税金があるおかげであることを知り、今では納得しています。

税金は、私たちの生活をより良いものにするための、大切なお金です。ですから、正しい使われ方をされなければなりません。私たちが普段うけている授業。これを例にとつて言えば、この授業に関する税が正しく使われるためには、私たちは教科書や先生の授業をフルに活用して、一生懸命勉強しなければいけません。このように、税が正しく使われるためには、必要性はもちろん、その後、私たちがどのようにそれを役に立てるかも大切だと私は思うのです。学校で配られた資料を見ると、広島県の平成二十一年度の歳出は、その約四分の一が教育費になっています。

した。また、中学生一人に使われる税金は、年間約九十五万円とも書いてありました。こんなににかかっているのだと初めて知り、とても驚きました。だから一層、一生懸命勉強しなければならぬと感じました。

今まで教育において税金の正しい使われ方を述べてきましたが、その他にも、少しのことで救急車を呼んだり、不注意で火事になってしまったり、私たちの心がけが良くないことでムダ遣いになっていることが少なからずあると思います。よく、「税金のムダ遣いだ。」

という人がいますが、その前に自身心がけはきちんとしているかを考えてみてほしいです。私たちが納める税金が、私たち全体のために使われる税金だからこそ、きちんと使い方を考えなければなりません。もっと私たちの生活をより豊かで住みやすいものにするために、私たちの方からも考えていきたいと思っています。

税について

新居浜市立中萩中学校

三年 篠原 睦実

私達の身近な税と言えば、まず消費税が思い浮かぶ。本を買っても、服やバッグを買っても、日用品や食料品を買ってさえ、今は五パーセントの消費

税がかかってくる。私は今まで、消費税なんてなければいいのと思っていました。消費税が私達の生活にどのように関わっているのかなど、考えたことさえなかった。そこで、私は、インターネットで消費税について調べてみることにした。

消費税は、社会保障制度に充てられ、主にお年寄りの年金や医療費、介護などの費用に使われていることがわかった。私の曾祖母は現在、施設で介護を受けながら、平穏な日々を過ごしている。その曾祖母の生活が消費税に支えられていると知り、驚いた。また、数年前に大病し現在も病院通いをしている祖父の医療費も、年金生活を送っている祖父母の暮らしも、みんな消費税に支えられていることがわかった。しかも、消費税は、現在のお年寄りの生活を支えているだけではない。五十年後、六十年後の私達の生活をも支え、保障してくれるものである。そう考えると、消費税は大切に必要なのだと思います。こんな私でも、お年寄りの生活に少しは役立っているのだと感じ、何だかうれしくなった。

私は、他の税金の使い途についても、インターネットで調べてみることにした。税金は公共事業関係、教育費、国民医療費、警察や消防費等に充てられていることがわかった。税による収入がなければ、学校や図書館、病院は運営できなくなる。ごみ収集もなくなり、街はゴミだらけで不衛生になる。治安

が悪くなり、安心して外出もできない。街中が荒れ放題になってしまふ。私達が安心して快適な毎日を過ごせるのも、また、友達と楽しく学校生活を送れるのも、すべては税による収入が根底にあつてこそのことだということがわかった。

税金は、みんなで社会全体を支えていくためのお金である。現在中学生の私達も、将来は税の主な担い手となる税について、もっといろいろなことを学習し、税のあり方や使い途について考えていく必要があると思う。今後ますます少子高齢化が進み、労働人口が減るため、税の引き上げはやむを得なくなるだろう。それを必要最小限に抑え、国民の負担をできるだけ軽減するために、税の無駄使いをなくす必要がある。これからの社会は、私達が支えていかなければならない。だから、私は、税についてこれからも真剣に考えていきたいと思う。

税金のおかげで

志免町立志免中学校

二年 吉見 小雪

私は、小学校二年生のときに手術をしました。小さい頃から体が弱く、すぐに病気にかかっていました。なので、幼稚園はあまり行っていません。小学生に入ってから、よく休んだりして

いました。しかし、そんな生活の中でも、勉強をしたり、友達と遊んだりして、毎日充実した日々を送っていました。ところが、小学校二年生のときに高熱を出し、福岡大病院に救急車で運ばれました。すると「りんご病」という病気であることが分かりました。しかし、それだけではありませんでした。もう一つの病気が見つかり、その病気は血液をどんどん破壊していく恐ろしい病気だったのです。これではいつまでたっても元氣になれません。なので、手術することを決めました。小学校二年生の私にとって辛いことでした。夜は部屋に私しかなくて、心細くて夜中母に電話したこともありました。わざわざ、お気に入りだった黒ネコのぬいぐるみを持って来てもらったときもありました。大変な日々が続き、やっと手術する日がきました。時間はかかったけど無事成功しました。

手術する前までは運動が大の苦手でした。元氣になるために、三歳から始めていた水泳で、手術後はほとんど体力をつけていき、今では、手術前までは考えられないくらい長距離が得意な種目になりました。そのおかげで、中体連ではたくさん入賞することができ、いい思い出ができました。

少し経って、「私はこんなに元氣になれたんだから、手術費と入院費って結構かかったんだらうなー。いくらぐらいかかったんだらう。」と思い、母に尋ねたら、「入院費はかかったけど、

手術費は国が負担してくれたんだよ。」と教えてくれました。私はビックリしました。こんなところにまで税金が使われていることを初めて知ったからです。私は、このことを知るまでは「税金なんてなくていいのに。何か買ったときに、どうして五パーセントもの消費税を払わなきゃいけないの!？」と思っていました。しかし、今は「税金のおかげで、こんなに元氣でいられるんだ。税金のおかげで、スポーツに打ち込むことができるんだ。」と思うようになりました。

私は自分の病氣を通して税金の大切さを知ることができました。税金を負担に思うのではなくむしろ、今は税金に感謝したい気持ちでいっぱいです。私みたいに急に病氣になっても、しっかり治療できます。税金のおかげで毎日学校で勉強したり、友達と楽しく過ごすことができます。

これからも、教育、福祉、医療など私たちの生活が豊かで充実したものになるために、税金は必要だと思います。

私たちの暮らしを支える税金

雲仙市立吾妻中学校

二年 木本 冴

私の姉は大学生で、今は福岡県の宗像市に住んでいます。両親は時々様子

を見に行くのですが、その時はいつも高速道路を利用しています。今年の梅雨の大雨で高速道路が通行止めになった時も、両親は車で姉の所へ行ったのですが、高速道路が通行止めになった影響で、一般の道路はひどい渋滞だったそう。普通なら二時間半程度で行ける姉の所へ、四時間近くかかってやっと着いたそうです。家に帰った両親が「高速道路のありがたさが良く分かった。」と言っていました。テレビのニュースで、お盆前に復旧できたと言っていたのを聞いたので、混雑がひどくなる前に開通できて本当に良かったと思いました。

このことに限らず、日本は世界的に見ても梅雨の大雨、台風、地震など、自然災害が発生しやすい所だと言われています。私の住んでいるここ、島原半島でも、私が生まれる前に、雲仙普賢岳の噴火によって火砕流や土石流が発生し、多くの人が亡くなり、また多くの人が住む家を失くしたそうです。田畑や仕事場を失い、ふるさとを後にして他の町に移り住んだ人たちも数多くいたと聞きました。

普賢岳災害が収まって間もない頃、私は姉といっしょに火砕流で焼けてしまった普賢岳のふもとに植樹をする行事に参加しました。そのときに見た被災地の様子は今でも良く覚えています。道路はあらゆるところで壊れて、家は二階の途中くらいまで土砂に埋まり、田畑にいたってはどこにあったの

かも分からないような状態でした。それから何年か経過し、両親から「あのとき植えた木がどれくらい育っているか見に行こう。」と言われて、植樹をした場所へ行ったのですが、被災地の変わりように驚かされるばかりでした。道路は以前よりも広く整備され、農地もきれいに復旧され、住宅地も整備されて新しい家が建てられていました。土石流の発生にも対応できるような施設や川の整備も行われ、ここが普賢岳災害を受けた場所であるとは、当時の様子を知る者でなければ分からないと思えるほど復旧が進んでいました。

このような自然災害の被災地の復旧にも、税金が使われていると聞きました。私の住む吾妻町でも、これまでに何度も大雨や台風による被害を受けてきたそうですが、そのたびに復旧工事が行われ、税金によって地域に住む人々の生活が守られてきたのだそうです。

道路や電気、ガス、水道などは、私たちの生活に欠かすことのできないものですが、自然災害によってこれらのものが壊されたとき、一日も早くみんなの生活を元どおりにするために税金が役立てられている、そう考えると税金が、普段はあまり意識することはないけれど、いざという時とても頼りになる、まるで縁の下の力持ちのようなもので、とても身近に感じられました。

私たちにもある、税金を払う義務。

江迎町立江迎中学校

三年 吉 永 さくら

「税金は何故必要なのでしょう。」このように問われた時、私は自信を持って答えることができませんでした。何故なら、十代である私が払っている税金とは消費税くらいで、私自身そんなに負担になっているわけでもなく、何かを買う度についてくるあたり前の存在だったから、それが何に使われているのかなどとは考えたこともなかったからです。

しかし、中学生になり色々な人達とのかかわりや日本経済の学習を学んでいくなかで、税金とは私たちの生活になくてはならないものであることが少しずつわかってきました。

日本の税制が初めて全国一元的に確立したのは、701年の大宝律令。この時代ではまだ納税は現金ではなく、租・庸・調といった稲や布、地方の特産物、労役などでした。

しかし、時代は変わり明治時代になると、税収の安定化を図るために1873年に地租改正を実施し、今までの年貢米などの物納から現金による金納制度へと変わっていったそうです。

そして今現在も、すべての民主主義国家では国民を代表する議会が定めた

法律によってのみ税金がかけられ、日本でもすべての国民が納税の義務を負っています。私もその一人です。

そうして集められた税金は、道路、港湾、上下水道、公園などの公共施設や教育、社会保険、生活保護、警察、消防などの公共サービスに使われ、私たちの生活を安全で豊かなものにするための手助けをしてくれています。

つまり、これらのことから私が思う税金とは、国民が笑顔で暮らせるために国民全員で協力して行なう貯金みたいなもの。

しかし、成人して就職したり家庭をつくる中で、新たな生活への期待と共にほとんどの人がお金の不安や悩みを抱えています。そのうえ、今まで払ったこともなかった所得税や住民税、その他多くの直接税や間接税も自分で負担しなくてはなりません。

しかも、少子高齢化が進む近代国家では、一人あたりが負担する税金も増えていくのではないのか、などのような不安もあり、私は成人した時ちゃんと税金を払うことができるだろうか、なんて思っていました。

しかしどの時代の人達も同じように苦勞しながら納税してきました。簡単なことではないけれど、それでも飛鳥時代から伝わり続け、なくならないのは、税金のおかげで私たちの生活が成り立っているからなのだと思います。そして国民一人一人が協力し支え合ってきたという証なのだと思うのです。

だからこそ、未来を担う私たちにも、これからも国民一人一人が協力し合い税金を払っていく義務があるのだと思います。

だから私は、税金を払い、租税法主義の生活を守っていいと思います。

税は社会を動かす エネルギー

熊本大学教育学部附属中学校

一年 内田大貴

「どうして税を治めなければならぬのですか。またその税は何に使われるんですか。」

ぼくは、税理士である祖父に尋ねた。

祖父は、

「大貴が体を動かすためには、食べ物というエネルギーがいるね。税金は社会を動かすために必要なエネルギーになるんだよ。」

と教えてくれた。なる程、ぼくたちの生活は税によって支えられている。小学校二年生の時、先生から、

「今、みんなが持っている教科書は、税金といって、あなたたちの親が国に治めたお金で買っているのよ」と教わった。今まで何も考えず、使っていた教科書、教室、体育館、通学する道路も、すべて税金でまかなわれていたのだ。当たり前すぎて考えたこともなかったが、税金がなければ、ぼく

たちは、きちんと学ぶことさえ出来ないのだ。父がよく訪づれるアジアの国々の中には、今でも学校に行けずに働いている子ども達がいる。父はぼくと同年代の子ども達を見る度に、胸が痛んだという。ぼくたちがあたり前だと思っていることが、実はすごく恵まれていることに気づく時、祖父の「税は社会を動かすエネルギーだ。」という言葉が本当の意味でわかった気がした。

また、祖父は税理士として仕事をする中で信念にしている事がある。それは、納税者の権利を一番に考えながらも、きちんとルールを守り、納税の義務を果たすという事だ。そんな祖父の傍らにはいつも分厚い本があり、度々変わっていく税法に対処している。祖父は、納税者が国へ正しく税金を治めるための大切な仕事をしているのだ。そんな祖父を、ぼくは誇りに思う。母からは、

「中学生まで無償で教育を受けられるのは、税金のおかげだよ。大人になったら今度はあなたが払う税金で、次の世代の子ども達が勉強するんだよ。」と、よく言われた。なぜ幼いぼくにそんな事をくり返し言っていたのか。たぶん母は人から受けたものを返す事、納税の必要性を子どもの時から意識させたかったのではないだろうか。

だとすれば、税は社会を動かすエネルギーであると同時に、人が人と思う気持ちの形にしたものではないだろうか。

か。誰かがくれたやさしさを、今度は自分が返す。そう考えると、その絆を守るためにも、税は正しい使い方をされなければならない。そして税が本来に必要とされている事に使われ、それがきちんと納税者に示されることがますます重要になってくるだろう。そしていつの日か、ぼく自身も、社会を動かすエネルギーの一員、責任ある納税者になりたいと思う。

税金の大切さ

宮古島市立城辺中学校

三年 砂川綾伽

ある日新聞を読んでいると「新宮古病院に十億円」というタイトルが目にとまりました。「えっ！もしかして十億円もの大金が国から支出されるの？」と思い、新聞を読んでもみましたが内容が難しくよくわかりません。そこで祖父に尋ねてみることにしました。すると、予想通り「国民が納めた税金から出たお金なんだよ。」という答えが返ってきました。「へえー、税金ってこういった病院を建てる時に使われているんだ。」と感心しました。

それまでは税金に対して「何故払っているのだろう」「イヤだなあ」というふうにしかなかったことがなかったのに、この「病院建設」の新聞記事を読んだことをきっかけに、税金について

もっと知りたいと思うようになりました。

そこで私は、夏休み前に社会科の先生から配布された『税金と社会のかかわり』という資料を詳しく読んでみることにしました。その資料には、国の収入の約五十パーセント以上が税金であること、「税金」の中にもいろいろな種類があることが詳しく書いてありました。主に会社員や自営業者が納める「所得税」、企業などが納める「法人税」、そして物を買うときに支払う中学生の私が唯一納めているものでもある「消費税」といったいろいろな種類の税があることなど、今まで知らなかったことをたくさん知ることができました。

また、私達が学校で使っている教科書や机、実験器具、道路や消防署、図書館などの公共施設や公共サービスのためにも税金が使われていることや、災害が起こった時、救助に必要な費用を負担するのに、大きな支えになっているのも税金だということを知りとても驚き、税金があるおかげで私達はより良い環境で安心して暮らしているんだなと感じました。

最近の話題では「税滞納者の増加」といった言葉もよく聞きます。それは、国が借金を背負っている原因の一つでもあります。税金滞納者が増えるのは、以前の私のように税金が何の役に立っているのかをよく分かっていない人が多いからだと思っています。税金が私達の

生活にどれだけ深く関わっているのかを理解すればきつと滞納者は減ると思います。

さらに、国民一人一人が税金の仕組みの素晴らしさを知り、しっかりと税金を納めてくれること、そして、そのお金を動かす人達が無駄な使い方をなくし、税金の持っている力を最大限に活かして欲しいと思います。

私はこれまで税に対して「取られてる」そんな考え方しかできませんでした。しかし、税について多く学べた今「税はすごく大切な物」と強く思えるようになりました。

将来、一生懸命働いて自分の納めた税金で一人でも多くの人の暮らしが良くなっていく力になれるような納税者になりたいと思います。

日本税理士会連合会 会長賞 受賞作文

私のいる世界

つくば市立吾妻中学校

二年 羽鳥 静華

『この教科書にはこれからの日本を担う皆さんへの期待を込め、国民の税金によって無償で支給されている教科書の裏表紙の片隅に小さな文字

が並ぶ。これを見つけたのは、小学生の頃だった。低学年の頃は何回も配られる教科書にいつも書いてあり、不思議に思っていた。成長するにつれて言葉の意味を理解出来る様になっても気にとめる事はなかった。しかし、義務教育を受けて八年目の今、私が思うのは『当たり前という事の尊さ』だ。

学校に行けて当然、勉強して当然、必要な物や環境が揃って当然、と皆思っていると思う。私もその内の一人だったが、年を重ねるにつれて視野が広がり、世界には義務教育さえまともに受ける事が出来ない子供達が大勢いる事を知った。

私が日々学べるのは、国民の支えがあつてこそだ。大人の方々が税を納めて下さるお陰で学校が建ち、教科書が作られる。もし税制が無かったら、平等な教育を受ける事が出来ないどころか、日々の生活さえ厳しい状態の子供も大勢出てくると思う。そう思うと改めて税の支えの大きさを感ずる。

私は、よく母親に

「自分の境遇に感謝しなさい。」

と言われる。昔は、何回も何回も同じ事を繰り返して言うので聞き流していたが、今では言われる度にずしりと心に響く様でその言葉に込められた意味の重さを知った。

日本は、先進国の中でも税金や国のお金の中から巨費を教育分野に投じているそう。その事を知り、教科書に込められた大きな期待、人に支えられ

て生きている事を実感した。私を支えてくれているのは親や身近にいる大人だけではない、私の見えない所で顔も知らない多くの大人の方々が毎日汗を流して働き、それを国に税金として納めて下さるからだ、と気付いた。母の言う、境遇に感謝するという事はこういう事なんだな、と感じた。

今までの自分の言動や生活を省みると、無責任な行動をとってしまった事が多々あった。それは親の期待は勿論の事、日本の未来を裏切る事にも繋がりが兼ねない。私は、身近な事から少しずつ、自らを律して将来を担う責任を自覚する事が必要だと感じた。

国の税で育てられる私。税は、私に幾つもの将来への扉を開けてくれる。そのお陰で私は机に向かって勉強ができ、国の文化財をいつまでも見る事が出来る。安心して生活出来るのも税のお陰だ。これらはすべて当たり前のお事ではなく、必然が重なった恩恵だと気付いた。この境遇に私は感謝し、自分を成長させていかなければならないと思う。

これからは、教科書の小さな文字に込められた想いを大切に、恵まれた環境の中で様々な事を学び、将来の日本を担う事の出来るしっかりとした大人を目指し、自分の足で一步一步、前へ歩みを進めていきたいと思う。

税が築くもの

豊島区立巢鴨北中学校

三年 吉田 のぼら

私は小学生のころ、よく街頭募金箱に小遣いの小銭を入れていました。多くの人が行き交う駅前や繁華街でも足を止める大人は少なく、なぜもっと多くの人が募金しないのだろう、助け合いの精神を持つべきではないか、と感じていました。けれど、社会の仕組みを知るにつれて、税というシステムそのものが相互扶助の精神の上に成り立っているものであると、理解できるようになっていきました。現在の私は、公立中学校の生徒としての教育費や、区から支給されている医療証などが、特に自分のために使われている税金であると実感しています。それらの費用には、自分の両親だけではなく、見知らぬ誰かが納めた税が含まれているのだということを意識し、その恩恵に感謝しています。

税は社会生活を築き支える根幹であり、使命を持ったお金です。真に豊かな国として繁栄するためには、税は特に社会的に弱い立場の人たちに厚く使われることが望ましいと私は考えています。弱者が救済されない社会は健全とはいえないからです。平等とは皆が同じ負担を受け持つことではないはずです。健康や能力に恵まれた人間が多

くの収入を得られるのであれば、その力を税という形で社会に多く還元するのは当然のことです。弱者を支える福祉の充実こそが、すべての人間を平等に見据える健全な社会の在り方だと思っています。

スウェーデンは福祉先進国といわれています。その充実した社会保障を支えるために国民は非常に高い税金を納めています。実際には自分たちに還元される実感が得られているため、不満はほとんどないそうです。出産から老後に至るまでの大きな経済的負担の多くが税金で賄われるので、国民は安心して自由に使えるお金を消費できます。その結果として産業も活性化され、経済サイクルの安定も促され、物質、人、心ともに豊かな国の実現につながっていくのではないのでしょうか。

税で安心を保障できるのであれば、それは治安の改善、国家の安寧にもつながります。人間は衣食足りて礼節を知るといわれます。発展途上国の治安の悪さには、生活への不満、将来への不安など、貧困から来る心の問題が大きく影響しているはずです。日本でも不況を背景とした犯罪は多く発生しています。経済的な困窮は人間の尊厳を奪い、心を荒ませます。安定した収入を得られるように能力を授ける教育、困ったときに確実に受けられる援助制度、老後の保障、今以上に、そういったものに税が有効に使われれば、結果として、多くの人が常に安心して暮ら

せる治安の良い環境を手に入れることが出来ると思うのです。税は一方通行ではありません。様々な形でその恩恵は巡り、人と社会を潤し、より良い未来を築いていく素晴らしい制度である、私は信じています。

私達の未来と税

豊田市立朝日丘中学校

三年 山田 紗帆

百年に一度と言われる金融危機の影響で、日本経済も大打撃をうけている。私達の住む豊田市でも、自動車産業の停滞により、市の予算の見直しがされた。小さなことだが、市の広報のカラーページがなくなったり、資源回収への補助金が減ったりしている。まさに、国・県・市、そして家庭が、やりくりしていくため、様々な努力をしている最中だ。

私達が安心して生きるために父母は一生懸命働いてくれている。私が今まで知っていたお金の動きは、この父母が働いて得てくれたものだけだ。しかし、税金という仕組みにより私達の生活が支えられているということを学んだ。

学校で勉強したり、病院で診察をうけたり、ゴミを処理してもらったりするといった身近な事に税金が使われている。あたり前に思っていた日々の生

活が、国民一人ひとりの納める税金と、その使い道を予算化して活用してくれる人達によって守られている。国民がもつ「納税の義務」は、自身の生活を支える上で必ず守らなければならないことだ。だから、脱税をすることは、自分の生活にも悪影響をおよぼす、ということをよく考えなくてはならない。また、少子高齢化による社会保障費用の増加や公債残高の問題などから、消費税の引き上げ等の税制の見直しもはじまっている。「今ですら生活が苦しいのに税金がこれ以上増えたら大変だ。」という反対意見もあるそうだ。どちらの考えもわかるからこそ、難しい問題だと思った。

私は、外国の税制のあり方を考えることが、この問題を解決するヒントを与えてくれると思う。例えば、スウェーデンでは、日用品には日本より多くの税金がかけられているが、教育費や福祉にはお金がかからないため、老後のための貯金の心配がいらない。日々の生活にかかる税金にはほとんど負担を感じないらしい。逆にアメリカは税の負担が少ない分医療保障制度がない。オバマ政権が医療保険制度改革を提案しているけれど、それにより増税となる人々からの反対も大きいそうだ。

このようなことから考えると、何にどれだけ税をかけ、誰がどれだけ負担をし、どのように使うのが一番かという答えは簡単には出そうにない。ただ、

国民が納めた税金が、本当に必要な所に、困っている人のもとに、無駄なく使われることがまず第一だと思う。

国民の一人ひとりが納めた税金が、正しく使われていき、その結果、私達の生活の充実につながっていく。この基本的な税のシステムをしつかりと理解し、整えていくことが、私達の未来を作っていくことになるのだろう。

私も近い将来自分が働いて得たお金で税を納めるようになる。その時のために、税に対する正しい知識と関心を持ち続けたい。税あってこそ、私達の明るい未来があるのだから。

宇宙開発と税

学校法人洛南高等学校附属中学校

三年 西井 奈那

先日、若田光一宇宙飛行士が日本人初の宇宙での長期滞在を終え、出発から一三八日後に地球に帰還したというニュースが話題になりました。

若田光一さんは国際宇宙ステーションで日本の実験棟「きぼう」を完成させました。

日本が完成を悲願していたこの「きぼう」で、無重力下での様々な実験が、日本自身の管理のもとでできるようになったのです。長期にわたる実験で、地上の生活をより豊かにするような新技術を生んでいけるといいます。

日本の宇宙での活動が、また新しい一歩を踏み出した。帰還直後、笑顔でしっかりと歩く若田さんをテレビで見、私はそのことを実感しました。

しかし、もう一つ驚いたことがあります。「きぼう」の完成に、日本はなんと二五〇〇億円もの大金を費やしたのです。そしてその二五〇〇億円は、全て私達国民が払っている税金からくるものなのです。「きぼう」の開発だけではありません。これまで日本は「きぼう」の開発費二五〇〇億円を含め、地上設備や実験装置の開発費、宇宙飛行士の養成などに合計六三〇〇億円を投じたそうです。今後も、毎年約四〇〇億円がかかるといえます。なぜこんなにも宇宙開発は重要視されるのでしょうか。私達は、なぜ宇宙開発のために、税を納めなくてはならないのでしょうか。

そう思ったとき、新聞に載っていた若田さんのインタビューでの言葉が目につきました。「宇宙での活動は人類が存続していくうえで避けられない。未知の探究を拒絶したら減じる。」

宇宙開発などして何になるのだ。地上でのことをしっかりとすればそれでいい。そうではありません。新しい医薬の製造、高齢社会に対応する新技術など、宇宙開発によって生み出され、地上での生活に生かされるものがあるのです。私達が納める税金も、無駄に使われているのではなく、未来のよりよい暮らしのために活用されている。若

田さんの言葉でそのことに気付かされました。

私達の払う税金が、教育費、治安維持などの身近なところで活用されているだけでなく地上四〇〇キロを周回する国際宇宙ステーションという遠く離れたところでも活用されていると考えたと、素晴らしいと思います。

私はまだ、中学三年生であり、納税をしていません。しかし、これからもこのように税金について考え、どのように役立っているのかということを知って、税金の意義や納税の必要性を理解しながら、大人になってからはしっかりと義務を果たし権利を主張できるようにになりたいです。

支え合う暮らしと これからの私

福岡教育大学附属福岡中学校

一年 太田 美佳

最近私は、自分の将来について考えることが多くなっています。今の日本という国の成り立ちと仕組みを知ること。それが自分の進路や将来を決める材料の一つになる。そう両親に言われ、少しずつ学んでいるところです。税金はそういう意味でとても気になるものの一つです。今の私にとっての身近な税金と言ったら、消費税くらいですが、義務教育の間の教科書も、消火・救

急も、警察なども、費用は全て税金です。さらに科学技術、芸術・文化の振興も、ゴミ処理もやはり税金でまかなわれています。このことを父母や周りの人たちから少しずつ教えてもらってきました。私や家族や周りの人たちにとって、一見あたり前に感じている、非常に基本的なことのほとんどに、税金が使われています。そして、税金が使われ方は、いろんな要因で変わってきています。たとえば無駄使いの問題、環境対策、温暖化対策や毎年のような風水害、地震への対策のような新しい課題があります。また、少子高齢化の急速な進展は、医療・福祉問題と同じく国の存続に関わる大きな課題です。この解決にも税金が使われるのです。

税金を支払うこと、「納税」。これは、「勤労」とともに成人した国民の義務となっけています。ですから私たちの祖父母や両親などは何十年も納税しています。皆で公平に分担し合って、社会の運営に参加しているのです。だから納税は、非常に重要なことだし、大きな責任があることだと思います。ですから「一人前の社会人」としての最低条件だと私は考えています。

ところで、税金は政策のために使われます。ある意味では、よりよい社会を作り、そこで生きるための手段といえます。では納税の仕組みはそれを実現するための資金を出すルールだといえると思います。そしてそこでは目標としてどんな社会、国を望むのかを考

え、まず決めなければなりません。手段、資金だけあっても何も成就しないのです。そこに関わる人々の実現のための行動が欠かせません。つまり、まず目標、手段、ルールを考え決めること。それとその後、行動に全ての国民の一人一人が真剣に参加する事が重要だと思います。

そのために中学生の私は、今の税制や使途についてもっと学びたいです。それとともに、目先の経済だけでなく日本の歴史と諸外国の成り立ちや仕組みへも理解を深めていきたいです。あと七、八年で成人となり、社会に出ていく私たち。だから将来自分たちの望む社会の決定と行動のために、もはや無関心ではいられないと感じています。

第43回 中学生の「税についての作文」応募状況（前年対比）

（単位：校、人）

国税局	県別	応募校数			応募編数		
		21年度	20年度	増減	21年度	20年度	増減
札幌	北海道	199	192	7	9,818	8,701	1,117
仙台	宮城	87	91	-4	2,918	3,136	-218
	岩手	80	85	-5	2,738	2,915	-177
	福島	172	186	-14	7,288	7,068	220
	秋田	95	96	-1	5,308	5,193	115
	青森	46	38	8	649	523	126
	山形	78	76	2	3,994	4,584	-590
	計	558	572	-14	22,895	23,419	-524
関東信越	埼玉	354	352	2	39,694	38,359	1,335
	茨城	204	202	2	16,917	15,735	1,182
	栃木	143	141	2	8,123	8,503	-380
	群馬	155	146	9	11,140	9,904	1,236
	長野	97	76	21	4,360	2,896	1,464
	新潟	156	148	8	7,495	6,534	961
	計	1,109	1,065	44	87,729	81,931	5,798
東京	東京	657	648	9	63,901	60,025	3,876
	神奈川	374	365	9	29,475	26,392	3,083
	千葉	358	345	13	35,114	33,628	1,486
	山梨	83	83	0	4,314	4,479	-165
	計	1,472	1,441	31	132,804	124,524	8,280
金沢	石川	61	52	9	2,207	2,510	-303
	福井	52	59	-7	2,955	3,461	-506
	富山	59	64	-5	1,746	1,713	33
	計	172	175	-3	6,908	7,684	-776
名古屋	愛知	280	271	9	19,967	20,871	-904
	静岡	202	201	1	12,455	11,228	1,227
	三重	45	42	3	1,596	1,281	315
	岐阜	79	91	-12	2,869	2,831	38
	計	606	605	1	36,887	36,211	676
大阪	大阪	428	417	11	46,030	41,113	4,917
	京都	156	145	11	11,350	9,940	1,410
	兵庫	316	312	4	30,925	28,426	2,499
	奈良	106	105	1	14,106	13,628	478
	和歌山	137	138	-1	13,295	13,053	242
	滋賀	98	94	4	8,850	8,320	530
	計	1,241	1,211	30	124,556	114,480	10,076
広島	広島	177	170	7	8,937	8,106	831
	山口	105	108	-3	3,155	2,751	404
	岡山	114	106	8	3,386	2,590	796
	島根	35	39	-4	940	882	58
	鳥取	22	29	-7	451	823	-372
	計	453	452	1	16,869	15,152	1,717
高松	香川	65	63	2	3,430	3,967	-537
	愛媛	102	103	-1	7,647	7,291	356
	徳島	89	88	1	7,704	7,214	490
	高知	60	60	0	2,567	2,737	-170
	計	316	314	2	21,348	21,209	139
福岡	福岡	339	338	1	35,283	33,681	1,602
	佐賀	91	82	9	8,117	6,232	1,885
	長崎	172	169	3	12,936	13,075	-139
	計	602	589	13	56,336	52,988	3,348
熊本	熊本	110	116	-6	6,964	7,333	-369
	大分	95	91	4	5,083	4,988	95
	鹿児島	97	116	-19	3,357	3,375	-18
	宮崎	61	54	7	2,382	2,507	-125
	計	363	377	-14	17,786	18,203	-417
沖縄	沖縄	122	116	6	8,953	8,371	582
全国計		7,213	7,109	104	542,889	512,873	30,016
応募割合		66.4%	65.1%	+1.3 P	15.1%	14.3%	+0.8 P

（注）「増減」欄の数値は、前年度から増加又は減少した数を示します。

注 意 事 項

今後実施される中学生の
「税についての作文」募集
に当たり、中学生の皆さん
が応募作品を作成される際、
この作品集に収録されてい
る文章を、そのまま引用す
ることはできませんので、
ご注意ください。

平成二十一年十二月発行

発行 全国納税貯蓄組合連合会

住所 〒一〇一〇〇四一

東京都千代田区神田須田町一―十四AKビル

電話 〇三―三二五四―一〇四五

国税庁

住所 〒一〇〇―八九七八

東京都千代田区霞が関三―一―一

電話 〇三―三五八一―四一六一

